

令和4年度 第1回奈良市公民館運営審議会 次第

日時：令和5年2月15日（水）13時00分から

場所：奈良市役所北棟4階 402会議室

開 会

教育長あいさつ

案 件

(1) 新役員選出

(2) 令和3年度公民館事業実施状況及び利用状況について

(3) 令和4年度公民館事業の進捗状況について

(4) 令和4年度公民館大会についての報告

・令和4年度近畿地区社会教育研究大会〔奈良大会〕

第33回奈良県社会教育研究大会及び第69回奈良県公民館大会合同大会（奈良市）

〔令和4年9月2日（金）〕 報告者（野田委員、伏浦委員）

・第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会

〔令和4年11月10日（木）〕 報告者（野田委員、東委員）

(5) その他

第37期 奈良市公民館運営審議会委員

氏 名	所 属 ・ 役 職 等	備 考
東 拓 実	天理大学 学生 (生涯教育専攻)	
虎 杖 徳 明	都南中学校区地域教育協議会 会長 明治地区自治連合会 副会長	
今 西 康 乃	NPO法人大宮地区社会福祉協議会 理事長	
奥 村 麻希子	鳥見地区社会福祉協議会 会長	
杉 山 晋 平	天理大学人間学部 准教授 人間関係学科生涯教育専攻	
野 田 幸 生	寧楽将棋教室 代表	
橋 本 幸 子	なら子育てネットワーク 代表	
福 西 正 剛	奈良市立ならやま小中学校 校長	
伏 浦 和 美	奈良市国際女性交流協会 会長	
森 輝 雄	奈良市運動習慣づくり推進員協議会 会長	
吉 岡 毅	奈良県青少年指導員	

(五十音順)

※令和4年5月13日から令和6年5月12日

生涯学習センター

奈良の方言講座(123人)

方言は地域の文化を伝え地域の豊かな人間関係を担うものである。そこで、奈良の方言の知識や理解を深め、方言を永続的に尊み豊かな心を育てることを目的として全2回開催した。講座開催までに、済美地区の年配の方より聞き取り調査を行った。「奈良県にはいろんな言葉があるのがわかって楽しかった(70代)」「方言を通じて奈良の変容(ことば)がわかって良かった(70代)」などの声があった。



簡単脳トレ&イス体操(92人)

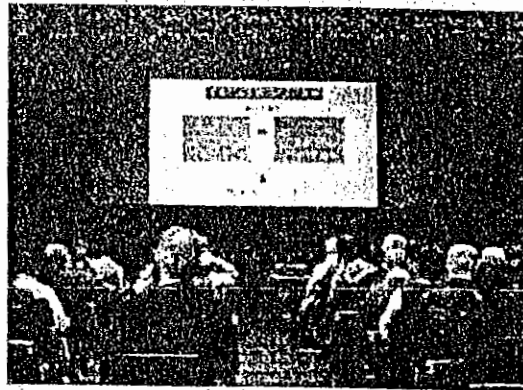
高齢者の体力維持や認知症予防を目的として開催した。簡単な脳トレで普段使われていない脳の機能を活用するように促し、また、イスに座ったままできる簡単な体操を学んだ。全7回の講座で定員20人のところ65人の応募があった。コロナ禍になり、体を動かしたいという要望が多くあった。



中部公民館

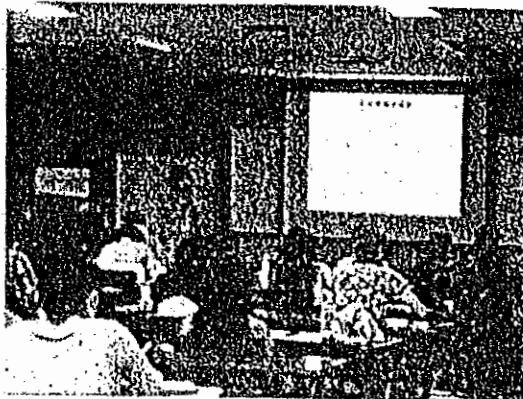
江戸時代の奈良観光―旅人たちの日記から―(94人)

歴史や文化について学ぶ機会を提供することで、今後の学びの糸口にしてもらうことを目的に、立命館大学奈良県北部校友会「立命文華会」と共催。江戸時代の旅人たちが書き残した道中日記から今につながる奈良観光の実態を解き明かした。アンケートからは、「江戸時代から奈良は観光の町で、賑わっていた様子がわかり、興味深かった」「奈良観光の誕生物語を聞き、おもしろかった」などの声があり、受講生の知の好奇心をふくらませることができた。



最高の人生の見つけ方～生前整理でスッキリと～(87人)

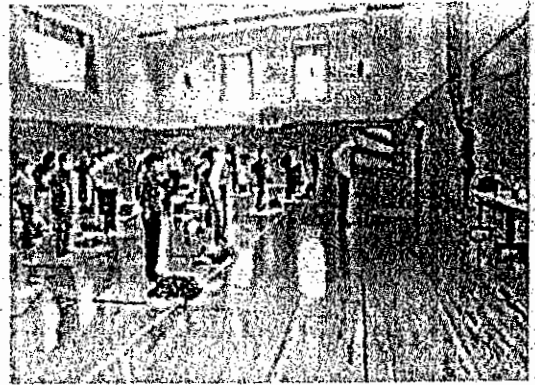
いざという時、残された家族や親族に迷惑をかけないように終活を目的に、全2回実施。思い出の品や写真の整理術、マイ情報カードの書き方などを学び、アンケートからは、「片付けや整理をすることで、安心して楽な生活ができそう」「整理整頓は自分や物と向きあう事だと分かったので、すぐに実行したい」などの声があり、盛況だった。これまでの人生を振り返るとともに、今後の人生をよりよく生きるための方法を学ぶことができた。



西部公民館

体を整える体操教室(268人)

体の歪みを整えて、自らの自然治癒力を引き出す体操や呼吸、歩行について全3回にわたり学習。定員50人を上回る応募であったが、使用室は広い体育室でもあり、開催時間を分けた2部制とし、全員を当選として開催した。「無理なく続けられる体操を教えてもらえた」「骨のしくみなどから、どう動かしたらよいか等、とても勉強になった」「おだやかに楽しく受講できた」等の声をいただき、成果を得た。



はじめての“金継ぎ”(42人)

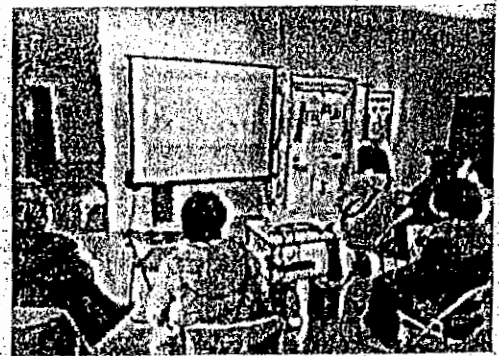
公民館を身近に感じてもらうことを目的とした、初心者向けの入門講座として開催。漆芸家を講師に迎え、新漆を使った金継ぎの実習と本漆を使った実演を学んだ。参加者のアンケートからは「簡単にお直してきて、本物の技術を見せて頂き、大変価値のある講義だった(40代)」「長年気になっていた陶器を、自ら金継ぎできるのが最大の魅力だった(60代)」などの声が聞かれ、受講生や講師との交流が広がり、公民館の今後の講座や既存の自主グループ活動にも興味を持ってもらうことができた。



南部公民館

南部公民館まつり(247人)

自主グループの成果発表の場や交流の場を提供し、地域の生涯学習の推進を図ることを目的に作品展示、映像での学習発表を3日間実施した。「発表の機会があるのは励みになった(70代)」「作品を通して普段見ることがないサークル活動が見れて、とても楽しかった(60代)」等の声が聞かれた。来場者が多く、地域住民に、改めて生涯学習の楽しさを知ってもらう機会となった。



あそびの基地～けん玉～(83人)

昔ながらの遊びである「けん玉」を通して、子どもから大人まで交流できる場となることを目的に開催。けん玉を使ったレクリエーションゲームや技のレクチャー、けん玉認定試験などを実施した。「子ども達が集中して取り組んでいる姿を見られて大変良かった(50代)」「『悔しい』気持ちを経験させること、できた時の『うれしい』『楽しい』を共感することができてよかった(40代)」などの声が聞かれた。



三 笠 公 民 館

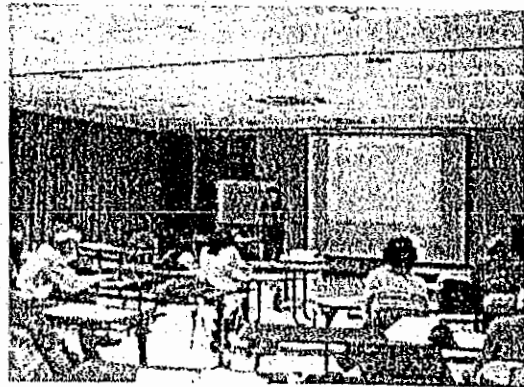
なら・風呂歴史探訪 (59人)

風呂の歴史を現地学習を通して学ぶことで、郷土への愛着を深め、健康増進や福祉についての視野を広げることが目的として開催(全3回)。全回とも受講生の9割以上が参加し、アンケートからは「法華寺の浴室(からふろ)」に入れてよかった。(ならまちも)あまり歩いたことのない場所もあり新鮮だった(60代)」「法華寺もならまちも、知らなかったことが多くとても楽しく学べた(70代)」等の声が聞かれ、非常に満足度の高い事業となった。



命をつなぐ支援の力 (23人)

コロナ禍により生活困窮者や生きづらさを感じる人が増加するなか、身近な支援について知ることを目的として開催(全2回)。無戸籍支援とフードバンクについての講演会を実施した。アンケートからは「無戸籍の問題やフードバンク等深く知る絶好の機会だった(70代)」「自分の身近でも出来る支援があるのではないかと、気をつけていきたい(80代以上)」等の声が聞かれ、本事業を通し、自分にできる支援について考える機会となった。



田 原 公 民 館

プチ田舎暮らし・田原一桜の塩漬けー (54人)

奈良市東部地域において地域の自然・歴史・風習・食・技などに触れて田舎の暮らしを知り、農作業などの体験をすることにより、生きがいを感じ、東部と市街地の交流のきっかけづくりとなることを目的として実施。八重桜の花を使い、塩漬けで長期間保存できること、さまざまな調理方法があること、香りには抗菌作用、リラックス効果があることなど、桜の魅力について学んだ。



田原やま里ウォーク (18人)

昔ながらの里山風景が広がる田原地区は、古事記の編纂者太安万侶の墓や二つの天皇陵など歴史ある土地でもある。史跡や名所を歩いて巡り、田原地区の素晴らしさを再発見してもらった。「田原地区の歴史的位置づけを理解でき、更に興味が出てきた(60代)」「秋の自然を満喫できて大変楽しむことができた(60代)」等の声を聞くことができた。



富雄公民館

地元主婦に学ぶ！時短！麺料理（25人）

概ね20～50代の共働き世代を対象に、簡単にできて且つ栄養価が高いレシピについて学ぶ講座を開催した。地元在住の主婦を講師に招き、忙しい毎日の食事作りが楽しくできるよう、いろいろな料理にアレンジができる麺料理を学んだ。講師自身も、子育て真っ最中の地元主婦ということで親近感があった。これまでの利用の少ない層に公民館の講座に参加してもらったきっかけとなった。



社会学から学ぶ！夫婦でいることの奇跡！（14人）

夫婦やパートナーの形態がどのように形成されたのか、いかに多様であるかということ、「当たり前」ではないということ、社会学の見地から、歴史と統計資料に基づいて楽しく学んだ。参加者アンケートから、「夫婦のありかたを考えるうえで見方を整理できた」「これが常識、普通という思い込みにとらわれると危険だなと感じた」等の声が聞かれ、人生100年時代の夫婦・パートナー関係を考えてもらうきっかけとなった。



柳生公民館

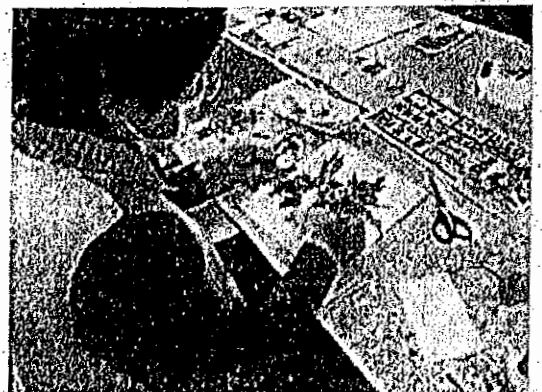
芳徳禅寺で座禅体験！（15人）

柳生の新たな魅力を知ってもらうために開催した。柳生家の墓がある芳徳寺敷地内に併設されている正木坂剣禅道場において、住職の講話や新陰流の演舞を見学した後、座禅体験をおこなった。参加者のアンケートからは、「通常立ち入れない禅堂で座禅ができ、住職のお話も聞けて大変良い経験になった」「剣舞が素敵だった」等の声が聞かれ、柳生の由緒ある建築物を感じてもらっただけでなく、そこに住む魅力的な人についても知る機会となった。



押し花アート(46人)

創作することの楽しみや感性を育てることを目的に開催した。講師が収集した草花や公民館周辺で採れた花を使って、コースター等の小物作りから押し花アートに慣れていき、最後には色紙に作品を作った。参加者のアンケートからは、「たくさんの作品を作れて嬉しかった」「楽しくて時間があっという間に過ぎた。作品を自宅に飾れるのが嬉しい」といった声が聞かれ、創作することの楽しさを感じると共に、今後の生活に潤いを持ってもらうことができた。



若草公民館

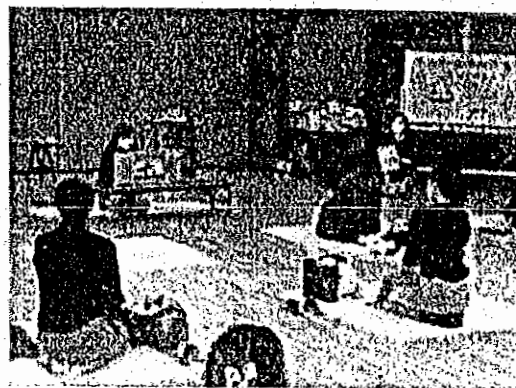
はじめての絵手紙(69人)

家でも描くことができ、生涯続けることができる絵手紙を初心者対象に全6回、開催した。テーマを決め、講師による描き方のデモンストレーションも行い、参加者が基礎を楽しく学んだ。参加者の声では「講師の先生がていねいに教えてくださり、今まで苦手だった絵をかくことが楽しくなりました(60代)」等の声が多く、参加者も他の人が描いた絵を見て声をかける等、交流をした。その結果、自主グループが新たに結成された。



おひざのうでで〜ハッピーハロウィン〜(28人)

コロナ禍で小さな子どもと一緒にイベントに参加しにくいという声を聞いたので、親子で楽しめるような講座を開催した。地域の民生児童委員と協力し、簡単な工作や仮装、紙芝居や音楽を楽しんでもらい、最後は折り紙で折ったものをプレゼントした。参加者から「いつも参加している。楽しかった」「折り紙でこんなかわいい作品が折れて嬉しかった」など、保護者から嬉しい声が多数あった。



登美ヶ丘公民館

登美ヶ丘わいわいフェスタ (1,053人)

「コロナ禍でもできることはないか」と登美ヶ丘地区の各種団体・学校園が連携・協力し、屋外イベントを企画。登美ヶ丘地区社会福祉協議会との共催事業として開催した。晴天の中、中登美ヶ丘近隣公園を主会場として、パフォーマンスショーや音楽演奏、絵の本ひろばや地域の店の出張販売、学校の出店ブースなど、プログラム満載の1日となった。「アフターコロナ」を見据えた新たなスタイルのイベントとして、地域のネットワーク構築の足掛かりとなった。



登美ヶ丘公民館自主グループ作品展示会 (180人)

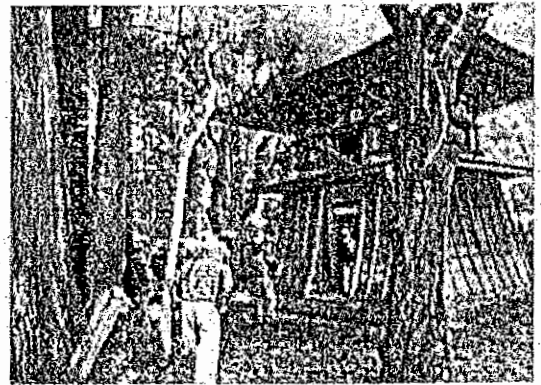
自主グループの日頃の学習成果を作品展示することで、地域住民が公民館を身近に感じ、足を運ぶきっかけとなることを目的に5日間開催。絵画、絵手紙、書道、押し花、アートなどの作品が並んだ。最終日には「フィナーレコンサート」と題し、ケルトや北欧の伝承音楽をアレンジしたコンサートも開催。作品に囲まれた中、温かな雰囲気の中で演奏を楽しんだ。自主グループ同士がそれぞれの活動内容を知る機会となり、交流を深めた。また、公民館活動の一端を紹介する場となった。



興東公民館

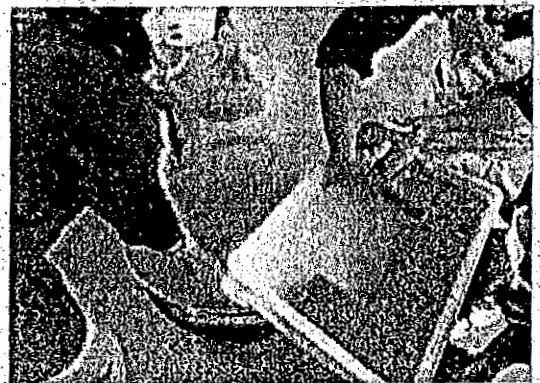
郷土を知る (16人)

興東地域や近隣地域の文化財、歴史、自然について学び、地域を大切に思う心を育むために実施した。今回は、春日大社から若草山山頂を目指し、途中に点在する史跡の説明を講師の方にしてもらった。受講者からは「想像より苦しい道のりだったが、歴史に触れ、雄大な景色を堪能し、奈良の魅力を再発見することができた」「知らない人同士、会話がはずみ有意義な1日を過ごせた」との声があった。



プチ田舎暮らし・興東一こんにやく作りー (10人)

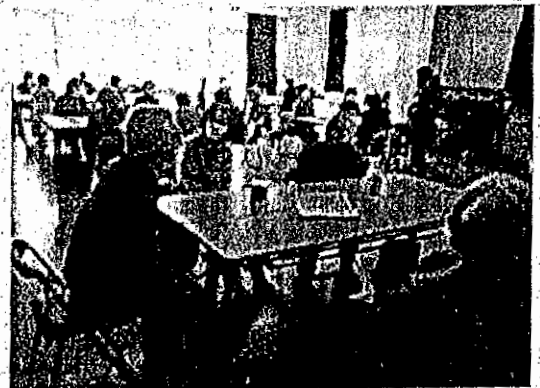
東部地域での風土に根ざした食・農・技を体験できることを目的としてこんにやく作りを実施した。地元で収穫されたこんにやく芋を使用し、水酸化カルシウムの扱い方などを丁寧に教えてもらった。参加者は、栽培方法やどこで手に入るのか等、興味を持ち、「栽培してみたい」との声が聞かれた。市販品では味わうことのできないゆでたての極上のこんにやくに、皆さん感動していた。



春日公民館

元氣つながり倶楽部(312人)

主催事業「市民と創る講座作戦会議」の中で出た意見を反映し、自宅に引きこもり、孤独を覚えがちな高齢者が増えていることから、参加者同士が交流し、孤立や孤独感を和らげることを目的に、全10回開催した。毎回10分間体操と、参加者が講師としてその特技や知識を発揮する機会を設けたり、簡単なゲームやサイコロトークを行った。初めて公民館へ来た人や何十年ぶりに来たという人もおり、高齢者の居場所として定着しつつある。



アジアの文化を知る～お正月のお祝い～(19人)

お正月の祝い方をその背景とともに学びながら、自国文化について改めて知ると同時に、異文化への興味・関心を高め、相互理解を深めるきっかけとして開催した。中国・韓国について、それぞれの国にルーツを持つ当館に登録の中国語・韓国語の自主グループ講師から話を聞いた。参加者からは「旧暦など知らないことが多く、良かった(70代)」や「楽しかった」「もっと知りたい」等の声があり、異文化理解への入り口のひとつとなった。



二 名 公 民 館

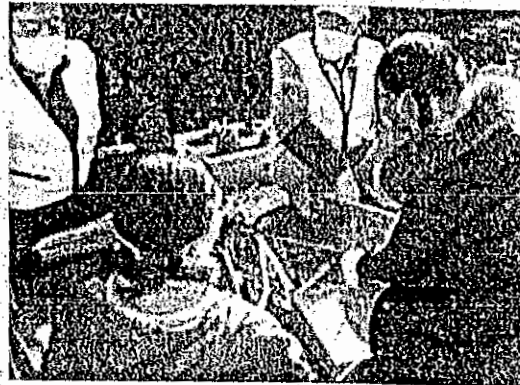
できるを伸ばす！弁当の日～子どもだけで作ってみよう～(51人)

献立・買いもの・調理・片付けまでを子どもが自分でやることで達成感を味わうこと、また食材や人への感謝の気持ちを感じることを目的に2回開催した。また、保護者は子どもにどのような対応と声かけをすれば料理に取り組みやすいかを学んだ。講座終了後も家族に料理を作りつづけているなど、講座での体験が生かされているという報告が多数あった。



さわやかフェス2021(17人)

向かい合わせに建つ公民館と二名中学校を一つのオリエンテーションエリアに見立て、地域の小中学生を対象に防災体験を行った(二名中学校区地域教育協議会と共催)。地域の自主防災・防犯会が協力して参加者に火おこしやテントたてを教えた。中学生はリーダーとなって安全や時間を管理しながら小学生の面倒を見た。異世代・異年齢交流ができたことが一番の成果であった。



京 西 公 民 館

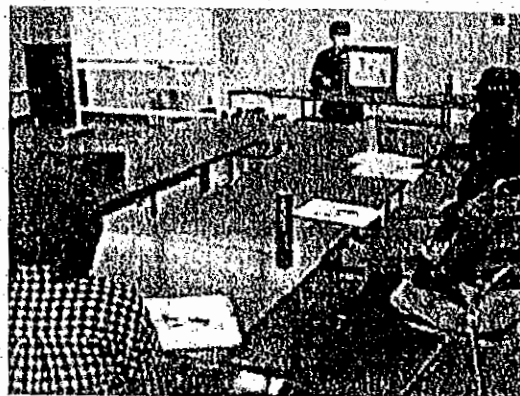
からだスッキリ！健康サロン(60人)

コロナ疲れによる心身の不調に対して、ツボ押しやゆったりとした体操を行うことで心身の調子を整えることを目的として開催。3回にわたり、講師の説明を聞きながら体ほぐしを行った。「頑張らない運動なので良かった」「日常生活にとても参考になった」「今後もこのような講座を続けてほしい」といった声があり、継続した活動を希望する声が多かった。その後、本事業をきっかけに新規の自主グループ「京西健康サロン」ができた。



笑顔を広げる学習会(23人)

公民館事業に地域住民の意見を反映させ、主体的に関わる機会とするために開催。地域でボランティア活動を行っている人等を講師に招いて学習会を重ねる中、子どもの健全育成を考えることを目的として、作家の講演会「奈良少年刑務所 絵本と詩の教室」を企画し、受講者が当日の運営に携わった。さらに、講演会受講者の中に紙芝居の指導者があり、後日紙芝居の上映と交流会を行った。地域に目を向け、学びを通じた交流の場となった。



平 城 西 公 民 館

夏休み！こども体験 in 公民館(21人)

校区や学年を越えた絆づくりを目的に開催。日本の伝統工芸であり、昔のひんやりグッズといわれる水うちわの制作を体験した。その他、平和を題材とした紙芝居を観覧し、最後に参加者全員で完成した水うちわで水かけをして楽しんだ。参加者のアンケートからは、「からふるなうちわができてよかった(小学3年生)」「最後にやった対決が楽しかった。(小学4年生)」等の声が聞かれ、コロナ禍で外出が難しい中、新しい友達との交流や昔の文化に親しむ機会を提供した。



奈良SDGs学び旅(14人)

地元奈良にある建造物・仏像・伝統文化を観光資源としてだけでなく、SDGsを学ぶための教育資源としてとらえ、持続可能な社会の創り手を育成することを目的に開催。講座では、1300年続いた奈良の伝統文化がいかに民衆の手で守り継がれてきたのかについての講義や講義に関連するフィールドワークを通して、参加者が主体的に行動を起こすことの意義について学んだ。参加者のアンケートからは、「SDGsの再認識ができ、今後の生き方にも役立ちそう(70代)」等の声が聞かれた。



伏 見 公 民 館

学ぼう！伏見歴史遺産(38人)

歴史遺産を学びたいというニーズに応えるために開催し、定員の約2倍の申込があった。伏見地区にある社寺の一つである西大寺について、歴史を学ぶ機会を提供した。創建当時の壮大な境内の様子を映像で見ながら、古から続く行事の意味を分かりやすく解説いただいた。事業終了後も講師へ質問が相次いでいたことから、参加者の熱心に学ぶ様子が見られた。



収納セミナー～捨てる勇気、ありますか？～(31人)

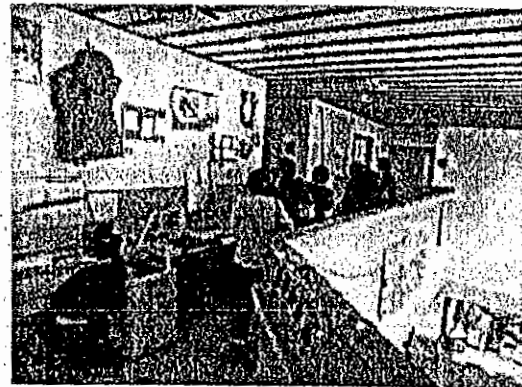
収納のノウハウを学ぶことにより、生活習慣を見直す機会の提供を目的として開催。物を手放すための見極めポイントと片付けの手順をお話いただいた。「コロナにより生活が変化する中、自分らしく快適に生活するための術を分かりやすく解説いただいた」などの参加者の声があった。



富 雄 南 公 民 館

とみなんまちなか教室(11人)

地域福祉推進のため、地域住民に福祉施設の活動内容等を知ってもらい、地域・施設・公民館が互いに理解を深めることを目的に開催した。前半は公民館にて社会福祉法人こまどり会「喜蔵庵」の施設紹介や余暇活動などについての講演会を行い、後半は公民館に隣接する施設の見学を行った。アンケートでは「近所に住みながら知る機会のない施設を見学出来てよかったです」、「皆がいきいきされていて感動しました」等、好評だった。



とみなん防災講座～コロナ禍と災害 避難はどうする？～(21人)

地域全体の防災意識を高めることを目的に、地域の防災関係団体と共催で行った。コロナ禍において避難時に留意すること、避難所での新型コロナウイルス感染症対策等について学んだ。アンケートでは「近年の防災はコロナ禍で心配なことばかりです。家の中での避難も含め、とても勉強になった」など好評だった。今年度は様々なテーマで防災講座を計4回開催し、地域住民の防災意識を高めるきっかけとなった。



平 城 公 民 館

パパおすすめ！親子でアウトドア(24人)

アウトドアを通して子どもとふれあい、子育てに参画してもらうきっかけ作りとして、ペットボトル工作や火起こし体験をした。参加者のアンケートからは、「火起こし体験等、野外で子どもと一緒にできる講座で楽しかった」、「ペットボトルのランタンづくりをまた家でやってみたい」、「火起こしゲームがすごく難しかった」、「また参加したい」という声が寄せられた。



平城の歴史遺産(23人)

公民館近隣の神社仏閣(常光寺)を取り上げ、市民に平城の文化遺産を知ってもらうために開催した。また、暮らしの中での宗教について住職に話を伺い、知識を深めた。参加者のアンケートからは、「よくこのお寺に来るが、説明を聞くど知らないことが多い。良かった」、「説明が良くわかった」、「和尚さんの話がジョークも含めてなごやかで楽しい時間を過ごせた」などの声が聞かれた。



飛鳥公民館

体と心を整えるヨーガ～体を動かして免疫力を高めよう～ (63人)

コロナ禍による運動不足を解消し、心身の健康を保つことを目的に、4回にわたってヨーガを体験した。実際に体を動かし、さらに免疫力・治癒力の高め方や季節に合わせた身体のメンテナンス法等についても学んだ。参加者のアンケートからは、「ぜひ続けたい(40代)」「季節の話等とても参考になった(60代)」等の声が寄せられた。本事業をきっかけに自主グループとして公民館で継続して活動が続けていくことになった。



飛鳥お宝さんぽ～戦争遺跡めぐり～ (20人)

飛鳥地域にある豊富な地域資源を活かし、テーマに沿った散策を行う講座の一つとして開催。講師から解説を受けながら、主に奈良教育大学内に残る戦争遺跡を巡った。参加者からは「知らなかったことを知る機会を与えてもらった(40代)」等、声が寄せられ、その存在を改めて確認し、悲慘な戦争の記憶を受け継ぎ、平和の大切さについて考える機会となった。



都跡公民館

ズームアップ現代 (27人)

その時折で話題になっているニュースや社会問題を取り上げ、私たちが生きている現代社会について共に学び考えることを目的に開催。小学校教員より学校教育の取り組みからSDGsについての解説と地域にある企業の吉野杉を使った家づくり、循環型社会の実現に向けて森林保全、技術の継承等の取り組みからSDGsについて考えた。地元企業の取り組みの話を開けたことは好評で、SDGsについて理解を深めることができたとの声を多く得られた。



de愛りみあとサロン(4) (24人)

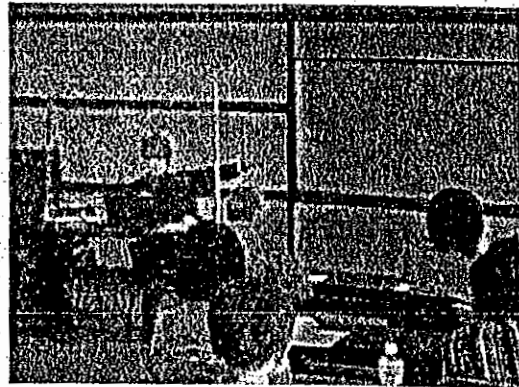
申込不要で気軽に公民館に訪れ、音楽や芸術制作等を楽しみ、幅広い世代と交流ができる機会として開催。都跡公民館自主グループ連絡協議会と共催で実施し、「1970年代～タイムスリップ」をテーマに当時の流行曲のピアノ演奏とできごとや思い出を語るコンサートを実施した。「懐かしい思い出を振り返り楽しかった」という声があった。また、出演したグループ同士で繋がりができ、互いの活動に刺激を受け、またやりたいという意欲へとつなげた。



登美ヶ丘南公民館

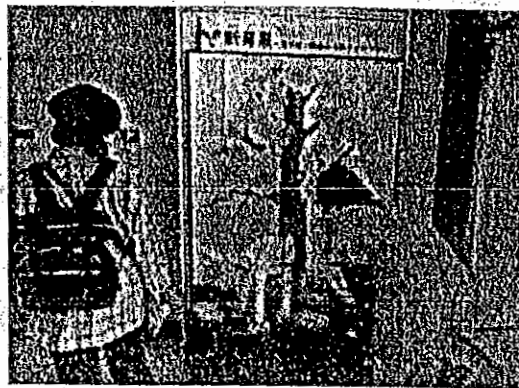
くらしの文章教室(16人)

令和2年度にコロナ禍による人々の暮らしの現実・思いを文章や詩にして綴った『登美南誌録』を発行した際に、文章への苦手意識を目の当たりにしたことにより開催。日々の些細な出来事や発見、心の動きなどを書きとめることから始め、それらを綴る手法や表現力を高める方法について学んだ。「文章を書くことの奥深さがわかった」などの感想があり、宿題として集めた短文を綴った『登美南誌録 第二巻』を発刊し、公民館で配布したところ、好評を得た。



新芽展(251人)

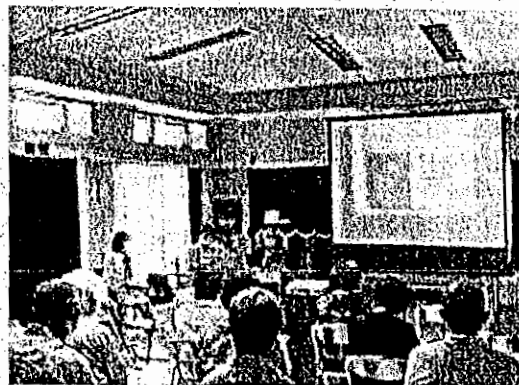
コロナ禍により生徒たちの文化芸術活動を発信する場が求められていることを受け、公民館で展示を行い、青少年活動の活性化に寄与することを目的として開催した。準備では生徒自らが作品のレイアウトなどを考え“見せる展示”を意識した。また、若者から未来に向けた心のメッセージを集めオブジェを作った。来場者からは、「普段目にする機会の少ない若い世代の作品を見ることができて良かった」等の声があった。



平城東公民館

祈りの炎 奈良大文字(30人)

奈良の伝統文化を知り、郷土愛をはぐくむことを目的に、奈良大文字について学習する講義と、送り火の鑑賞及び関連品やポスターデザイン展示を全2回で実施した。参加者からは「大文字の送り火である意味がよく分かった(60代)」「長く奈良に住んでいるけど詳しくは知らなかったの、この機会に知ることができてよかった(70代)」などの声が聞かれた。残念ながら今年度の送り火は荒天のため中止だったが、講義と展示を通じて奈良の行事や込められた思いを知るきっかけとなった。



ようこそ数独の沼へ(67人)

コロナ禍においてステイホームが余儀なくされ、心身の健康への意識が高まっており、脳の老化や衰退防止に有効な手段を講じて活性化を図る必要がある。そこで、認知症を予防する可能性として注目されている「数独」にスポットをあて、その仕組みや解き方についての講座を3回に渡って実施した。参加者から「なかなかできない講座、参加できてよかった(70代)」「初めてなのによくわかった(60代)」という声が聞かれ自主グループ化へつなげることができた。



月ヶ瀬公民館

梅の里学級(127人)

地区内の高齢者が、教養を向上させること、健康で明るくいきいきと暮らすことを目的に、館外学習を含め全5回開催した。都跡公民館自主グループとの交流による回想法の体験、奈良市史料保存館との連携による月ヶ瀬と伊勢神宮および神宮の博物館の見学等を行った。「徴古館に月ヶ瀬の品が展示されていて感動した(70代)」、「神宮の博物館に行ったのは初めてで、とても興味深かった(60代)」などの声があり、地域の価値の再認識につながる学習の機会を提供できた。



月ヶ瀬歴史探訪(14人)

地域活性化のため、月ヶ瀬の魅力を発信することを目的に開催した。国の史蹟名勝指定から100年を迎える「月ヶ瀬梅林」について、観梅道を散策しながら、文人墨客が来訪した軌跡や、100年以上に亘って梅林を保全してきた取り組みについて、月ヶ瀬梅溪保勝会の元副代表に解説していただいた。「鳥梅と梅溪のつながりがよくわかった(60代)」、「先人たちの努力に敬服した(70代)」、「SDGsにも関わる学びと気づきがあった(70代)」との感想があった。



都祁公民館

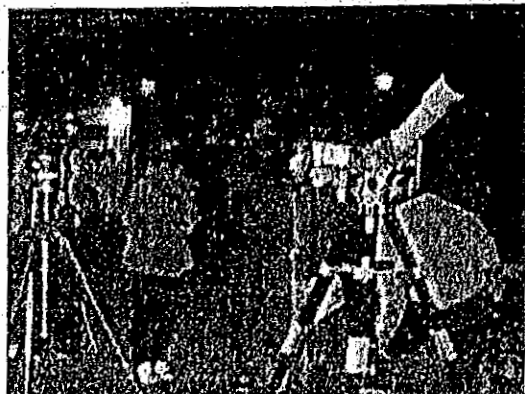
つげの索道と凍豆腐 (20人)

これまで現地見学などの講座を続けてきた「奈良安全索道」であるが、写真資料が少なく、当時の様子を知る人の高齢化が進んでいる。そこで、「見たこと、したこと、聞いたこと」として、当時を知る人や関心を持つ人が一緒に話しをする機会として開催した。ドローン映像や、当時を思い出して描いたスケッチを元に話が弾み、駅の様子や町の様子を絵で復元しようとの気運が生まれた。参加者から「話の続きをしたい」との声があった。



おやこでチャレンジ (59人)

親子でさまざまな共通体験にチャレンジすることで、親子の交流を図ることを目的に、星空観察や救急法、陶芸などについて学んだ。星空観察では、日常生活に近い環境で観察できるように、公民館横の民家が隣接するグラウンドで開催し、電飾や街灯など必要以上の「光害」についても考えるきっかけとなり、星空環境の改善への意識が高まった。



令和3年度 特色ある事業について

(1) 市民主体で講座を企画する

施設名	分類	重点分野	講座名	開催 期間 (月)	開催 回数	対象	定員	申込者 数(人)	受講決 定者数 (人)	延べ受 講者数 (人)	講座概要
西部 公民館	06	その他	せいふ講座企画チーム	9~12	6	市内在住・在勤の18歳 以上	10	7	7	40	市民の知識と経験を活かし、公民館の主催事業「市民企画講座」の実施を目指して開催。受講生が感じている問題意識を講座に反映し、現代社会の課題解決にむけてチームが結束して事業運営を行った。
西部 公民館	06	その他	未来につなげる市民企画講座	2	1	市内在住・在勤・在学 の中学生以上	40	39	39	33	せいふ講座企画チームの受講生が企画し開催。「もったいない」を見直す機会として食品のフードロスの原因と現状を学び、「もったいないをありがとうにかえる」フードバンク奈良の取組を紹介した。
春日 公民館	05	その他	市民と創る講座作戦会議	6~10	5	春日中学校区在住ま たは春日公民館利用 の成人	10	3	3	12	地域の人たちの求めに応える内容の講座や地域をアピールできる講座を市民とともに企画することを目的に開催した。市民と一緒に企画・運営を行い、2講座を実施し、市民参画を促した。
春日 公民館	01	その他	市民コラボ企画～ならまちの民話と伝 説～	12	1	市内在住・在勤の成人	29	29	29	21	歴史の深いこの地域に語り継がれる多くの民話を発信することを目的に、市民とともに講座を創り、開催した。現地を巡り、民話を語ってもらうことでより想像が広がり、歴史と民話への造詣が深まった。
春日 公民館	06	高齢者	元気つながり倶楽部	10~3	10	春日中学校区在住の 概ね65歳以上	自由 入場	自由入場	自由入場	312	市民の意見を反映した講座であり、高齢者が交流し、孤独感を和らげることを目的に開催した。毎回多くの参加があり、高齢者の居場所となっている。参加者が講師として、特技や知識を発揮する機会も設けた。
京西 公民館	02	その他	笑顔を広げる学習会	9~3	5	京西中学校区在住の 成人	8	7	7	23	地域住民の意見を公民館事業に反映させ、主体的な学びの場とすることを目的として開催。講師を招いて学習会を行い、意見を出し合う中で企画した講演会を開催し、学び合うことができた。
京西 公民館	02	その他	奈良少年刑務所 絵本と詩の教室	1	1	主に京西中学校区在 住の成人	自由 入場	自由入場	自由入場	23	講座「笑顔を広げる学習会」の受講者が地域住民に求められる内容を模範し、地域課題の解決を目的に開催。作家の講演会を通して、地域の子どもの見守る大人の存在の大切さについて学び深めることができた。

(2) 体験を通して親子で学ぶ

二名 公民館	05	家庭教育	できるを伸ばす！弁当の日～子どもだ けで作ってみよう～	8	2	市内在住の小学3～6 年生と保護者	27	83	27	51	料理して片付けるまでの全てを子どもが行う「弁当の日」を実施した。子どもがいつも作ってもらっているお弁当を思い出し、メニューを考え、調理に挑戦する機会を提供することで、家庭で料理やお手伝いをするきっかけになった。
平城 公民館	07	男女	パパおすすめ！親子でアウトドア	10	1	平城・西大寺北小学校 区在住の小学3～6年 生と保護者	24	24	24	24	公民館駐車場・料理実習室などで火おこし・調理・ペットボトル工作を親子で体験した。親子で防災について学びながら、絆を深める機会となった。
飛鳥 公民館	04	家庭教育	糞虫王子と謎解き！ in 奈良公園	10	2	市内在住の小学生と 保護者	30	48	24	42	講義と「ならまち糞虫館」の見学、奈良公園での糞虫観察を通して糞虫の種類や生態について学習した。また、奈良公園の自然環境について親子で考える機会を提供した。

(3) コロナ禍での取り組み

中野 公民館	01	その他	奈良大学公開講座「夏の夜話2021」	7	3	成人	64	64	64	140	奈良大学と共催し、専門及び研究分野に基づき、「コロナ禍の心理と行動」と題して、人間の心理と行動を社会・経済・医療の観点から3回にわたり講座を開催し、現代社会の様々な問題について学んだ。
三笠 公民館	02	現代的課題	命をつなぐ支援の力	1~2	2	市内在住・在勤・在学 の16歳以上	20	17	17	23	コロナ禍により生活困窮者や生きづらさを感じる人が増加するなか、身近な支援について知ることを目的として開催。無戸籍支援やフードバンク事業について学び、自分にできる支援について考えた。
飛鳥 公民館	07	その他	体と心を整えるヨガ～体を動かして免 疫力を高めよう～	2~3	4	飛鳥中学校区在住の 成人	19	35	19	63	コロナ禍による運動不足を解消し、心身の健康を保つことを目的に開催。実際に体を動かすだけでなく、季節に合わせた身体メンテナンス法についても学んだ。今後も定期的に続けたいとの声があり自主グループが設立された。

令和4年度 特色ある事業

(1) 重点分野別

重点分野	公民館名	講座名	概要
高齢者	登美ヶ丘公民館	登美ヶ丘ひだまり体操	月2回、職員及び体操指導者による指導のもとで体操を行い、登美ヶ丘地域の高齢者の健康づくり・体力向上・仲間づくりを目指す。
	都跡公民館	出張！高齢者ふれあいサロン	コロナ禍で出かけることがより少なくなっている高齢者に、家から近い場所で身体を動かしたり交流できる場を提供し、健康の維持・増進を図る。
男女	生涯学習センター	ミドル男子の自分磨き	職場を離れると男性は新しいコミュニティを構築しにくい。公民館で仲間と学習する喜びを感じ、自主グループ活動の体験等を通じて教養を身につけ、退職後の生きがいを見つける。
	三笠公民館	女性にフォーカス！防災講座	いざという時のために、女性の視点での防災や避難所における防犯対策等について学び、市民の意識向上につなげる。誰もが非常時に安心して避難できる環境について考える機会を提供する。
青少年	中部公民館	夏休みキッズクラフト	ハンディキャップを持つ子どもを対象とした工作教室。子どもの創造力や好奇心を高めると同時に、物作りの楽しさを知る。
	富雄公民館	大学生とワークショップ！SDGs	SDGsについて継続して取り組んでいこうとする意欲を醸成するため、大学生の協力を得て開催する。ゲームやクイズなどを通してSDGsについて楽しく学ぶことを目指す。
家庭教育	春日公民館	親子でふれあうヨガ時間	親子で一緒に楽しみながら身体を動かし、ストレスの解消や親子のふれあいの機会とするとともに、親と子の健康増進を目指す。
	平城公民館	親子DE習字 ～来年のカレンダーを作ろう！～	親子で習字に挑戦し、書いた字を使って来年のカレンダーを作る。姿勢、筆の持ち方、筆運び等の基本を学ぶ。作品を書きあげることを通して伝統行事に親しみ、冬休みの課題の一助とする。
現代的課題	京西公民館	フードバンクボランティア入門	地域内で活動している団体から活動についての話を聞き、事業のボランティアを体験することで、新たに活動に参加する人を増やす。
	登美ヶ丘南公民館	英語で国際サロン	地域に住む外国人と地域住民とが英語を使って交流する場を設け、互いの文化について理解を深めながら、外国人の孤立や差別について考える。

(2) 開館 50 周年記念事業

西部公民館「創立 50 周年記念文化祭」

三笠公民館「三笠公民館 50 周年事業」

田原公民館「田原公民館 50 周年記念祭」

富雄公民館「富雄公民館開館 50 周年記念祭」

(3) 世界の紛争について考える

三笠公民館「めもりある・うおー～平和への道しるべ～」

ロシアによるウクライナ侵攻について専門家を招いて学習することで、平和の尊さを再認識し、平和について考えることを目的として開催する。

京西公民館「日露交流史からみる現在のロシア」

ロシアで通訳をしていた地元出身者に、江戸時代における日本からの漂流民とロシア人の人情味あふれる交流エピソードをはじめ、現在のロシアでの日本ブームなど日露の民間交流の話聞く中で、現在のロシア人の姿を知る。

(4) 自主事業

中部公民館 キリン・地域のちから応援事業「つながりサポーター養成講座」

地域に根づく小さな福祉活動を支援する「キリン・地域のちから応援事業」として取り組む。奈良市民の地域力・若者力を活用し、地域全体で困っている人たちをサポートしていけるようなつながりを作ることを目的に開催する。一人でも多くのサポーターを増やすことで、当事者とその家族を社会から孤立させない仕組みを作り、地域の方の理解と支援活動を広げていくことを目指す。

奈良ひとまち大学

市外の学校や職場に通い、地域とのつながりの少ない市民を対象に、奈良で活躍する人・まち・文化・自然・モノに出会える場として、世界遺産や伝統工芸を探究し、奈良で働くやりがい等の思いに触れることで、奈良の魅力を再発見する講座を実施する。

飛鳥公民館「学校現場からみえてくる子育て事情」・「みんなで遊ぼう！ボードゲーム+α」

子どもや家庭を取り巻く諸問題の解決を目指す「奈良市家庭教育サポートネットワーク支援事業」として取り組む。最初に飛鳥小学校長より学校現場を通した今の子育て事情について勉強会を行い、「飛鳥地区の住民同士の交流の場が必要である」という課題解決の実践として、遊びを通した世代を超えた交流を図ることを目的に講座を実施する。

令和 4 年度

近畿地区社会教育研究大会（奈良大会）

第 33 回奈良県社会教育研究大会及び

第 69 回奈良県公民館大会合同大会

【研究主題】

『人と人、人と地域を結ぶ、社会教育！』

～変化する社会に期待される社会教育をめざして～

【開催日】令和 4 年 9 月 2 日（金）

【会場】なら 100 年会館・ホテル日航奈良

参 加 報 告 書

委員名 伏浦 和美

NO.1

研修名	令和4年度近畿地区社会教育研究大会〔奈良大会〕 第33回奈良県社会教育研究大会及び第69回奈良県公民館大会合同大会
参加日時	令和 4 年 9 月 2 日 (金) 10 時 20 令和 4 年 9 月 2 日 (金) 15 時 50
場 所	<全体会場・分科会場>なら100年会館(奈良市三条宮前町7-1) <分科会場>ホテル日航奈良(奈良市三条本町8-1)
[大会の内容] 開会行事 10:20～11:00 全体会 記念講演 11:00～12:00 演 題 『社会教育には今、何が期待されているか』 講 師 金藤 ふゆ子 (文教大学人間科学部人間科学研究科 教授) 1962年茨城県生まれ。専門は社会教育学、教育社会学、生涯学習学。 1989年筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学。博士(教育学) 現在文部科学省政策評価有識者会議委員をはじめとして社会貢献活動をされている。主な著書に「学校を場とする放課後活動の政策と評価の国際比較 一格差是正への効果の検討」他がある。 金藤氏はつぎの項目で話されました。 1、はじめに そもそも社会教育委員とは何か？何が期待されているか？ 教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べること。青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。 2、近年の国の教育政策の動向 —社会教育に関する答申・法律・資格改正から考える— 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について。新しい時代の教育や地方創成の実現に向けた学校と地域の連携・協働のあり方と今後の推進方策について。(答申)社会教育は今、個人の成長と地域社会の発展の双方にとって重要な意義と役割があると考えられている。 3、多様な主体との連携・協働の推進のための新たな仕組み 地域学校協働活動、地域学校協働本部、コミュニティ・スクール、新放課後こども総合プラン。学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして、連携・協働して行う様々な活動。 4、なぜこれ程、学校と地域の連携・協働が求められるのか？ —その背景をかんがえる— 子どもを取り巻く問題状況：いじめ・不登校・暴力・貧困。家庭や保護者に関する問題状況。学校・教員に関する問題状況：教員の働き過ぎ・低い自己効力感。	

地域に関する問題状況。

5、子ども達にとって体験を通じた遊び・学びは有効か？

—実証的研究から考える—

自然体験の豊富な子供、お手伝いや生活体験を多く行っている子供は、自己肯定感、自立性、協調性、自立的行動習慣や探求力が身についている傾向がある。

6、社会教育関係者には何ができるのか？

—先導的事例の紹介—

長崎県社会教育委員の具体的な取り組み

①行政内部への可視化 ②県社会教育委員の可視化 ③県・市町村社会教育委員相互の可視化

岐阜県社会教育委員の活動

「地域学校協働活動」を焦点に審議・研究を重ねてきた。「進めよう！地域学校協働活動」のハンドブックを作成して市町村教育委員会、社会教育委員、公民館、小中学校に配布。社会教育委員自らの実践による研究会を実施。

7、おわりに

社会教育関係者の皆さまへのメッセージ

連携・協働による学び合い・支え合いは、必ず地域全体を活性化する。

その連携・協働に必要となるネットワークづくりのキーパーソン。

得意分野や知識・技能・経験を活かして活動し、市民と行政をつなぐ架け橋、地域の多様な主体をつなぐ架け橋となって頂きたい。

閉会行事 次期は滋賀県開催

12:00～12:10

第2分科会 地域づくり

13:50～15:50

テーマ 「前例・手本・答えのない時代の地域運営 ～経営的視点を持って～」

問題提起者 京丹後市久美浜町 佐濃自治会 事業推進部 部長

(佐濃自治会 前会長) 森本 賢一郎

森本部長より佐濃自治会の現状と課題について説明と問題提起がありました。

1、はじめに

佐濃地区の現状

17の集落(自治区) 7集落30戸未満 10集落30戸から80戸未満 人口約1,500人

H28年4月 「区長会」「活性化協議会」「公民館」を統合し「佐濃自治会」発足

2、佐濃地区の取組

(1)里力再生活動(佐濃地区活性化協議会H23～H27)

「かがやきの杜商店街」、「憩いサロン☆スター」開設、「久美浜コン」(婚活事業)

「送迎付き高齢者体操&ランチ」

(2)佐濃自治会

区長会組織の見直しなど新体制の構築。佐濃自治会発足。

統合前の各組織及び各事業のブラッシュアップと存在感・発言力・問題解決能力が向上。

3、今後の課題と可能性

(1)人口推移から見てきた各集落の傾向と課題

U・Iターンの促進

①地域おこし協力隊員の配置事業 ②新しい地域コミュニティ設置支援事業

人口減少が緩やかな集落と人口減少が大きい集落がある。

人口減少が緩やかな集落は、両親が高齢化する前に世代交代ができ、該当集落の人口減少に歯止めがかけられていた。

U・Iターン者を増やすには、地域の生活や文化、子育ての環境、医療、そして生活の基盤となる仕事などの情報を都会に住む人に発信・交流していくことが大切です。

(2)手本・答えのない時代の地域運営

全集落民参加型による運営。

集落役員に複数の女性ポストを配置、集落の運営への関わりを高める。

女性の発想力やネットワーク力で集落運営に活かす。

コロナ禍は時代の変化の転換点である。

森本部長の話の後、各地域が抱える地域課題は、各地域が抱える課題の解決に向けて、今何が必要か。誰もが安心して暮らせる、持続可能な地域づくりとは。地域づくりに対して社会教育委員に期待される役割は。について会場の参加者と討議しました。

[参加された感想・意見]

大会運営委員会 飯田会長(奈良県社会教育委員連絡協議会 会長)の話では、今回の奈良大会はコロナの影響で3年ぶりの対面開催であり、700名参加。

次期は滋賀県開催であることを、川端副会長(滋賀県社会教育委員連絡協議会 会長)が話された。

記念講演では、社会教育には今、何が期待されているかについて話された。

社会教育委員は、非常勤の特別職公務員で、幅広い職務・役割があり、必要とされる理由が理解できた。

社会教育に関する事業の全過程に対し意見具申ができる存在で、市民主体の社会教育を実現するための市民と行政の橋渡し・パイプ役である。

金藤講師がおわりに社会教育関係者の皆さまへのメッセージがあり、大変だと思うが期待されているように活動してほしいと思った。

第2分科会「地域づくり」に参加した。京丹後市久美浜町佐濃自治会の取組を森本部長(佐濃自治会 前会長)が、問題提起されたが、地元の小学校は統廃合で閉校になった集落を佐濃地区活性化協議会で里力再生活動したり、区長会組織を見直し、佐濃自治会を発足。統合前の各組織及び各事業のブラッシュアップと存在感・発言力・問題解決能力の向上を目指した。森本部長一人の力ではないにしても、素晴らしいリーダーシップと行動力である。

今後の課題と可能性を話されたが、手本・答えのない時代の集落運営に女性の発想力やネットワーク力を集落運営に活かす。女性の参画で集落運営に光明。と言われたことに拍手した。

参 加 報 告 書

委員名 野田 幸生

No. 1

研修名	令和4年度近畿地区社会教育研究大会〔奈良大会〕 第33回奈良県社会教育研究大会および第69回奈良県公民館大会合同大会
参加日時	令和4年9月2日(金) 10時20分から 令和4年9月2日(金) 15時50分まで
場所	〈全体会場・分科会場〉なら100年会館(奈良市三条宮前町7-1) 〈分科会場〉ホテル日航奈良(奈良市三条本町8-1)

(大会の内容)

1. 記念講演 演題 『社会教育には、何が期待されているのか』

講師 金藤ふゆ子(文教大学人間科学部人間科学研究科 教授)

概要 社会教育とは、その生涯学習の理念を実現するための重要な教育の一つであり、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む)と定義され、その目的は、「国民一人一人の教育的要求を満足させ、個人の幸福と、社会の発展を図ること」としています。

社会教育は、学校教育と異なり、人々の学習ニーズに即した幅広い学習内容をもっており、個人の要望や社会の要請にこたえ、国及び地方公共団体によって奨励されなければならないとされています。

そのため社会教育は、多様な主体により、様々な場や機会で行われていますが、学習の拠点となる代表的な社会教育施設として、公民館、図書館、博物館、青少年教育施設などがあります。

このように社会教育について社会教育法により法整備され、社会教育委員が必要とされていること、また、教育基本法で教育の目的を実現するため、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力が重要と規定されたこと等、子どもを取り巻く厳しい問題等を鑑みて、なぜ今、学校と地域の連携・協働がもとめられているかを理解しました。

日本の若者の意識調査では残念ながら自己肯定感、ボランティア活動への興味、異文化理解・対応力、海外留学の意識が低いとされています。

これらは学校教育で学べることなく、今の子どもは様々な自然体験や文化的体験に触れる機会が比較的少なく、協調性、自律性、人間力を実践できる機会を与えられていないと感じます。

これを支援するのが地域的協働活動であり地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働することが求められています。

また、児童虐待の増加や子どもの相対的貧困の増加への歯止めにも参画が求められる等社会教育への期待は更に高まっていると感じました。

2. 分科会 第1分科会：青少年教育(滋賀県) 会場：ホテル日航奈良 飛天1
テーマ 地域の子は地域で守り育てよう～こうらスマイルネットの取り組み～

こうらスマイルネット会長 北川 勝 氏

概要 甲良町では、12年前に「こうらスマイルネット」に名称変更した青少年育成
町民会議がより地域に密着した活動を展開するため、明確な活動方針を立て様々
な活動を展開している

その行動計画として最初に取り組んだのは、まず「あいさつ」である。

それは「あいさつ」のあとにあえて「声かけ」をし、単なる挨拶で終わらず住民同
士のコミュニケーションを図り、人と人との絆を深めることを目指したことです。
参加者からはこのあいさつに対する賛同や意見が多くあり、各地域において多く
の同様な取り組みが行われていることを知りました。

やはり地域社会が青少年の健全育成のための手段として「あいさつ」をきっかけと
しようとしていることは共通認識であると理解しました

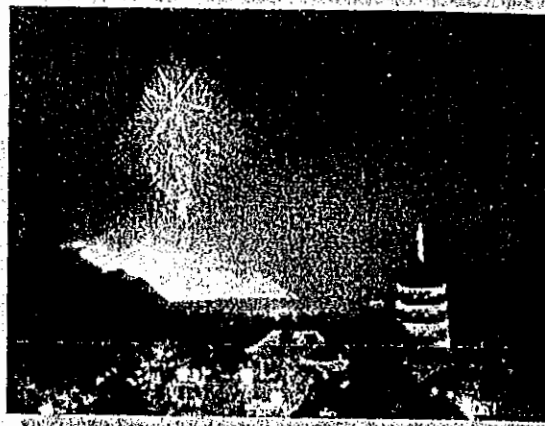
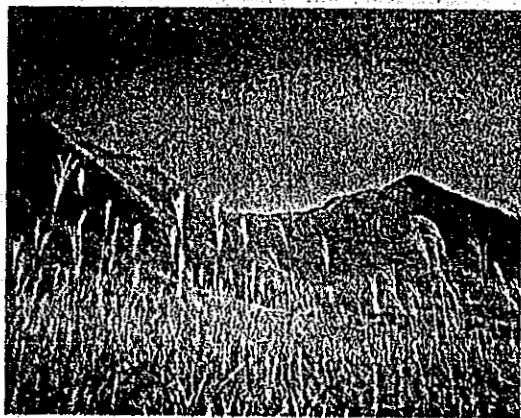
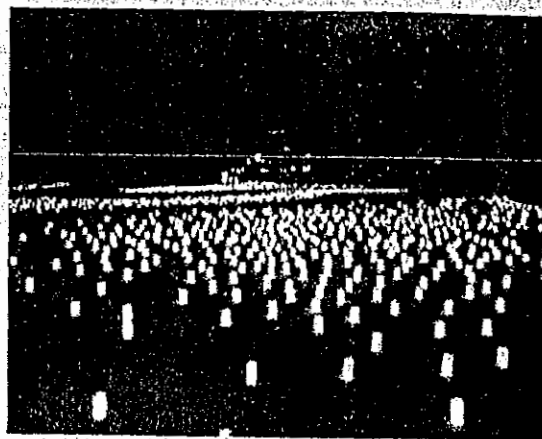
このような積み重ねが地域への愛着を高めるうえで必要なことであり、自身が地
域の構成員であることを認識し、さらに良くしていこうとする思いが感じられる。
まちに愛着を持つだけでなく、その良さを深め、整理することで内からまちの魅力
を発信していこうとする「シビックブランド」的な取り組みが感じられました。
社会教育という言葉で大上段に振りかぶった行動よりも日常の生活に密着した地
道な活動がいかに大事であるかということを感じました。

令和4年度

近畿地区社会教育研究大会

奈良大会

第33回奈良県社会教育研究大会及び第69回奈良県公民館大会合同大会



研究主題 『人と人、人と地域を結ぶ、社会教育！』

～変化する社会に期待される社会教育をめざして～

開催日 令和4年9月2日（金）

会場 なら100年会館・ホテル日航奈良

令和4年度

近畿地区社会教育研究大会〔奈良大会〕

第33回奈良県社会教育研究大会及び第69回奈良県公民館大会合同大会

開催要項・・・・・・・・・・ 1

大会役員・・・・・・・・・・ 3

実行委員会・・・・・・・・・・ 4

会場図・・・・・・・・・・ 5

記念講演・・・・・・・・・・ 6

分科会・・・・・・・・・・ 9

第1分科会・・・・・・・・・・ 12

第2分科会・・・・・・・・・・ 18

第3分科会・・・・・・・・・・ 24

第4分科会・・・・・・・・・・ 32

第5分科会・・・・・・・・・・ 36

参加者名簿・・・・・・・・・・ 44

令和4年度 近畿地区社会教育研究大会〔奈良大会〕

第33回奈良県社会教育研究大会及び第69回奈良県公民館大会合同大会

開催要項

- 1 趣 旨 近畿各府県社会教育委員をはじめ、社会教育関係者・社会教育に関心がある方が一堂に会し、各地域における社会教育活動の実践や研究の成果について交流を深め、今後の社会教育活動の一層の振興を図るとともに、時代の変化と社会のニーズに応じたこれからの社会教育のあり方について研究協議を行う。
- 2 研究主題 『人と人、人と地域を結ぶ、社会教育！』
～変化する社会に期待される社会教育をめざして～
- 3 開催日 令和4年9月2日（金）
- 4 主 催 一般社団法人全国社会教育委員連合 近畿地区社会教育委員連絡協議会
奈良県社会教育委員連絡協議会 奈良県教育委員会
- 5 共 催 奈良県公民館連絡協議会
- 6 主 管 近畿地区社会教育研究大会実行委員会
- 7 後 援 滋賀県教育委員会 京都府教育委員会 和歌山県教育委員会
兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会
- 8 会 場 〈全体会場・分科会場〉なら100年会館（奈良市三条宮前町7番1号）
〈分科会場〉 ホテル日航奈良（奈良市三条本町8番1号）
- 9 参加対象 近畿各府県市町村社会教育委員・社会教育関係者等
- 10 参加料 2,000円（資料代）
- 11 大会日程

9:40	開場・受付開始（なら100年会館 ホール前ロビー） 開 全 体 会 場 10:20
開会行事	
◇開会のことは	奈良県社会教育委員連絡協議会副会長
◇主催者あいさつ	近畿地区社会教育委員連絡協議会会長 一般社団法人全国社会教育委員連合会長 奈良県教育委員会教育長
◇祝 辞	文部科学省 奈良県知事
◇来賓紹介	
11:00	記念講演
演題 『社会教育には今、何が期待されているのか』	
講師 金藤 ふゆ子（文教大学人間科学部人間科学研究科 教授）	
12:00	閉会行事
◇次期開催府県あいさつ 滋賀県社会教育委員連絡協議会会長	
◇閉会のことは 奈良県社会教育委員連絡協議会副会長	
12:10	【休憩・移動】 分 科 会 場 13:50
分科会	
15:50	終了予定

12 分科会 (各分科会場)

1	青少年教育 (滋賀県)	テーマ	地域の子は地域で守り育てよう ～こうらスマイルネットの取り組み～
		報告の 要旨	甲良町では、平成22年に「甲良町青少年育成町民会議」を「こうらスマイルネット」と名称変更し、より地域に密着した様々な活動を展開している。中でも、町独自の取り組みである「ふれあい つながる こうらの子行動計画」について、その構想のねらい、現状と課題について報告する。
		討議の ポイント	・「あいさつ・声かけ」「マナーの向上・ルールの遵守」を、全町民に浸透させるための効果的な活動とは。 ・少子高齢化が進む中で、青少年育成に関わる関係者の力量向上とネットワークの拡大のために社会教育が果たす役割とは。
2	地域づくり (京都府)	テーマ	前例・手本・答えのない時代の地域運営 ～経営的視点を持って～
		報告の 要旨	人口減少、少子高齢化、地域活動の担い手不足等、地域課題の解決のため、経営的視点を持って、様々な事業を展開している京丹後市久美浜町佐濃自治会の、地域づくりに関する取組状況について報告する。
		討議の ポイント	・各地域が抱える地域課題は。 ・各地域が抱える課題の解決に向けて、今何が必要か。 ・誰もが安心して暮らせる、持続可能な地域づくりとは。 ・地域づくりに対して社会教育委員に期待される役割は。
3	ボランティア (和歌山県)	テーマ	岩出市の地域学校協働活動におけるボランティア活動の状況について ～地域住民の学校に対する多様な協力活動～
		報告の 要旨	和歌山県が推進する「きのくにコミュニティスクール」を定着させるために、岩出市で進めている取組を報告するとともに、岩出市立岩出第二中学校において令和3年度から実施している活動の状況と成果・課題について報告する。また、今後の活動の充実や定着について展望する。
		討議の ポイント	・各府県における地域学校協働活動の状況について。 ・「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」が目指すものとは。 ・地域住民等と学校との連絡調整等を行う地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の人材確保の課題について。
4	学校・家庭・ 地域の協働 (兵庫県)	テーマ	これからの地域と学校の連携・協働について
		報告の 要旨	放課後等の子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する「地域子ども教室」等や、コミュニティ・スクールの取組を報告するとともに、これからの地域と学校の連携の在り方や、地域の関わり方について考える。
		討議の ポイント	・さらなる学校・家庭・地域の協働に向け、どのように地域の教育力を向上させるか。 ・地域の人材や魅力を活かすための取組について
5	人権教育 (大阪府)	テーマ	全ての人のために生きやすい社会をめざして ～子育て中の外国人ママの居場所づくり事業から～
		報告の 要旨	大阪府豊中市で20年あまりにわたって地域の中でより孤立しがちな子育て中の外国人女性を対象とした居場所づくり事業（関わるボランティアも子育て中の女性）として、地域の図書館と共に活動している「おやこてにほんこ」について報告する。
		討議の ポイント	・家庭・地域における身近な人権課題について、いかに取組を進めていくか。 ・人権教育を推進するうえで、地域における多様な人たちの支援や社会参加・学び合いのあり方について考える。

大会役員

<大会運営委員>

役職名	名前	所属等
会長	飯田 喜代視	奈良県社会教育委員連絡協議会 会長
副会長	川 端 一	滋賀県社会教育委員連絡協議会 会長
運営委員	森川 知史	京都府社会教育委員連絡協議会 会長
	上羽 慶市	兵庫県社会教育委員協議会 会長
	辻 敏弘	和歌山県社会教育委員連絡協議会 会長
	岡田 龍樹	大阪府社会教育委員連絡協議会 会長

<大会事務局>

役職名	名前	所属等
主管課長	廣瀬 淳子	滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 課長
	杉本 学	京都府教育庁指導部社会教育課 課長
	杉谷 康志	兵庫県教育委員会事務局社会教育課 課長
	木地尾 整	和歌山県教育委員会事務局 参事(生涯学習局生涯学習課長事務取扱)
	池上 成之	大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課 課長
	大橋 淳	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 課長

役職名	名前	所属等
事務担当者	林 耕平	滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 主査
	松本 郁恵	京都府教育庁指導部社会教育課 社会教育主事
	稲家 福子	兵庫県教育委員会事務局社会教育課 指導主事兼社会教育主事
	倉本 健吾	和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課 主査
	原田 哲	大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課 社会教育主事補
	西 英樹	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 社会教育主事

役職名	名前	所属等
会計監事	川 端 一	滋賀県社会教育委員連絡協議会 会長
	廣瀬 淳子	滋賀県教育委員会事務局生涯学習課 課長

実 行 委 員 会

<実行委員>

役 職 名	名 前	所 属 等
委 員 長	飯田 喜代視	奈良県社会教育委員連絡協議会 会長
副 委 員 長	小西 榮子	奈良県社会教育委員連絡協議会 副会長
	岡村 文夫	奈良県社会教育委員連絡協議会 副会長
委 員	高島 肇子	奈良県社会教育委員連絡協議会 監事
	奥田 益三	奈良県社会教育委員連絡協議会 監事

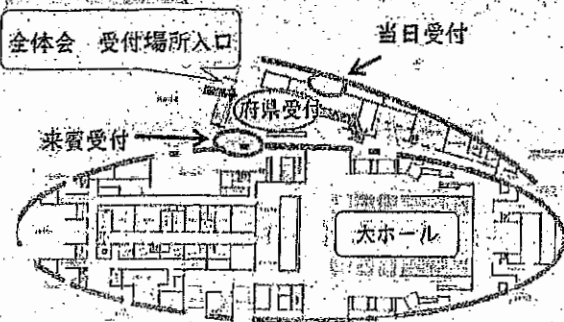
<事務局>

役 職 名	名 前	所 属 等
事 務 局 長	大 橋 淳	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 課長
事 務 局 次 長	清 水 孝 則	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主幹
事 務 局 員	竹 田 祥 子	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 課長補佐
	尾 上 宗 良	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 係長
	後 藤 克 久	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 係長
	西 英 樹	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 社会教育主事
	今 西 健	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査
	内 山 努	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査
	岡 橋 俊 介	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査
	金 田 美 穂	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査
	近 藤 将	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査
	城 武 宏	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査
	南 岡 宏 樹	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査
	山 田 路 子	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 会計年度職員
	白 井 桂 子	奈良県社会教育委員連絡協議会事務局 団体職員

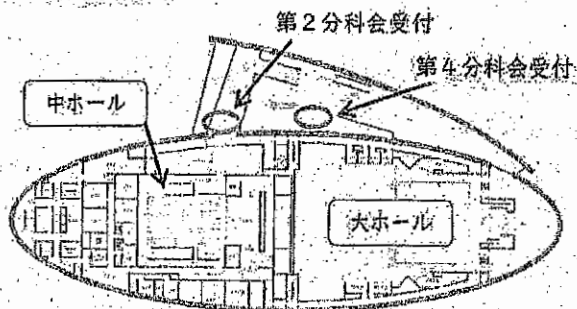
令和4年度近畿地区社会教育研究大会〔奈良大会〕会場図

〈全体会場・分科会場〉 なら100年会館

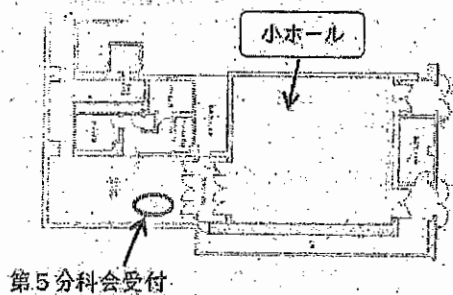
1階平面図



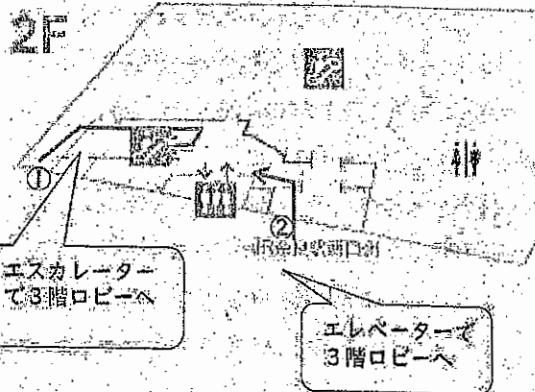
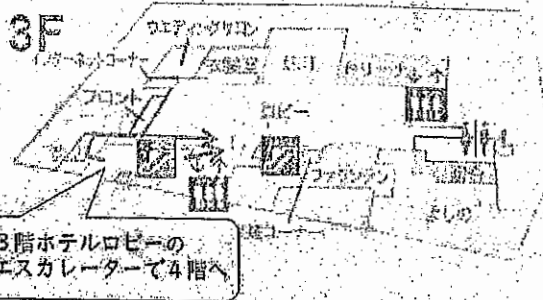
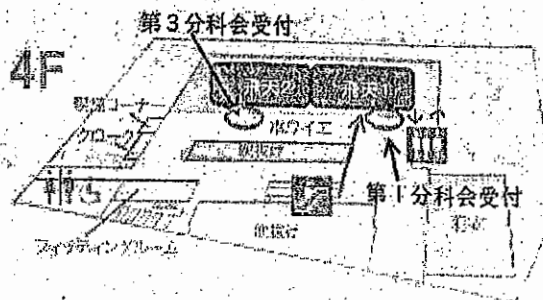
2階平面図



地下1階平面



〈分科会場〉 ホテル日航奈良



分科会について
受付は、各分科会の入口付近で、13時30分からは行います。
各分科会場は、13時30分から入場することができます。
それまでは、入室することができません。
※全体会場・分科会場は、新型コロナウイルス感染予防のため飲食をすることができません。



歩道橋を渡って、なら100年会館からホテル日航奈良に移動してください。

記念講演

社会教育には今、何が期待されているのか

講師 文教大学人間科学部・人間科学研究科

教授 金藤 ふゆ子

【プロフィール】

金藤 ふゆ子（かねふじ ふゆこ）

1962年 茨城県生まれ。専門は社会教育学、教育社会学、生涯学習学。1989年筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学。博士（教育学）。

東京都立教育研究所経営研究部社会教育室研究主事、常磐大学人間科学部講師・准教授・教授等を経て2013年より現職。

文部科学省政策評価有識者会議委員、第8期・9期中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員、厚生労働省社会保障審議会児童部会専門委員、第14期・15期茨城県生涯学習審議会会長、全国社会教育委員連合副会長等歴任。

【主な委員・社会貢献活動】

文部科学省政策評価有識者会議委員、2015年/3月～現在

厚生労働省社会保障審議会児童部会専門委員、2017年/10月～現在

文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員、2015年/3月～2019年/3月まで

全国社会教育委員連合理事、2017年/9月～現在

全国社会教育委員連合副会長、2019年/5月～現在

日本生涯教育学会常任理事、2002年/6月～2005年/5月まで

日本公民館学会理事、2010年/12月～2012年/11月まで

IJREE : International Journal for Research on Extended Education 編集委員、2013年～現在

【主な著書】

金藤ふゆ子編著『学校を場とする放課後活動の政策と評価の国際比較－格差是正への効果の検討－』、福村出版、2016年

金藤ふゆ子他著『子どもの放課後活動の国際比較研究』、福村出版、2012年

金藤ふゆ子著『生涯学習関連施設の学習プログラム編成過程研究』、風間書房、2012年

手打明敏他編著『社会教育・生涯学習』、ミネルヴァ書房、2019年

手打明敏他編著『＜つながり＞の社会教育・生涯学習』、東洋館出版、2017年

International Development in Research on Extended Education, Verlag Barbara Budrich, 2020, pp. 223-245

「社会教育には今、何が期待されているのか」

1. はじめに

2. 近年の国の政策の動向ー社会教育に関する答申・法律・資格改正から考えるー

1) 教育に関する近年の着目すべき答申

2) 近年の社会教育や教育に関する法律の改正

3) 社会教育主事資格要件の変更について

3. 多様な主体との連携・協働の推進のための新たな仕組み

1) 地域学校協働活動・地域学校協働本部

2) コミュニティ・スクール

3) 新放課後こども総合プラン

4. なぜこれ程、学校と地域の連携・協働が求められるのか—その背景を考える—

1) 子どもを取り巻く問題状況：いじめ・不登校・暴力

2) 家庭や保護者に関する問題状況

3) 学校・教員に関する問題状況：教員の働き過ぎ・低い自己効力感

4) 地域に関する問題状況

5. 子ども達にとって体験を通じた遊び・学びは本当に有効か—実証的研究から考える—

1) 体験の力の調査研究

2) 外遊びと探求力の関連の分析

6. 社会教育関係者には何ができるのか—先導的事例の紹介・検討—

1) 岐阜県社会教育委員の取り組み

2) 宮崎県五ヶ瀬町の取り組み

3) NPOや企業との連携・協働

7. おわりに

分 科 会

会場：なら１００年会館（大ホール・中ホール・小ホール） 時間：１３時５０分～１５時５０分
ホテル日航奈良（飛天１・飛天２）

第１分科会：青少年教育（滋賀県） 会場：ホテル日航奈良 飛天１

テ ー マ	地域の子は地域で守り育てよう ～こうらスマイルネットの取り組み～	
討議の ポイント	・「あいさつ・声かけ」「マナーの向上・ルールへの遵守」を、全町民に浸透させるための効果的な活動とは。 ・少子高齢化が進む中で、青少年育成に関わる関係者の力量向上とネットワークの拡大のために社会教育が果たす役割とは。	
問題提起者	北 川 勝	こうらスマイルネット会長（甲良町青少年育成町民会議）
助 言 者	上 田 洋 平	滋賀県立大学地域共生センター 講師
司 会 者	高 橋 雅 代	生駒市あすか野小学校 主任主査
記 録 者	奥 田 益 三	奈良市社会教育委員会 議長
運営担当者	城 武 宏	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査

第２分科会：地域づくり（京都府） 会場：なら１００年会館 中ホール

テ ー マ	前例・手本・答えのない時代の地域運営 ～経営的視点を持って～	
討議の ポイント	・各地域が抱える地域課題は。 ・各地域が抱える課題の解決に向けて、今何が必要か。 ・誰もが安心して暮らせる、持続可能な地域づくりとは。 ・地域づくりに対して社会教育委員に期待される役割は。	
問題提起者	森本 賢一郎	京丹後市久美浜町 佐濃自治会 前会長 現 佐濃自治会 事業推進部 部長
助 言 者	坪 倉 武 広	京丹後市教育委員会生涯学習課 課長補佐
司 会 者	奥 村 麻 希 子	奈良市鳥見小学校・幼稚園運営委員会 代表コーディネーター
記 録 者	高 島 幸 子	王寺町社会教育委員会 議長
運営担当者	後 藤 克 久	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 係長

第3分科会：ボランティア（和歌山県） 会場：ホテル日航奈良 飛天2

テ ー マ	岩出市の地域学校協働活動におけるボランティア活動の状況について ～地域住民の学校に対する多様な協力活動～	
討議の ポイント	・各府県における地域学校協働活動の状況について。 ・「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」が目指すものは。 ・地域住民等と学校との連絡調整等を行う地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の人材確保の課題について。	
問題提起者	高 幣 泰 男	岩出市社会教育委員（岩出市立岩出第二中学校長）
助 言 者	藤 田 直 子	和歌山県社会教育委員会 議長 きのくにコミュニティスクール推進協議会 会長
司 会 者	新 谷 明 美	奈良県CSアドバイザー
記 録 者	東 光	土津川村教育委員会教育課 主査
運営担当者	近 藤 将	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査

第4分科会：学校・家庭・地域の協働（兵庫県） 会場：なら100年会館 大ホール

テ ー マ	それぞれの地域と学校の連携・協働について	
討議の ポイント	・さらなる学校・家庭・地域の協働に向け、どのように地域の教育力を向上させるか。 ・地域の人材や魅力を活かすための取組について	
問題提起者	福 島 奨 平	加東市教育委員会教育振興部生涯学習課 主査
助 言 者	小 池 宏 尚	兵庫県教育委員会事務局社会教育課 主任指導主事兼社会教育班長
司 会 者	滝 上 真 紀 子	上牧町教育委員会事務局社会教育課 係長
記 録 者	長 岡 律 子	天理市教育委員会事務局まなび推進課地域学習係 課付課長
運営担当者	今 西 健	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査

第5分科会：人権教育（大阪府）

会場：なら１００年会館 小ホール

テ ー マ	全ての人にとって生きやすい社会をめざして ～子育て中の外国人ママの居場所づくり事業から～	
討議の ポイント	・家庭・地域における身近な人権課題について、いかに取組を進めていくか。 ・人権教育を推進するうえで、地域における多様な人たちの支援や社会参加・学び合いのあり方について考える。	
問題提起者	山本 房代	公益財団法人とよなか国際交流協会 事業主任
助 言 者	濱元 伸彦	関西学院大学教育学部 准教授
司 会 者	菊池 由利	奈良市教育委員会教育部地域教育課地域学校連携係 地域学校連携推進員
記 録 者	和田 真人	生駒市教育委員会生涯学習課 主幹
運営担当者	内山 努	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査

第1分科会 青少年教育

テーマ：地域の子は地域で守り育てよう

～こうらスマイルネットの取り組み～

討議のポイント

- ・「あいさつ・声かけ」「マナーの向上・ルールの遵守」を、全町民に浸透させるための効果的な活動とは。
- ・少子高齢化が進む中で、青少年育成に関わる関係者の力量向上とネットワークの拡大のために社会教育が果たす役割とは。

問題提起者 こうらスマイルネット会長（甲良町青少年育成町民会議）

北川 勝

助言者 滋賀県立大学地域共生センター 講師 上田 洋平

司会者 生駒市あすか野小学校 主任主査 高橋 雅代

記録者 奈良市社会教育委員会 議長 奥田 益三

運営担当者 奈良県教育委員会事務局 人権・地域教育課

主査 城 武宏

会場 ホテル日航奈良 飛天1

第1分科会 青少年教育

テーマ 地域の子は地域で守り育てよう
～こうらスマイルネットの取り組み～

こうらスマイルネット会長 北川 勝

1. はじめに

(1) 滋賀県甲良町の概要

甲良町は、滋賀県の湖東地方、彦根市に隣接する町で、人口は滋賀県で最も少ない約6,700人の町である。主な産業は農業で、緑豊かな水田が広がっている。

全部で13の字(集落)に14分館があり、それぞれが字の特色を生かした体験活動を推進している。分館とは、社会教育法(第21条第3項)において、公民館の事業運営上必要があるときに、設置することができるものである。本町では、甲良町公民館管理運営規則(第4条第1項)に基づき、各大字単位に設置している。「せせらぎ遊園のまち」と言われる豊かな自然と伝統を生かした「生き物観察」や「しめ縄づくり」といった活動、そして、無形民俗文化財である「おはな踊り」の継承等、集落ごとの多様な体験活動を通して、子どもたちの主体性さらには地域を愛する心が育まれている。

(2) 甲良三大偉人を通したまちづくり

本町には、国宝の西明寺をはじめとした文化財・歴史的な名跡があるが、歴史上活躍した人物を多く輩出している。なかでも、バサラ大名として有名な佐々木(京極)道誉、藤堂高虎、そして日光東照宮の大棟梁である甲良豊後之守宗廣は甲良三大偉人と言われ、その人物にちなんだ様々な町おこしが積極的に行われている。

2 「甲良町青少年育成町民会議」から「こうらスマイルネット」へ

甲良町では、今から12年前(平成22年)に「甲良町青少年育成町民会議」を「こうらスマイルネット」と名称を変更した。町民に親しみやすく、活動をより身近に感じてもらい参加しやすくするためである。組織編成もより地域に密着した活動を展開するため、原則各字1名で構成される常任委員を中心に月1回の常任委員会を開催し、事業計画の進捗状況の確認・情報交換を進めている。

3 こうらスマイルネットの取り組み

(1) 目標

次代を担うにふさわしい心もからだも健やかでたくましい青少年を育てよう

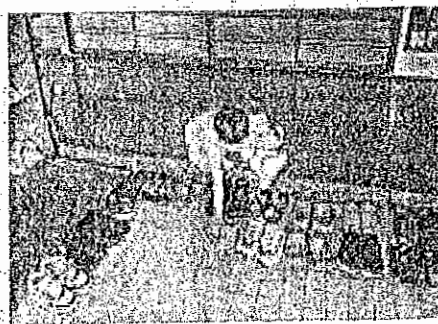
(2) 活動方針

- ・「地域の子は地域で守り育てよう」運動の展開
- ・青少年育成に対する啓発の促進
- ・青少年活動の促進
- ・青少年育成指導者研修の推進
- ・健全な社会環境づくりの事業の推進

(3) 主な活動事業(事業計画)

①「ふれあい つながる こうらの子」行動計画の推進

「甲良町の青少年の現状・取り組むべき課題は何か」を再確認すべく、平成 22 年全世帯を対象にアンケートが実施された。その結果、「あいさつ・声かけ」と「マナーの向上・ルールの遵守」が最重要課題として浮かび上がってきた。



行動計画は「マナーの向上」から

そして、上記の課題を 2 大行動目標として掲げ、町内各字、校園、老人クラブなど合わせて 28 の団体が行動計画を作成し推進していくことになった。6 月に行動計画を策定し、11 月に中間報告を青少年育成大会で発表、3 月に最終報告を提出し、成果と課題を次年度のスマイルネット総会で発表することとなった。

②「青少年育成指導者研修会」の開催

「地域一体となって取り組む青少年育成活動」をテーマとして、毎年 7 月の青少年非行・被害防止強調月間に合わせ一県内外で優れた実践をされている個人や団体をお呼びして、スマイルネット会員を対象として研修会を開催している。「地域ぐるみの子育て」や「ネット・スマホの危険性」等、その時々に応じた話題を取り上げるようにしている。今年度は、昨年度に続き新型コロナウイルスの感染状況を鑑み開催を見合わせた。

③「甲良町一斉ふれあいラジオ体操」の開催



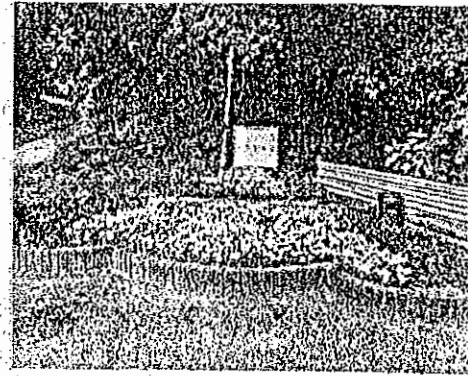
ラジオ体操後の紙芝居の様子

平成 25 年から夏休み初日に全町民参加の「一斉ふれあいラジオ体操」を企画している。年に一度のこのラジオ体操を心待ちにしておられる方も多く、子どもと大人が共に汗を流し、世代間交流がはかれる絶好の機会となっている。

ラジオ体操の後、プラスαの取り組みとして、紙芝居の実演や警察の方に来ていただき交通安全教室を開くなど、独自の取り組みをしている字もある。今年度は新型コロナウイルスの感染防止を考え、町一斉としてのラジオ体操は中止し字ごとに取り組んでいた。

④少年団花壇コンクールの取り組み

花を育てることで豊かな心をはぐくむことを目標に、昭和44年から春と秋の2回町内13の字の小学生が育てた子ども花壇のコンクールを実施しており、今年の春花壇で106回目を迎えた。土づくり、苗植え、花の手入れなど花壇日誌を付け、保護者や地域の方々の協力を得ながら自主的に取り組んでいる。

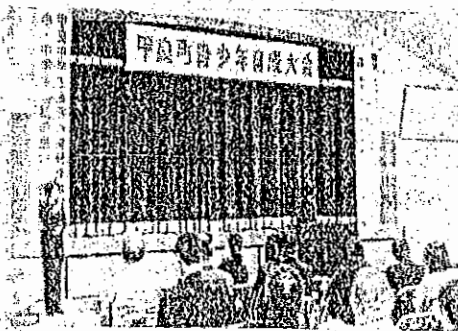


少年団花壇コンクール

11月の町青少年育成大会で、各字の子ども会花壇の紹介を行い、最優秀賞ほか6字を表彰している。

⑤「町青少年育成大会」の開催

スマイルネットの1年間の取り組みの集大成として、毎年11月に実施している。主な内容は、開会行事後の講演会、秋花壇の紹介と表彰、さらには町内小中学生3名による意見発表を行っている。普段住民にはあまり見えない子どもたちの活動の様子や「思い」を町民に発信する絶好の機会にもなっている。講演会では、例年青少年育成に関して県内外で活躍されている著名人をお呼びし、お話をうかがっている。



「私の思い」小中学生意見発表

4 「ふれあい つながる こうらの子」行動計画について

(1)「行動計画」構想の経緯

(平成22年度)

今、甲良の子どもたちを見て現状と課題は何なのか。そして、未来を担う甲良の子どもたちにつけてほしい力は何が？ まずは実態把握から始めようということで、小中学校在籍児童生徒と甲良町内在住の全世帯を対象としたアンケートを実施した。

(2) アンケート結果から

様々なご意見があったが、中でも「あいさつ」が出来ていないこと、「ルールが守れていない」といった大きく2つの課題に集約されていた。そこで、この二つの状況を改善していくために、二大行動目標(①「あいさつ・声かけ」と②「マナーの向上・ルールの遵守」)を設定し、それぞれ14の分館と関係14の諸団体が一致協力して取り組んでいくこととなった。①の「あいさつ」の後にあえて「声かけ」とあるのは、単なる挨拶で終わらず、住民同士のコミュニケーション、人と人との絆を深めていくことをめざしているからである。

(3)「行動計画」の取り組み方法

年度当初に分館長会を開き、行動目標の意義やねらいを説明し共通理解を

図る。そして、6月までに分館長さん、団体の長さんを中心に行動計画を策定する。さらに10月の中間報告で途中経過を振り返り、3月に最終報告という形で1年間を検証するという3段階の取り組みである。

(4) 成果と課題

この取り組みを始めて、昨年度で11年が経過した。そして、様々なところで成果があらわれてきている。「子どもとの距離が近くなったように思う」「意識して声掛けをするようになった」「以前に比べて大きな声で返事が返ってくるようになった」等々の評価がある一方、「交通ルールが守られていない」とか、「スマホや携帯等の発展に伴い、新たなルール作りが必要ではないか」といった指摘も出てきている。また、取り組む側からも、問題意識が役員レベルにとどまり、町民一人ひとりにまでなかなか浸透していかないところがあること、マンネリ化やかかけ声にとどまっているところがある等、いろいろなどころで悩みや問題点が出てきている。

「あいさつ・声かけ」や「マナーの向上・ルールの遵守」については、これぞ完璧というものではない。いつの時代においても社会生活を送る上で心がけるべき最も基本的な実践課題であり、また、常に向上に努めていかなければならないことである。こうらスマイルネットでは、この行動計画の取り組みの原点に立ち返り青少年の健全育成をめざしていこうと考えている。

5 今後の展望(まとめ)

こうらスマイルネット(甲良町青少年育成会議)の取り組みも半世紀を過ぎた。花壇づくりの取り組みも親子や地域の方々の協力など以前に比べ広がりが見られ、育成大会での子どもの意見発表なども大変中身の濃い内容となり、町民にも今の若者の健全な姿をアピールする場になってきている。

しかし、一方で全国的な傾向でもあるが、特に甲良町では少子・高齢化が急速に進み、花壇づくりの取り組み等これまでできていたことがやり難くなる状況が生まれてきている。また、そこに追い打ちをかけているのが、今回の新型コロナウイルスによる行事の中止や自粛である。ここ2年間で、こうらスマイルネットの多くの行事が中止に追い込まれた。子ども同士、また大人と子どもの関係づくりが阻まれる極めて憂慮する事態が起きてきている。

このような中で、私たちこうらスマイルネットの事業も大きな見直しを迫られてきている。従来のどちらかと言うと行事中心の活動から、新しい発想での事業展開が今求められている。そして、今日ほど文字通り「ふれあい」と「つながり」の重要性が増してきている時はないと思われる。今後も人と人との「ふれあい つながる こうらの子」を目指す日常の取り組みが更に深まっていくように努めていきたいと思う。

第2分科会 地域づくり

テーマ：前例・手本・答えのない時代の地域運営

～経営的視点を持って～

討議のポイント

- ・各地域が抱える地域課題は。
- ・各地域が抱える課題の解決に向けて、今何が必要か。
- ・誰もが安心して暮らせる、持続可能な地域づくりとは。
- ・地域づくりに対して社会教育委員に期待される役割は。

問題提起者 京丹後市久美浜町 佐濃自治会 事業推進部 部長

(佐濃自治会 前会長) 森本 賢一郎

助言者 京丹後市教育委員会 生涯学習課 課長補佐

坪倉 武広

司会者 奈良市鳥見小学校・幼稚園運営委員会

代表コーディネーター 奥村 麻希子

記録者 王寺町社会教育委員会 議長 高島 幸子

運営担当者 奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課

係長 後藤 克久

会場 なら100年会館 中ホール

第2分科会 地域づくり

テーマ 前例・手本・答えのない時代の地域運営
～経営的視点を持って～

京丹後市久美浜町佐濃自治会 事業推進部 部長 森本 賢一郎
(佐濃自治会 前会長)

I はじめに

○佐濃地区の状況

- ・17の集落(自治区) 7集落30戸未満 10集落30戸から80戸未満
- ・人口 約1,500人(令和4年3月末)
- ・学校統廃合により、H26年3月京丹後市立佐濃小学校が閉校
- ・H28年4月「区長会」「活性化協議会」「公民館」を統合し「佐濃自治会」発足

※活性化協議会とは

H16年4月に6町が合併して京丹後市が誕生。佐濃地区がある久美浜町は小集落が多いため、取り残されることのないよう、久美浜町内の旧村単位の8地域に翌年設置された組織

2 佐濃地区の取組

(1) 里力再生活動(佐濃地区活性化協議会H23～H27)

「かがやきの杜商店街」
第8回目は最高の人出

「いこいサロン☆スター」開設
ご馳走ランチ、コンサート



第8回かがやきの杜商店街



月1回のご馳走ランチ

・「久美浜コン」(婚活事業)

・「送迎付き高齢者体操&ランチ」



第4回婚活 夕食づくり



デイサービスと連携 体操&ランチ

(2) 佐濃自治会

・区長会組織の見直しなど新体制の構築

H28年4月佐濃自治会発足

- 1 何も行動を起こさないと佐濃地区は衰退する。
- 2 佐濃の課題を行政まかせにしないで、自治機能の発揮が必要である。
- 3 佐濃地区区長会は1年で交代し、課題解決に継続的に取り組めない組織となっている。
- 4 現在の区長会組織を改め、時代の変化に機敏に対応できる組織にしていく。
- 5 既存の3つの組織を統合し、存在感・発言力・問題解決能力を高めていく。

佐濃区長会

活性化協議会

佐濃公民館



名称：佐濃自治会

17集落区長会議（議決機関）

佐濃地区公民館

教育・文化・スポーツ

各専門部

住みよい地域づくり

- ・統合前の各組織及び各事業のブラッシュアップと存在感・発言力・問題解決能力の向上へ



京都府空き家特区認定 空き家ツアー



集落をまたがる獣害対策（メッシュ）

3 今後の課題と可能性

(1) 人口推移から見てきた各集落の傾向と課題

- ・U・Iターンの促進 <ハード面とソフト面からのアプローチ>

【人口減少が緩やかな集落】	【人口減少が大きい集落】
◆ 家族を連れてUターンがある ◆ 親が高齢化する前に世代交代が行われている ◆ 集落の持続には世代交代が大事だという認識が区民（親）の中にある	◆ 学校を卒業して都会に出ていて戻ってこない ◆ 40代後半～独身者が多い ◆ Uターンを求めない、諦めている区民（親）が多い

佐濃自治会の動き

- ◆ H29年10月 京都府と京丹後市の移住特区指定を受ける
- ◆ 令和元年に「Uターンの会」を設置、京都府の移住ツアーに参画
- ◆ 移住希望者の面談を自治会長、該当集落区長、市担当者と実施
- ◆ 令和3年10月現在 移住者5組（Uターン1組 Iターン4組）
- ◆ 女性のU・Iターンが増える→ 男性も付いてくる！
ターゲットは女性

- ・地域おこし協力隊員の配置（ヒト）
- 新しい地域コミュニティ設立支援事業（カネ）
- SNSによる地域魅力や生活基盤等の情報発信（モノ）
- 移住ツアーの企画実施（モノ）

U・Iターンに向けて

二つの事業を連動

1 地域おこし協力隊員の

配置事業（人の配置）

2 新しい地域コミュニティ

設立支援事業（予算措置）

ヒト・カネ・モノ

- 佐濃自治会からSNS等で、地域の魅力や生活基盤等の情報発信
- 移住・定住促進に向け移住ツアーなどの企画・実行
- 遊休農地を活用し、畑オーナーの募集と第二のふる里づくり

昭和の終わり頃までは、佐濃へのUターン者が一定数あり、集落の自治機能は何とか維持できていました。

平成に入ると、佐濃へのUターン者数は大幅に減少。その結果、少子化の進行とともに、高齢者だけの世帯も増加、空き家も増えてきました。

ところが、地域の急激な人口減少の中でも、約20年近く人口があまり減っていない集落があることがわかってきました。

該当集落では、両親が高齢化する前に世代交代ができ、該当集落の人口減少に歯止めがかけられていたのです。

佐濃自治会では、「各集落での世代交代が地域を元気にする！」と、U・Iターンに力を入れてきています。

U・Iターン者を増やすには、地域の生活や文化、子育て環境、医療、そして生活の基盤となる仕事などの情報を都会に住む人に発信・交流していくことが大切です。

『地域おこし協力隊員募集文』から

(2) 手本・答えのない時代の地域運営

- ・全集落民参加型による運営
- ・集落役員に複数の女性ポストを配置
- ・女性の発想力やネットワーク力で集落運営に光明を

現行の集落運営

● 世帯主=戸主=男性中心

- ◆ 役員は1年交代で課題に気づいた時に任期終了
- ◆ 例年どおり現状維持の活動や運営になっている

● 女性の意識も男性任せ

- ◆ これまで区(集落)のことはお父さんの役割という意識が定着
- ◆ 集落で唯一の女性の集いであった婦人会も解散しているところが多くなってきている

旧態依然 衰退の一途

これからの集落運営

◎ 全集落民参画による集落運営

<例えば…>

- ◇ 中・高校生以上男女が参画し、持続可能な集落運営に
- ◇ 中・高校生以上男女が一人一票の議決権を持つ

◎ 集落役員に複数の女性ポスト配置、集落の運営への関わり高める

◎ 女性の発想力やネットワークの力を集落運営に活かす

女性の参画で集落運営に光明

・コロナ禍は時代の変化の転換点

【都会の生活】

- ▽ 便利だが狭い住居・高い家賃
- ▽ 通勤ラッシュ・緊張感・犯罪の危険性大
- ▽ 希薄な人間関係・疎外感・不安感 精神的ストレス大

レッドオーシャン

【本市の生活】

- ▽ 庭付きの広い住居と安い家賃
- ▽ 豊かな自然・食生活・人間関係
- ▽ 医療、子育て環境良好・安心感
- ◎ 新しい生活スタイルの創造

ブルーオーシャン

第3分科会 ボランティア

テーマ：岩出市の地域学校協働活動におけるボランティア活動の状況について

～地域住民の学校に対する多様な協力活動～

討議のポイント

- ・各府県における地域学校協働活動の状況について。
- ・「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」が目指すものとは。
- ・地域住民等と学校との連絡調整等を行う地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の人材確保の課題について。

問題提起者 岩出市社会教育委員（岩出市立岩出第二中学校長）

高幣 泰男

助言者 和歌山県社会教育委員会 議長、きのくにコミュニティ

スクール推進協議会 会長

藤田 直子

司会者 奈良県CSアドバイザー

新谷 明美

記録者 十津川村教育委員会教育課 主査

東 光

運営担当者 奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課

主査 近藤 将

会場 ホテル日航奈良 飛天2

第3分科会

ボランティア

テ — マ

岩出市の地域学校協働活動におけるボランティア活動の
状況について

～地域住民の学校に対する多様な協力活動～

岩出市社会教育委員 高幣 泰男
(岩出市立岩出第二中学校長)

岩出市の概要

岩出市は、和歌山県の最北部紀の川流域にあり、昭和31年9月の町村合併当初は人口13,000人強の農業中心の町であったが、平成6年9月の関西国際空港開港に伴って和歌山市や大阪府のベッドタウンとして新興住宅、大型店舗、マンション等の開発が進み、住民の8割近くが他地域からの転住者となっている。そして、市化が急速に進む中で、平成には京奈和道が阪和道と接続したことで、現在では人口が續く地域である。



転住者となっている。そして、平成15年2月には人口が50,000人を超え、都市化が急速に進む中で、平成18年4月に市制が施行された。平成29年3月には京奈和道が阪和道と接続され、県内各地や大都市へのアクセスがよくなったことで、現在では人口が54,000人を超え、県内でも数少ない人口増加の続く地域である。

市内には、国宝や重要文化財の建造物を有する中世の僧兵や鉄砲で有名な「新義真言宗総本山根来寺」があり、春の桜、秋の紅葉シーズンには多くの観光客が訪れる。

2 令和元年度（平成31年度）までのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の歩み

岩出市では、平成20年度に根来小学校（本校校区）において「学校支援地域本部事業」が導入され、地域ボランティアによる学校支援活動が始まった。当初は、地域ボランティアによる各種の学校教育活動の支援や校庭の芝生化の手伝いが実施された。その後も根来小学校では、コーディネーターの配置や学校内のボランティアの拠点となる部屋の設置により活発な活動が続けられた。一方、他の市立小中学校7校においては長らく同様の活動が推進されることはなかった。

文部科学省では、平成27年12月に取りまとめられた中央教育審議会答申「新しい時代の教育と地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」を踏まえ、学校運営協議会の設置の努力義務化やその役割の充実などを内容とする「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正が行われ、平成29年4月1日から施行された。

和歌山県では、平成29年度から県内の小・中・高・特別支援学校の全てにおいて、学校運営協議会の設置（コミュニティ・スクール）とそれまでの「地域学校協働活動（きのくに共育コミュニティ）」との連携・協働を目指す「きのくにコミュニティスクール」の推進が始まった。

これらの動きに伴い、岩出市では令和元年度に全8小中学校に学校運営協議会が設置された。しかし、地域学校協働活動の導入は遅れ、先行する根来小学校や新たに組織化の推進が始まった2小学校の動きをモデルにしながら、各学校で導入への模索が続いていた。

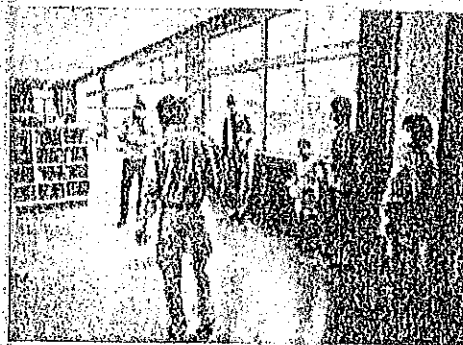
岩出市教育委員会では、その動きを活性化するために部内に共育コミュニティ・プロジェクトチーム（以下、PT）を設置し、令和2年度から3年間で学校・家庭・地域が一体となって子供の育ちや学びを支える取組の推進を始めた。特に、各学校における地域学校協働活動推進員（以下、コーディネーター）の配置と学校支援地域ボランティア（以下、ボランティア）の活動活性化を目標に、各学校への支援体制を整えることになった。

3 令和2年度～3年度の動き

令和2年度（1年次）には、根来小学校に加えて3小学校で学校支援体制とコーディネーターの配置が進んだ。教育委員会による学校支援体制として、ボランティアの保険代と活動費及び学校運営協議会運営に係る委員報酬と事務消耗費を助成することにした。また、ボランティアの人員確保への協力体制を構築するため、以前からある岩出市の各種団体の代表者へ事業の説明と協力依頼も行った。そのような中で、中央小学校学校運営協議会では、ボランティアの人員確保のため独自に人員を募集することになり、9月からは新型コロナウイルス感染防止のため、教室等の消毒作業が始まった。

働きかけを促進した結果、令和2年度のボランティア登録者数は4小学校で120名となった。前年度は1小学校46名だったことから、事業推進の成果と考えられる。

令和3年度（2年次）には、PTの活性化に社会教育指導員が関わることで、事業拡大を進めた。前年度の4小学校での事業推進に加えて、1小学校と本校への学校支援体制とコーディネーターの配置が目標となった。



教室等の消毒作業

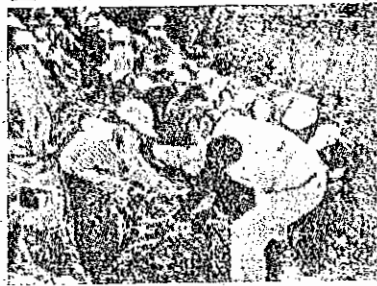
4 岩出市立小学校での地域からの協力活動の状況

令和3年度は、小学校でのボランティア加入が進み、6小学校合計285名となった。小学校での活動は、主に学校内や登下校時の活動の補助が中心となっている。その内容は、学習支援（調理・裁縫・ミシン等家庭科の補助、読み聞かせ、高校生による夏休み補充学習）、特別活動等支援（野菜の苗植えや収穫、将棋クラブ指導、昔の遊び指導、昼休みの小物づくり等の支援）、交通安全支援（下校指導、校区探検・町探検引率）、学習環境整備支援（教室等の消毒作業、本の修繕や整理などの図書室ボランティア）、施設整備支援（花壇や学校

園の整備、廊下のペンキ塗り、通学路の堤防の草刈り）等である。



1年生下校指導



さつまいも収穫



将棋クラブ指導

5 本校の概要

本校は、生徒数が1,500人を超えた岩出中学校から昭和62年に分離開校した。平成11年度の校区再編により、生徒数も増加傾向が続き、後に県下最大の中学校となった。平成25年度には生徒数が900人を超えたこともあるが、現在は、全国的な少子化傾向もあり、今年度の生徒数は624人（7月1日現在）となっている。本校の校区は、大阪府に隣接し、保護者の大半は共働きで核家族が多く、比較的豊かな生活環境にある家庭と経済的な困難さを抱える家庭が混在している。

生徒は、校区の4小学校から進学し、大半は自転車通学である。生徒の気質は明るくおおらかで、礼儀正しく、また学習意欲も高く、真摯な態度で学習に取り組んでいる。クラブ・チーム活動が盛んで、各種大会で優秀な成績を収めている。その一方で、自己中心的で忍耐力や持続力の乏しい生徒も見受けられ、基本的な生活習慣の欠如や規範意識の低さから周囲の雰囲気になじめない面もあり、生徒指導上の課題となっている。

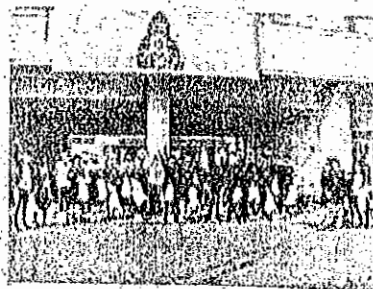
保護者は、学校教育に関心が高く協力的で、育友会活動等への参加も積極的である。地域は、青少年の健全育成に熱心な方が多く、年々学校教育への協力体制が整ってきている。

6 令和3年度の本校における地域からの協力活動と地域に向けた活動

本校では以前から、きのくにコミュニティスクール推進にあたって課題意識を持っていた。「ボランティアを活用したいが、どう始めていいかわからない。」「コロナ禍で外部から学校に入ってもらうのは気が引ける。」「小学校のように学校へ来てもらう活動が少ない。」というような悩みがあり、入り口を探ることができていなかった。そこで8月末に、管理職、コーディネーターの松田晃作氏、教育委員会担当者が集まり、学校の要望に合う形で計画を進めるための打合せを行った。学校から「草刈り」「校内の消毒作業」の補助について要望があり、松田氏が岩出市青少年育成市民会議委員長であることから地域の人材を集め、教育委員会は活動がスムーズに進むように支援することになった。9月22日の午後にグラウンドの草刈りを実施する方向で準備を進めた。松田氏には知り合いを中心にボランティア集めに奮闘していただき、9月には15名の登録があった。学校では、教育委員会からのボランティア活動に係る活動費の助成を活用し、草刈りに必要な用品を購入して準備した。当日は、8名のボランティアの参加があり、管理職2名、教育委員会担当者2名と一緒に

に作業が実施された。ボランティアの方々は草刈り機の扱いは手慣れたもので、広いグラウンドはみるみるきれいになっていった。刈った草を集めて、クリーンセンターへ運び入れるところまで作業していただき、約3時間半かけて終了した。事後には、普段グラウンドを使っているクラブ・チームの生徒たちから感謝の手紙をボランティアの方々に届けた。

また、令和3年度以降、本校生徒会は生徒たちに呼びかけて定期的に校内清掃を続けていた。毎回参加していた生徒たちの「地域もきれいにしたい。」という声から、通学路である道路周辺を清掃することが決まり、10月21日の放課後に実施する計画が進んでいた。その活動を後押しするために、ボランティアによる危険個所の安全見守りと生徒たちへの声掛けをしていただくことになった。当日は、生徒会役員と有志生徒30名が約1時間の清掃活動を行い、7名のボランティアが見守りをしてくださった。地域の方やボランティアの方々からの声掛けや地方紙の取材があり、生徒たちは張り切って活動を行い、ごみ袋8袋分のごみを拾い上げた。



地域清掃活動の様子

さらに、本校では長年にわたって、第1学年全員で地域清掃活動を実施してきた。令和元年と2年はコロナ禍により中止したが、令和3年度には感染が落ち着いている時期（12月15日）に実施することになった。近年、学校周辺に新たに新興住宅地が開拓され家も建ち並び、学校周辺や校区内での交通量が増加している。そのため、ボランティアには活動中の生徒の安全確保と生徒とのふれあいのために協力していただくことになった。当日は、190名の生徒が活動し、ボランティア20名には見守り及び一緒に清掃活動をしていただいた。約1時間、4ルートでの活動で、ごみ袋27袋分のごみを拾い上げ、地域をきれいにすることができた。

以上の活動は、和歌山県生涯学習課が実施した研修会や座談会の中で数回にわたり紹介された。また、3月に開催された「きのくにコミュニティスクール推進フォーラム」では、本校のボランティア活動推進の要として活躍中の松田氏が、パネルディスカッションのパネリストとして登壇し、活動の経過や成果を報告した。本校からは3名がオンライン参加し、先進的な山口県の取組を紹介した講演会や松田氏が登壇したパネルディスカッションを視聴した。今後の本校の活動に活用できる内容も多く、是非取り入れていきたいと考えている。

7 令和4年度の本校の動き

コロナ禍が長期化する中であるが徹底した感染拡大防止対策に取り組みながら、令和4年4月7日に始業式、8日に入学式と令和4年度をスタートすることができた。今年度の生徒の活動に注目すると、自分たちの力でよりよい学校づくりをしていこうと生徒会が全生徒に訴えている。4月から、朝の挨拶活

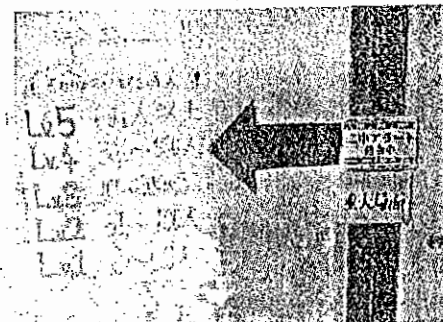
動（腹の底から「おはよう」政策）、校内外清掃、生徒会新聞・ポスター掲示、新型コロナウイルス政策（二中アラート）などを実施している。

また、校内に意見箱を設置し、学校生活に対する生徒の意見を集めている。学校改善の小さな一歩であるが、生徒自らが取り組む大きな力となっていくよう学校全体で支援していきたい。生徒が学校でより快適に過ごす環境を整えるには、生徒の力だけでは難しい。そこで、グラウンドの草刈りなどボランティアによる地域人材の力を借りて校内美化・環境改善を進めたいと考えている。

生徒会による地域美化や学年による地域清掃は、中学生が地域の方と言葉を交わすことができる機会となっている。地域の人とのつながりを実感することができ、これまでよりも地域に貢献しようという意識の高まりも見られている。今年度も生徒会の活動は盛んであり、通学路清掃活動も計画している。また、学年の地域清掃も年間行事予定に組み込んでいることもあって、見守り活動をボランティアの方をお願いしていくことになる。

近年、和歌山県や近畿地方周辺で地震が頻繁に発生し、南海トラフ全域における大規模地震発生の切迫性が高まっている。昨年度、「学校と地域とのつながり」という視点から、中学校が実施している防災訓練や地震時の避難訓練を地域とともにできないかとコーディネーターの松田氏と話し合ってきた。計画・実行を試みたが新型コロナ感染の流行が続いたので実施することができなかった。そこで今年度、手始めに学校周辺の自治会役員と合同で訓練を実施できるよう計画を進めていきたいと考えている。

今年度もコロナの影響で感染防止対策の続く中であるが、「学校と地域とのつながり」を大切に、学校からの情報発信や地域人材の活動により、生徒を中心とする学校づくりが持続的な取組となるようにしていきたい。



「二中アラート」



「意見箱」

8 これまでの活動の課題と今後の展望

令和3年度は本校以外の7小中学校が第3回学校運営協議会の開催を中止・縮小したが、本校では3回すべてを開催することができた。それは、委員から次年度の活動推進に向けてぜひ開催したいと熱望する声からであり、当日は活発な意見が出された。令和2年度までは、各委員が意見を自由に出し合って課題を共有化することが不十分で、学校側から一方的な報告と授業・行事参観のみであった。今後はもっと質的に充実した協議会とするために、熟議を行うとともに、部会制、教職員の参加などを進めていきたい。また、令和3年度のボランティア登録者数は初年度ながら29名確保できたが、さらに登録者数を増やして活動を充実させたい。ボランティア活動は、無理のない範囲で楽しんで参加してもらうこと、一部の人の負担にならないようにすることが大

切である。現在は、松田氏にコーディネーターとして活躍してもらっているが、今後は複数配置を考えたり、活動に応じた連絡調整係を配置したりすることも考えていきたい。今後の活動方法としては、生徒たちの自己有用感や自尊感情が醸成されるような活動を行いたい。例えば、校区小学校に対しての活動や地域貢献活動、将来の地域の担い手育成やまちづくり参画を目指した中学生と地域の懇談会やワークショップ、校種間連携（たて）・中学校連携（よこ）・中学校区連携（エリア）などの学校間のつながりを意識した合同防災訓練や合同地域清掃活動などが考えられる。

岩出市では、令和元年度から全小中学校に「学校運営協議会」が設置され、今年度中には「地域学校協働活動」が実施される予定である。本校では、令和3年度に実現したが、岩出中学校では今年度がスタートになる。後発スタートとなると、ボランティアの人員確保が困難になることが予想される。岩出市全体で「きのくにコミュニティスクール」を推進するには、本校や小学校と重複した登録を促していくような全学校の協力体制が必要であり、教育委員会のサポート体制もさらに充実させる必要がある。

しかしながら、導入によって学校の負担が増えることは本末転倒である。学校・家庭・地域の本来やるべき領域で子供たちの育成を進めながら、三者が協働してできる活動を探り、学校だけのメリットを考えるのではなく家庭や地域とWin-Winの関係を構築していくことを目標にして、その先には学校を核とした地域の活性化を進めていければと考えている。

第4分科会 学校・家庭・地域の協働

テーマ：これからの地域と学校の連携・協働について

討議のポイント

- ・さらなる学校・家庭・地域の協働に向け、どのように地域の教育力を向上させるか。
- ・地域の人材や魅力を活かすための取組について

問題提起者 加東市教育委員会教育振興部 生涯学習課

主査 福島 奨平

助言者 兵庫県教育委員会事務局社会教育課

主任指導主事兼社会教育班長 小池 宏尚

司会者 上牧町教育委員会事務局社会教育課

係長 滝上 真紀子

記録者 天理市教育委員会事務局まなび推進課地域学習係

課付課長 長岡 律子

運営担当者 奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課

主査 今西 健

会場 なら100年会館 大ホール

第4分科会 学校・家庭・地域の協働

テーマ これからの地域と学校の連携・協働について

加東市教育委員会教育振興部生涯学習課 主査 福島 奨平

1 はじめに

加東市は、兵庫県南東部に位置し、平成18年3月に3つの町（社・滝野・東条）が合併して誕生した人口約4万人の市である。酒米「山田錦」の特産地として知られ、東条湖、名勝闘竜灘、国宝朝光寺をはじめとする様々な名所があり、昔から受け継がれてきた伝統や文化・豊かな自然に恵まれているところである。「山よし！技よし！文化よし！夢がきらめく☆元気なまち加東」を合言葉に、伝統と文化を大切にする気風が脈々と受け継がれている。

2 地域子ども教室の取組

(1) 現状

加東市では、放課後対策事業の適正な運営を図るため、加東市ひょうご放課後プラン事業運営委員会を設置し、地域の参画を得て子どもたちの安全・安心な活動拠点として、学習、スポーツ、文化活動または地域との交流活動を行う場を提供する「地域子ども教室」を実施している。

現在は、市内8教室11会場を拠点とし、地域の指導者や学生ボランティアの協力を得て実施している。各小学校区の活動拠点としては、実情に応じて、学校施設、あるいは地域の社会教育施設等を活用している。令和3年度の実績としては、登録児童数は、263人、延べ参加児童数は、2,399人、活動に携わる指導者の登録は、79人であった。昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、開催予定であった期間のうち、一部開催を中止したことを受け、登録者や延べ参加人数は例年より減少してしまった。

(2) 充実した活動に向けての具体的な取組

① 子どもたちが過ごしやすい居場所づくり

学校規模や地域性により、教室の運営方法は様々であるが、各教室では、放課後の安心安全な居場所となるように、子どもたちのよりよい成長を願って取り組んでいる。子どもたちの多様な要望に応えられるように、必要な遊び道具を準備したり、安心安全に過ごせるようにルール作りや声掛けをしたりするなど、心がけている。

また、子どもたちにとって学びや楽しさの多い時間となるように、季節の行事や地域の特色を生かしたイベントを企画したり、手作りの遊び道具や工作できる材料を準備したりと、それぞれの教室で工夫した教室運営が行われている。

② 多様な人との関わり

加東市では、令和2年度に「生涯学習サポーター倶楽部」制度を創設し、地域の人材発掘に努めている。その中で、主に兵庫教育大学と連携し、学生ボランティアの積極的な参加を促している。それにより、兵庫教育大学

の大学院生や留学生、他大学の地元学生の積極的な参加があり、継続的に参加している指導者だけでなく、多様な年齢、地域の方と幅広く関わることで、子どもたちにとっては刺激となり、とても良い経験となっている。

また、公民館登録団体、地元の企業、また自身の知識や経験を活かして活動されている地域住民の方に講師・指導者として登録していただいている。令和4年度は、そのような方たちと連携し、地域子ども教室の活動時間において、子どもたちに様々な体験活動の機会を提供したいと考えている。

③「社会教育事業実践への手引き」の活用

令和3年度、加東市社会教育委員の会議にて、「社会教育事業実践への手引き」を作成した。これは、社会教育に携わる市民と行政が各事業の実践について共通理解することによって、それぞれの事業をより充実したものにするために、これまでの基本計画という形ではなく、事業に直接関わっている実践者や指導者に読んでいただけるような『手引き書』という形で作成した。内容としては、社会教育がもつねらいを理解した上で、事業の目標や計画を立て、それを評価し、さらに改善するためにはどのようなことに留意するべきなのかという実践要領として使ってもらうことを目指したものとなっている。

現在、地域子ども教室の実施については、教室運営に携わる方を中心に構成する「加東市ひょうご放課後プラン事業運営委員会」により、事業の目的を確認したり、各教室の活動状況を交流したりしている。しかし、実施自体を成果として捉えることはできても、地域子ども教室運営に関しては、評価が不十分となっている現状がある。そこで、運営委員会において教室運営に携わる方に手引きの内容を説明し、ご理解いただいた上で、毎回の教室運営の計画を立て、子どもたちの様子や会話からわかることを通して、実施内容を評価し次回開催する際に生かせるように、今後は進めていけたらと考えている。

3 コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の連携

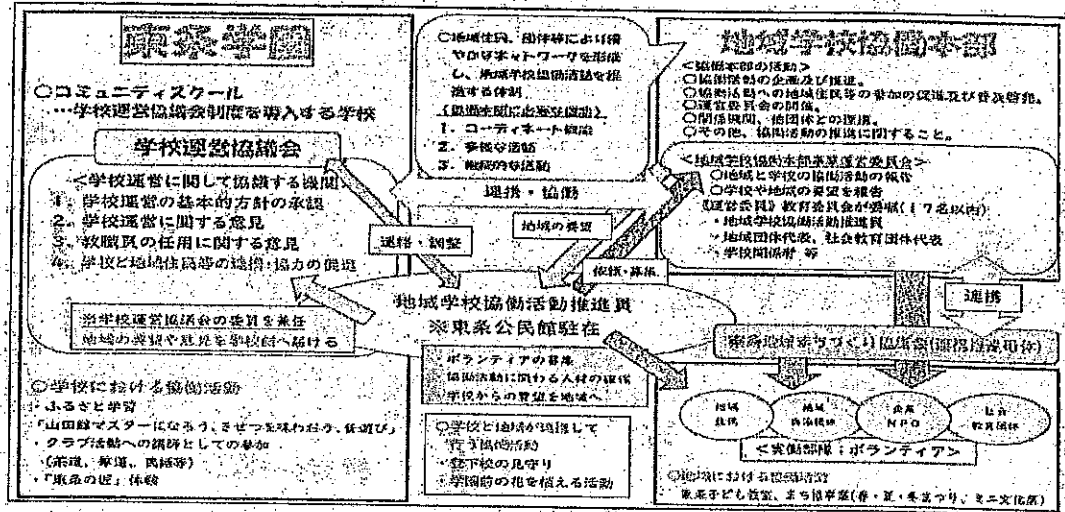
加東市では、「人間力の育成」を掲げ、小中一貫教育をとおして、ふるさとを愛し、自らの夢に挑む自立した子どもの育成を目指している。令和3年4月には、東条学園小中学校がコミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）として開校し、「地域とともにある学校づくり」を目指している。そのために、地域学校協働活動推進員が、学校と地域の橋渡し役となり、地域の声を学校へ、学校の声を地域へ届ける役割を担っている。

一方で、コミュニティ・スクールと両輪となる地域側の組織として、令和3年度に東条地域において地域学校協働本部を立ち上げた。東条地域学校協働本部では、地域学校協働活動推進員が学校と公民館を行き来し、地域学校協働活動の推進について話し合う運営委員会を設置している。さらに、これまで東条地域で多様な組織、団体とつながりがあり、地域における様々な活動を中心となって推進してきた「東条地域まちづくり協議会」を連携推進母体として、本部と積極的に連携できる体制を築いている。

令和4年度の具体的な活動としては、地域学校協働本部運営委員会を年4

回開催し、学校や地域の要望を受け、地域学校協働活動の推進に向けて話し合う予定である。5月に実施した第1回運営委員会では、東条学園の子どもたちの安全を守るため、通学路の見える化などの見守り活動の充実を図るとともに、地域の方との交流の機会を創出するため、子どもたちの作品を地域で展示する取組などについて話し合いを行った。

また、東条地域の区長、団体を始めとした様々な方が集まる東条地域まちづくり協議会の総会において、地域学校協働活動について協力を依頼した。



＜東条地域学校協働本部の体制＞

今後も多様な地域の方々の協力を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、そして、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働できることを期待している。

4. 今後の課題と可能性

地域子ども教室については、多くの地域住民の参画や、指導者の皆様のご協力のもと、すべての学校区で年間を通して実施することができている。継続して参加している指導者の方が多く、地域の子どものことをよく理解し、子どもたちとのつながりも強いように感じる。その分、参加する子どもたちは安心して過ごすことができ、継続して参加しようという意欲にもつながっているように思う。しかし、指導者には高齢の方も多く、その方々が参加できなくなった場合には、現状のような運営が難しくなるのではないかと危惧している。そこで、後継者を育て、現状の運営の良い点をどう引き継いでいくかということが、地域の教育力の向上という観点からも重要になってくると考える。

また、少子化や共働き家庭の増加などの課題を踏まえると、今後は学校、家庭だけでなく、より一層地域全体で子どもたちの学びや成長を支える必要があると考える。そのためには、「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」に重要な役割を果たす、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部が連携した取組の充実が求められると思う。「地域の子どもは地域で育てる」という思いをもち、それぞれの地域の人材や魅力を活かし、今後も地域全体のさらなる教育力の向上を目指して取り組んでいきたいと思う。

第5分科会 人権教育

テーマ：全ての人にとって生きやすい社会をめざして
～子育て中の外国人ママの居場所づくり事業から～

討議のポイント

- ・家庭・地域における身近な人権課題について、いかに取組を進めていくか。
- ・人権教育を推進するうえで、地域における多様な人たちの支援や社会参加・学び合いのあり方について考える。

問題提起者 公益財団法人とよなか国際交流協会 事業主任

山本 房代

助言者 関西学院大学教育学部 准教授 濱元 伸彦

司会者 奈良市教育委員会教育部地域教育課地域学校連携係

地域学校連携推進員 菊池 由利

記録者 生駒市教育委員会生涯教育課 主幹 和田 真人

運営担当者 奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課

主査 内山 努

会場 なら100年会館 小ホール

第5分科会 人権教育

テーマ 全ての人にとって生きやすい社会をめざして
～子育て中の外国人ママの居場所づくり事業から～

公益財団法人とよなか国際交流協会 事業主任 山本房代

1 はじめに

豊中市について

豊中市は、大阪府北部に位置する中核市である。人口は約40万人、うち外国籍住民は約6,200人（2022年6月末時点）で、人口の約1.5%を占める。外国籍住民の内訳は、韓国・朝鮮、中国、ベトナム、フィリピン、ネパールなどアジアの国が約9割を占めている。

豊中市は1984年に「人権擁護都市宣言」をおこない、1986年に市の「総合計画」の重要な柱として「平和で平等な社会づくり」をかかげている。豊中市人権啓発基本方針に、「同和行政をすすめるなかで、同和問題の啓発事業は年をおって重要課題に位置づけられてきた。そして人権尊重精神の普及・高揚は、障害者問題や女性問題、在日外国人問題などの分野にもひろがりを見せ、それぞれが行政課題として次第に明らかになってきた」（※1, p. 7）とあるように、全市的に人権課題に取り組んできた経緯がある。

(1) 公益財団法人とよなか国際交流協会 について

公益財団法人とよなか国際交流協会（以下、協会）は、1993年に豊中市により財団法人として設立された。2010年に公益財団法人となり、2012年度以降は、とよなか国際交流センターの指定管理者として豊中市における外国人市民の支援、市民同士の国際交流事業などを実施している。



Association for Toyonaka Multicultural Solidarity

約30の事業を実施しているが、大きく3つの事業を軸として展開している。「日本語活動事業」「子ども・若者事業」「相談サービス事業」である。

協会キャラクターの「コモとスース」愛称はATOMS (Association for Toyonaka Multicultural Solidarity)

(2) 「日本語活動事業」について

「日本語活動事業」は、地域に住む日本人市民が活動の担い手となって運営しており、大きくわけて「日本語交流活動」と「おやこでにほんご」という2つの事業がある。

「日本語交流活動」は、週5日、7つの活動が各ボランティアグループによって運営されている。市民同士が日本語で交流しながら出会い、つながり合う場づくりを目的としており、日本語の指導を中心とするいわゆる「教室型」ではなく、「交流型」の日本語活動である。交流型の活動をする中で、いざというときのライフラインとなるような人間関係づくりがおこなわれている。

(3) 「子ども・若者事業」について

「子ども・若者事業」には、小学生～高校生を対象とした「子ども母語教室」「学習支援・サンブレイス」と高校生以上を対象とした「若者のたまりば」がある。「子ども母語教室」「学習支援・サンブレイス」では、小中高校生の外国にルーツを持つ子ども達が、自分の母語・母文化にふれたり、好きなことをしたりしながら、外国ルーツの先輩・仲間と出会う場として、ルーツをありのままに肯定できる場づくりをめざしている。「若者のたまりば」は、外国にルーツをもつ若者同士が共に料理をつくったり、手仕事をしたりしながら、交流する場・居場所として実施されている。いずれの活動においても、外国にルーツをもつ先輩「ロールモデル（目標となる人）」や、ピア（仲間）との出会いを大切にしている。

(4) 「相談サービス事業」について

「相談サービス事業」では、多言語相談サービスとして週5日、多言語による相談事業を実施している。主任相談員、専門相談員に加えて、外国人女性が多言語スタッフ（中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語のスタッフがいる。英語はフィリピン語やインドネシア語のスタッフが兼任）として関わっている。日本在住の外国人女性が多言語スタッフとなることで、社会の中でもより周縁におかれやすい女性が相談しやすい体制をつくっている。

上記の事業に共通の考え方として、「安心」・「エンパワメント（本来持っている力を発揮すること）」がある。参加者が心から安心しながら、自分の力を思う存分発揮できる事業づくりを基本としている。

2 「おやこてにほんご」の取組

「おやこてにほんご」は、「日本語活動事業」に位置づけられているが、参加者・ボランティアが共に子育て中の女性であるという点が他の日本語活動とは異なる。以下、「おやこてにほんご」について紹介する。

(1) 事業概要

活動日時：毎週火曜日 午前10時～12時

（学校園の長期休みは、活動もお休み）

活動場所：市内の図書館（3カ所）

「しょうないおやこてにほんご」（於庄内図書館）※市南部

「おかまちおやこてにほんご」（於岡町図書館）※市中部

「せんりおやこてにほんご」（於千里図書館）※市北部

参加対象者：子育て中の外国人女性とその子ども

活動の担い手（ボランティア）：小学生までの子どもを子育て中の女性

事業の目的：子育て中の外国人女性に対する地域の情報収集の場、居場所の提供

備考：庄内図書館には、多言語図書・漫画・小説などを集めた「多文化コーナー」がある。（外国語図書約1,700冊）。岡町図書館の「世界のこどもの本の部屋」には、およそ50の国の子どもの本が約7,000冊ある。千里図書館は、市内で最も利用者数が多い。

（※2）

(2) 事業実施の経緯（※3, p.6-10より）

1998年に外国人女性が多言語スタッフに従事しはじめたことにより、外国人女性からの相談は増加した。2000年ごろから「出産育児をする外国人のための交流会（外国人ママの交流会）」などを実施していたが、日常的な取り組みには発展してこなかった経緯がある。その後、2002年に「親子参加型日本語教室 おやこてにほんご」として豊中市男女共同参画推進センター「すてっぷ」において、小さい子ども連れの母親でも参加できる日本語事業を立ち上げたのがはじまりである。ボランティアは、これまでの日本語交流活動の参加者に声をかけて募っていた。その中でも、小さいお子さんのいる日本人ボランティアに、外国人女性からの質問が集中した。それは子育て中に直面する日本社会の文化・習慣の違いや、制度についての疑問などだった。子育て中の外国人女性にとっては、日本語学習よりも、子育ての中の悩みについて寄り添ってくれる存在が必要だったのである。その後のボランティア募集においては、地域での社会参加をしたいという子育て中の女性に限定して、場づくりを進めることになった。

また、事業2年目以降は、活動場所を図書館に変更したことから、活動がより地域に密着したものになるきっかけとなった。とよなか国際交流センターは、豊中市中部に位置していることから、南部や北部に住む人にはアクセスがよくなかったため、市の南部・中部・北部にそれぞれある図書館において活動することにした。それにより、子育て中の外国人ママが自分の住んでいる地域で、その地域の日本人ボランティアや他の外国人ママとつながり合うことができるようになった。こうして、「おやこてにほんご」は市民活動として、より独自のものとなっていった。

2004年以降は、豊中市の「子ども読書活動推進計画策定委員会」に、「おやこてにほんご」のボランティアや協会職員が就任し、計画を共に進めていく中で図書館との信頼関係づくりもすすんだ。現在も「豊中市子ども読書活動連絡会」で、「おやこてにほんご」ボランティアと協会職員が参加し、地域の子育てや読書に関わる多様な機関の人たちと連携している。

(3) 活動を通じて見えてきたこと

『子育て中の外国人が子連れて通える日本語教室』、というコンセプトでスタートした「おやこてにほんご」の活動であったが、活動を進めるにつれて多様な側面が見えてきた。

○参加者の声から

「娘が1歳の時に来日して豊中にきましたが、いつも家に二人っきりでこもっていました。半年くらい経った時、「娘のために友達をつくりたい、このままじゃいけない」という思いが強くなってきました。そんな時、たまたま市役所で国際交流センターのタイ語のパンフレットをみつけました。…図書館の会場に入る時はとてもドキドキしましたが、ボランティアが温かく迎えてくれて、私と同じような外国人のママたちもいたのでほっとしました。」

（※3, p.29）

「娘が生まれて近所のママ友と出会いたかったんですが、ここに来て近所に外国人のママ友ができたことは、この活動に来てよかったことの一つです。…長女が小さい時は、ボランティアの人が活動中によく寝かしつけてくれたり、面倒をみてくれたり、サポートをしてくれました。…毎週気軽に来れる場所になっています。」(※3, p.30)

外国人女性の中には、来日後まもなく妊娠し、地域社会とのつながりが少ないまま、出産・子育てに至る人も少なくありません。そんな中で、同じような子育て中の女性たちとの出会いは、孤立しがちな子育て中において地域社会とつながる一歩となっています。

「最初は怪しいかと思ったけど、図書館だから安心かな、ちょっと見てみようと思った」…ともに子育ての話をしたり、子どものお弁当を作ってみたり。「学校のお道具箱って？」となれば一緒に買いに行ったり。野菜の収穫やピクニックなども親子で経験した。「リフレッシュ、リラックス、安心して暮らせる居場所。それに何でも聞ける。日本人のママ友も、中国人のママ友もできてうれしかった。子どもも友だちが増えた。」(※4)

開催場所が図書館という点も、外国人女性にとっての活動参加のハードルを下げ、「いってみようかな」と思えるきっかけとなっています。地域の公共施設で開催されているということから、ビジネスの勧誘などを懸念する必要がなく、安心感をもって活動に参加する人が多いです。

○ボランティアの声から

「外国人ママさんやボランティアの方々を支えるところが支えられ、毎週育児の疲れをいやされて帰っています。もう少し落ち着いたら、言葉や外国人をとりまく環境などもっと知りたいと思いました。」(※3, p.20)

「インド人のお母さんにインド家庭料理教室を開いてもらい、参加者も増え、大好評でした。そのお母さんが、教える立場になったことで、「お客様」から「仲間」になったのを実感しました。「教える側」「教えられる側」ではなく、「せんりおやこ」を日本人・外国人に関係なく一緒に作り上げていければと思います。」(※3, p.23)

“支援者”としての関わりを意識していたボランティアが、日々の生活についてアドバイスを受ける立場になっていたり、子育て経験のある外国人ママからの一言で楽になったり、ということなどもあった。元職員も指摘するように(※3, p.11-12)、協会ではこうした「支援—被支援」の立場の“反転”について、特に“支援者”側の学びや思考の偏りをほぐすことにつながると考えている。「おやこでにほんこ」は、「子育て」という共通項を通じて、関わるママ同士が多様な関係をつむぎ、共にコミュニティをつくっていく営みであるともいえるのではないだろうか。

また、「おやこでにほんご」は、子育て中の日本人ママたちが「自分も何かしたい」と社会とのつながりを求めて参加している活動でもある。ともすれば、社会活動から取り残され、孤独を感じることもある子育て中の日本人ママが、子連れで参加できる活動として地域社会における住民参加のきっかけを提供しているともいえる。「おやこでにほんご」で活動したボランティアのママたちが、その後、自分たちで地域課題解決のための市民活動グループを立ち上げたり、転勤族のママが豊中市から去ったあとも新天地で外国人ママ向けのサークルを立ち上げたり、と「おやこでにほんご」をきっかけとして次のステップへ活動をすすめていくママさんも少なくない。



昨年度の活動の様子（「ごくりあう@home」（※5）より抜粋）

（4）今後の展望

①コロナ禍での活動

コロナ禍の2年間あまりは、図書館の休館やその後の感染対策・心理不安などで、従来通りの活動はできない日が多かった。しかし、親子共にストレスがたまりやすく、不安や孤独感をかかえやすい状況下だからこそ、つながりを継続させることが重要だと考えたママさんたちによって、さまざまな工夫のもとで活動は継続された。具体的には、活動場所を図書館から地域の公園に変更したり、Zoomでのオンライン活動に切り替えたりするなどし、定期的に活動がおこなわれた。昨年度は、ミカン狩りやお弁当作りなどのイベントなども感染対策をとりながら実施した。2022年度に入り、少しずつ従来の対面活動も再開している。

②今後の展開について

日本在住の外国人が増加の一途であり、今後も子育てをする外国人女性は増えるものと思われる。「おやこでにほんご」のニーズは途切れないと思われるが、一方で、働く女性は増えており地域によってはボランティアの担い手が不足することも考えられる。これまでも、ボランティアの方と共に運営してきた活動であるが、今後もその時々の方情やニーズにあわせて柔軟に対応していけたらと思う。

また、子育て中の女性が安心して通い、生き生きと活動できる場として、地域の団体や子育て機関・医療機関などと連携しながら、更に周知をすすめていけたらと思う。

3 全ての人のために生きやすい社会を目指して

「おやこでにほんご」の活動は、社会の中において周縁におかれがちな「女性」と「子ども」が地域の中で安心して暮らせる居場所、自分を取り戻し輝くことのできる場所として機能してきた。特に、図書館という市民にとって最も身近な公共施設の一室を使用することは、地域のママたちが安心して集うことのできる場として重要なポイントだったと思う。

現在では、千里図書館・庄内図書館とそれぞれ隣接する千里公民館・庄内公民館において、大人向けの日本語交流活動も開催されるなど、国際交流センター以外での活動の場は、より広がっている。

また、このような活動を通じて、施設職員にも地域で暮らす外国人の存在が見えるようになったことで、公共施設として何ができるかを考える機運が生まれてきたと感じる。図書館においては、定期的な図書の購入がある多言語図書コーナーの設置、指さして意思疎通が可能な多言語でのカードの常備、外国人向け情報発信コーナーの設置などが随時導入されてきた。このような多文化・多言語対応が充実していくことは、外国人住民にとって図書館がより利用しやすくなるだけでなく、多様な人が共に地域に暮らしていることを伝える役割も担っている。

公共施設において外国人市民が安心して集うことのできる活動をおこなうことは、広い意味でとらえると、多様な人々が出会い・学び合う場として、地域における社会教育が実践されている、といいかえることもできるのではないだろうか。そして、このような場における実践の積み重ねが、異なる他者への理解を深め、誰にとっても生きやすい地域社会がつくられていく確かな土台となっていくのではないかと思う。

【引用・参考】

※1：「豊中市人権啓発基本方針」豊中市、1992年

<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/keikaku/abunnyabetu.files/jinkenkeihatsu.pdf>

※2：豊中市の図書館活動II—統計・資料—令和2年度(2020年度)版

https://www.lib.toyonaka.osaka.jp/katsudou_toukei_2020.pdf

※3：「おやこでにほんごのあゆみ 2002年～2014年」, 2015年発行, 公益財団法人とよなか国際交流協会

※4：毎日新聞「つながり紡いで」

『図書館とつくる親子の居場所 外国人の子育てを支援』毎日新聞 2019/10/18 地方版

<https://mainichi.jp/articles/20191018/ddl/k27/040/266000c>

※5：「公益財団法人とよなか国際交流協会 2021年度年次報告書(概要版)【こくりゅう@home2021】」, 2022年発行, 公益財団法人とよなか国際交流協会

【参考文献】

※『多文化社会の社会教育—公民館・図書館・博物館がつくる「安心の居場所」』, 2019, 明石書店

全国社会教育委員連合の出版物紹介



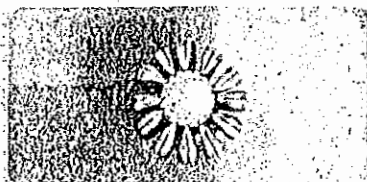
改訂版 社会教育委員のためのQ&A

A5判 98頁 / 定価 1,320円 大会特別価格 1,000円

Q&A形式で社会教育の特質をわかりやすく解説。社会教育委員の役割が具体的に説明されており、社会教育委員、社会教育行政職員の方々に必備の書。法改正に対応しております。

●内容の一部をご紹介します●

- ◆ 社会教育と生涯学習
- ◆ 「諸計画を立案する」とは
- ◆ 教育委員会への助言の方法
- ◆ 「環境を醸成する」とは
- ◆ 都道府県教育委員会の事務
- ◆ 「公の支配に属しない」とは
- ◆ 「組織的な教育活動」とは
- ◆ 「諮問に応じ」とは
- ◆ 社会教育委員制度の活性化
- ◆ 市町村教育委員会の事務
- ◆ 「社会教育を行う者」と社会教育委員
- ◆ 「専門的技術的指導又は助言」とは



社会教育委員バッジ タイタック型 (ピン式)

通常頒布価格 1,650円
大会特別価格 1,500円



住民参画による 社会教育の展開

B5判 184頁 / 定価 2,200円
大会特別価格 1,500円

戦後の社会教育の歴史の中に社会教育委員制度及び委員連合の歴史を位置付け、社会教育委員制度の今日的意義を明らかにしています。

※残部僅少につき、売り切れの際はご容赦ください。

社教情報

社教情報

(年2回発行)

A5判 64頁 / 定価 360円

大会特別価格 300円

特集テーマ

- No.81 「社会教育研究大会の企画と運営」
- No.82 「社会教育委員の研修」
- No.83 「社会教育士(称号)の創設とこれから」
- No.84 「新しい生活様式下における社会教育委員と関係行政機関の対応と課題」
- No.85 「社会教育委員の新たな流れ
～社会教育委員設置の通知から75年～」
- No.86 「地域学校協働活動と社会教育」
- No.87 「地域防災と社会教育」



お問い合わせ先

一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-1-6 日本弘道会ビル7階

電話 03-6380-8540 ホームページ <http://www.shakyoren.or.jp/>

FAXでのご購入申込用紙

FAX 03-6380-8541

ご注文金額が5,000円以上(税込)の場合は、送料が無料となります。

申込日：令和 年 月 日

書 名	特別価格 (税込)	数 量	金 額
改訂版 社会教育委員のための Q&A	1,000 円×	冊	
社会教育委員バッジ	1,500 円×	点	
住民参画による社会教育の展開 * 残部僅少につき、売り切れの際はご容赦ください。	1,500 円×	冊	
社教情報	第81号	冊	
	第82号	冊	
	第83号	冊	
	第84号	冊	
	第85号	冊	
	第86号	冊	
	第87号	冊	
合 計		冊	

ご 送 付 先	
団 体 名・ 部 課 名	* 個人でお申込みの場合は記入不要です。
ご担当者名 (お名前)	
住 所	
電 話 番 号	
ファクシミリ	
請求書の宛先名	
参加された大会名 (○で囲んでください)	
全国大会 (広島) 北海道 東北 関東甲信越静 東海北陸 近畿 九州	

* 商品送付時に、納品書・請求書 (振込先の口座名記載) を同封します。

社会教育には今、何が期待されているのか

講師 文教大学人間科学部・人間科学研究科

教授 金藤 ふゆ子

【プロフィール】

金藤 ふゆ子（かねふじ ふゆこ）

1962年 茨城県生まれ。専門は社会教育学、教育社会学、生涯学習学。1989年筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学。博士（教育学）。

東京都立教育研究所経営研究部社会教育室研究主事、常磐大学人間科学部講師・准教授・教授等を経て2013年より現職。

文部科学省政策評価有識者会議委員、第8期・9期中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員、厚生労働省社会保障審議会児童部会専門委員、第14期・15期茨城県生涯学習審議会会長、全国社会教育委員連合副会長等歴任。

【主な委員・社会貢献活動】

文部科学省政策評価有識者会議委員、2015年/3月～現在

厚生労働省社会保障審議会児童部会専門委員、2017年/10月～現在

文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員、2015年/3月～2019年/3月まで

全国社会教育委員連合理事、2017年/9月～現在

全国社会教育委員連合副会長、2019年/5月～現在

日本生涯教育学会常任理事、2002年/6月～2005年/5月まで

日本公民館学会理事、2010年/12月～2012年/11月まで

IJREE :International Journal for Research on Extended Education 編集委員、2013年～現在

【主な著書】

金藤ふゆ子編著『学校を場とする放課後活動の政策と評価の国際比較—格差是正への効果の検討—』、福村出版、2016年

金藤ふゆ子他著『子どもの放課後活動の国際比較研究』、福村出版、2012年

金藤ふゆ子著『生涯学習関連施設の学習プログラム編成過程研究』、風間書房、2012年

手打明敏他編著『社会教育・生涯学習』、ミネルヴァ書房、2019年

手打明敏他編著『＜つながり＞の社会教育・生涯学習』、東洋館出版、2017年

International Development in Research on Extended Education, Verlag Barbara Budrich, 2020, pp. 223-245

「社会教育には今、何が期待されているのか」

1. はじめに

2. 近年の国の政策の動向－社会教育に関する答申・法律・資格改正から考える－

1) 教育に関する近年の着目すべき答申

2) 近年の社会教育や教育に関する法律の改正

3) 社会教育主事資格要件の変更について

3. 多様な主体との連携・協働の推進のための新たな仕組み

1) 地域学校協働活動・地域学校協働本部

2) コミュニティ・スクール

3) 新放課後こども総合プラザ

4. なぜこれ程、学校と地域の連携・協働が求められるのか—その背景を考える—

1) 子どもを取り巻く問題状況：いじめ・不登校・暴力

2) 家庭や保護者に関する問題状況

3) 学校・教員に関する問題状況：教員の働き過ぎ・低い自己効力感

4) 地域に関する問題状況

5. 子ども達にとって体験を通じた遊び・学びは本当に有効か—実証的研究から考える—

1) 体験の力の調査研究

2) 外遊びと探求力の関連の分析

6. 社会教育関係者には何ができるのか—先導的事例の紹介・検討—

1) 岐阜県社会教育委員の取り組み

2) 宮崎県五ヶ瀬町の取り組み

3) NPO や企業との連携・協働

7. おわりに

分 科 会

会場：なら100年会館（大ホール・中ホール・小ホール） 時間：13時50分～15時50分
ホテル日航奈良（飛天1・飛天2）

第1分科会：青少年教育（滋賀県） 会場：ホテル日航奈良 飛天1

テ ー マ	地域の子は地域で守り育てよう ～こうらスマイルネットの取り組み～	
討議の ポイント	・「あいさつ・声かけ」「マナーの向上・ルールの遵守」を、全町民に浸透させるための効果的な活動とは。 ・少子高齢化が進む中で、青少年育成に関わる関係者の力量向上とネットワークの拡大のために社会教育が果たす役割とは。	
問題提起者	北 川 勝	こうらスマイルネット会長（甲良町青少年育成町民会議）
助 言 者	上 田 洋 平	滋賀県立大学地域共生センター 講師
司 会 者	高 橋 雅 代	生駒市あすか野小学校 主任主査
記 録 者	奥 田 益 三	奈良市社会教育委員会議 議長
運営担当者	城 武 宏	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査

第2分科会：地域づくり（京都府） 会場：なら100年会館 中ホール

テ ー マ	前例・手本・答えのない時代の地域運営 ～経営的視点を持って～	
討議の ポイント	・各地域が抱える地域課題は。 ・各地域が抱える課題の解決に向けて、今何が必要か。 ・誰もが安心して暮らせる、持続可能な地域づくりとは。 ・地域づくりに対して社会教育委員に期待される役割は。	
問題提起者	森本 賢一郎	京丹後市久美浜町 佐濃自治会 前会長 現 佐濃自治会 事業推進部 部長
助 言 者	坪 倉 武 広	京丹後市教育委員会生涯学習課 課長補佐
司 会 者	奥 村 麻 希 子	奈良市鳥見小学校・幼稚園運営委員会 代表コーディネーター
記 録 者	高 島 幸 子	王寺町社会教育委員会議 議長
運営担当者	後 藤 克 久	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 係長

第3分科会：ボランティア（和歌山県） 会場：ホテル日航奈良 飛天2

テ ー マ	岩出市の地域学校協働活動におけるボランティア活動の状況について ～地域住民の学校に対する多様な協力活動～	
討議の ポイント	・各府県における地域学校協働活動の状況について。 ・「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」が目指すものは。 ・地域住民等と学校との連絡調整等を行う地域学校協働活動推進員（コーディネーター）の 人材確保の課題について。	
問題提起者	高 幣 泰 男	岩出市社会教育委員（岩出市立岩出第二中学校長）
助 言 者	藤 田 直 子	和歌山県社会教育委員会 議長 きのくにコミュニティスグル推進協議会 会長
司 会 者	新 谷 明 美	奈良県CSアドバイザー
記 録 者	東 光	十津川村教育委員会教育課 主査
運営担当者	近 藤 将	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査

第4分科会：学校・家庭・地域の協働（兵庫県） 会場：なら100年会館 大ホール

テ ー マ	これからの地域と学校の連携・協働について	
討議の ポイント	・さらなる学校・家庭・地域の協働に向け、どのように地域の教育力を向上させるか。 ・地域の人材や魅力を活かすための取組について	
問題提起者	福 島 奨 平	加東市教育委員会教育振興部生涯学習課 主査
助 言 者	小 池 宏 尚	兵庫県教育委員会事務局社会教育課 主任指導主事兼社会教育班長
司 会 者	滝 上 真 紀 子	上牧町教育委員会事務局社会教育課 係長
記 録 者	長 岡 律 子	天理市教育委員会事務局まなび推進課地域学習係 課付課長
運営担当者	今 西 健	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査

第5分科会：人権教育（大阪府） 会場：なら100年会館 小ホール

テ ー マ	全ての人にとって生きやすい社会をめざして ～子育て中の外国人ママの居場所づくり事業から～	
討議の ポイント	・家庭・地域における身近な人権課題について、いかに取組を進めていくか。 ・人権教育を推進するうえで、地域における多様な人たちの支援や社会参加・学び合いのあり方について考える。	
問題提起者	山本 房代	公益財団法人とよなが国際交流協会 事業主任
助 言 者	濱元 伸彦	関西学院大学教育学部 准教授
司 会 者	菊池 由利	奈良市教育委員会教育部地域教育課地域学校連携係 地域学校連携推進員
記 録 者	和田 真人	生駒市教育委員会生涯学習課 主幹
運営担当者	内山 努	奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課 主査

社会教育には今、何が期待されているのか

金藤 ふゆ子
(文教大学人間科学部 教授)
2022年9月2日

1

1

0. 本日、お話ししたいこと

1. はじめに
2. 近年の国の教育政策の動向
—社会教育に関する答申・法律・資格改正から考える—
3. 多様な主体との連携・協働の推進のための新たな仕組み
4. なぜこれ程、学校と地域の連携・協働が求められるのか？
—その背景を考える—
5. 子ども達にとって体験を通じた遊び・学びは有効か？
—実証的研究から考える—
6. 社会教育関係者には何ができるのか？—先導的事例の紹介—
7. おわりに

2

2

はじめに:

そもそも社会教育委員とは何か？何が期待されているのか？

3

3

社会教育法(1946年6月10日)

(社会教育委員の職務)

第17条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

- 一 社会教育に関する諸計画を立案すること。
- 二 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を述べること。
- 三 前二号の職務を行うために必要な調査研究を行うこと。



※第二次世界大戦後、70年以上にわたり受け継がれてきた
制度
※我が国独自の制度

4

4

1

社会教育法第17条に記される社会教育委員のその他の職務

※ さらに社会教育法第17条第2・3項では

第2項:

教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べる事

第3項:

市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

以上を具体的な社会教育委員の職務として挙げている

5

5

なぜ、こんなに沢山の役割？

- ・社会教育委員は社会教育法に明記された非常勤の特別職公務員である。
- ・そのため、社会教育委員には幅広い職務・役割の遂行が期待されている。
- ・ではなぜ、そうした幅広い職務・役割が社会教育委員に期待され、社会教育委員という存在が必要なのだろうか？



6

社会教育委員が必要とされる理由

- ・ 第一は、自治体の社会教育(行政)は市民自らが決定するという市民参加を基本原則としており、社会教育委員の制度は市民参加を実現させる仕組みである。
- ・ 第二は、社会教育委員は社会教育に関する事業の全過程に対し意見具申ができる存在である。いわばオンブズマン(市民に代わって行政機関を監視し、行政機関による市民の権利・利益の侵害に対する調査及び救済の勧告を図る公職)的役割が期待されている。
- ・ 第三に、市民主体で各種事業を行うということ自体が、社会教育の特質である。社会教育委員は市民主体の社会教育を実現するための市民と行政の橋渡し・パイプ役である。そのため社会教育委員には、橋渡し・パイプ役の役割が果たせるように幅広い職務・役割を担う存在として位置づけられている。

7

7

2 近年の国の教育政策の動向

—社会教育に関する答申・法律・資格改正から考える—

8

8

社会教育と地域・コミュニティづくりに関する 近年の中央教育審議会答申

【2018年12月】

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(中教審答申第212号)

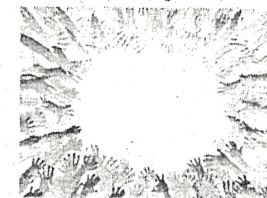
【2015年12月】

「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働のあり方と今後の推進方策について」(中教審答申第183号)

- ※ 2020年9月：第10期中央教育審議会生涯学習分科会議論の整理
 - 中央教育審議会生涯学習分科会「多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育～命を守り、誰一人として取り残さない社会の実現へ～」

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(中教審答申第212号)

- 人口減少が急激に進展する他、人生100年時代の到来、Society5.0といった高度情報社会の出現する中で新しい地域づくりが求められている。
- そこでは社会教育が基盤となり、地域の人づくり・つながりづくり・地域づくりに取り組むことが目指されている。
- 社会教育は今、個人の成長と地域社会の発展の双方にとって重要な意義と役割があると考えられている。



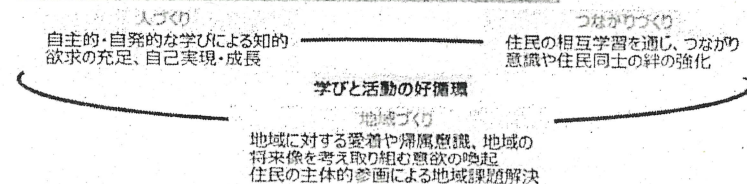
人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について (答申) 概要

第1部 今後の地域における社会教育の在り方

＜地域における社会教育の目指すもの＞

1. 地域における社会教育の意義と果たすべき役割～「社会教育振興策」として、人づくり・つながりづくり・地域づくり～
多様化し複雑化する課題と社会の変化への対応の要請
 - ・人口減少、高齢化、グローバル化、貧困、つながりの希薄化、社会的孤立、地方財政の悪化、SDGsの取組等
⇒ 持続可能な社会づくりを進めるために、住民自身が自ら主体的に取り組むことが重要
 - ・人生100年時代の到来、Society5.0実現の期待等
⇒ 誰もが生涯にわたる必要な学習を、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現へ向けに協働が必要

「社会教育」は個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割



注：中央教育審議会『人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)』(中教審第212号)2018年12月の概要の一部を引用。

学校と地域の連携・協働に関する法律

教育基本法の改正 (2006年12月20日)

(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)

第13条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

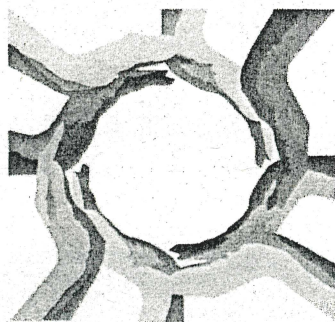


教育の目的を実現する上で、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力が重要であることにかんがみ、新たに規定。

13

13

3 多様な主体との連携・協働のための新たな仕組み



15

15

社会教育主事資格講習等規程の改正

- ・ 施行日：令和2年(2020年)4月1日
- ・ 改正の主な内容：
 - 1) 資格取得の科目の改正(社会教育法第11条第1項)
 - 2) 「社会教育士」の称号の付与(同法、第8条第3項)

⇒科目改正の趣旨：社会教育主事が、NPO、企業等の多様な主体と連携・協働して、社会教育事業の企画・実施による地域住民の学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに中核的な役割を担うことができることを目指す。

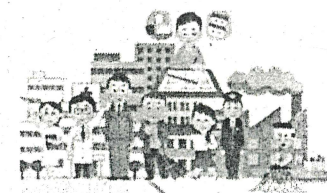
⇒称号付与の趣旨：社会の各分野で社会教育主事有資格者が活躍することは、社会全体の学習の充実と質の向上につながる。教育行政のみが活躍の場ではない。

14

14

地域学校協働活動とは？

➤「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。



(出典：文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」より引用、<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/chiiki-gakko/kyodo.html>、2022年8月閲覧)

16

4

地域学校協働活動の法的根拠

地域学校協働活動は、社会教育法第5条第2項により、学校と協働して行う以下の活動と規定されています。

- 学校の授業終了後又は休業日において学校、社会教育施設等で行う学習、その他の活動
 - ボランティア活動、社会奉仕体験活動、自然体験活動、その他の体験活動
 - 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して学校、社会教育施設等で行う教育活動、その他の活動
- (2017年・平成29年改正)



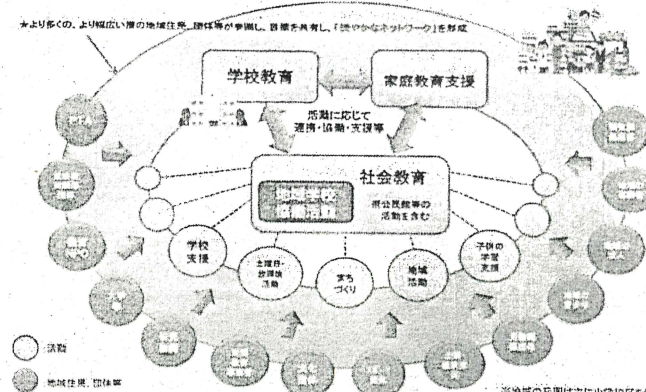
出典：文部科学省『これからの学校と地域』

https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/korekaranogakkoutotiiki_pamphlet2020.pdf

17

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

① 文化を担う活動に対して、どのような責任を担うのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
② 従来の地域学校協働活動だけではなく、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の創生を図る。



出典：文部科学省『学校と地域でつくる学びの未来』<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/chiki-gakko/kyoto.html>

18

地域学校協働活動の具体例

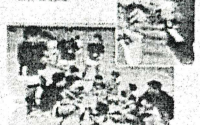
学びになるまちづくり 地域課題解決型学習に郷土学習

① 地域課題を把握し、その解決を図ったり、地域活性化のための方法を考え、実行する学習活動。
② 「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動。
③ 地域の歴史や文化の継承体験学習、郷土の伝統・文化伝承学習 など



放課後子供教室

① 地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動



地域未来塾

① 多くの児童生徒を対象に、教員のみや大学生などの地域住民の協力によって行う学習支援



家庭教育支援活動

① 育い育びが必要な子供、不登校傾向のある子供等への対応について、保護者や専門家と連携を図り



学校に対する多様な協力活動

① 各下校の参画、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、子供たちへの本の読み聞かせ、読書の奨励や読書活動の支援、企業等による芸術授業等の教育プログラム提供 など



地域の行事イベント、お祭り、お祭り、お祭り

① 地域イベントにおけるボランティア、体験学習、伝統行事やお祭りでの伝統文化・芸術の発表や展示の準備、地域の歴史・文化の継承への参画 など



19

地域学校協働活動推進員の配置

地域学校協働活動を推進するためには、学校と地域をつなぐコーディネーターの役割は必要不可欠です。「地域学校協働活動推進員」は、社会教育法に基づき教育委員会が委嘱する地域住民等と学校との連絡調整等を行うコーディネーターです。

「地域学校協働活動推進員」として法律に位置付けられた明確な立ち位置で地域学校協働活動を推進することにより、継続的で円滑な活動を行うことができます。



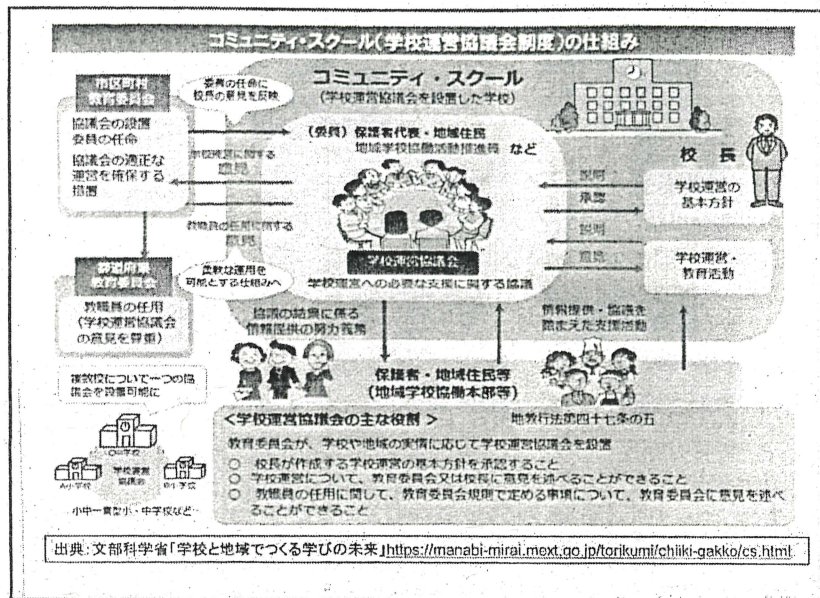
- 地域や学校の実情に応じた地域学校協働活動の企画・立案
- 学校や地域住民、企業・団体等の関係者との連絡・調整
- 地域ボランティアの募集・確保など



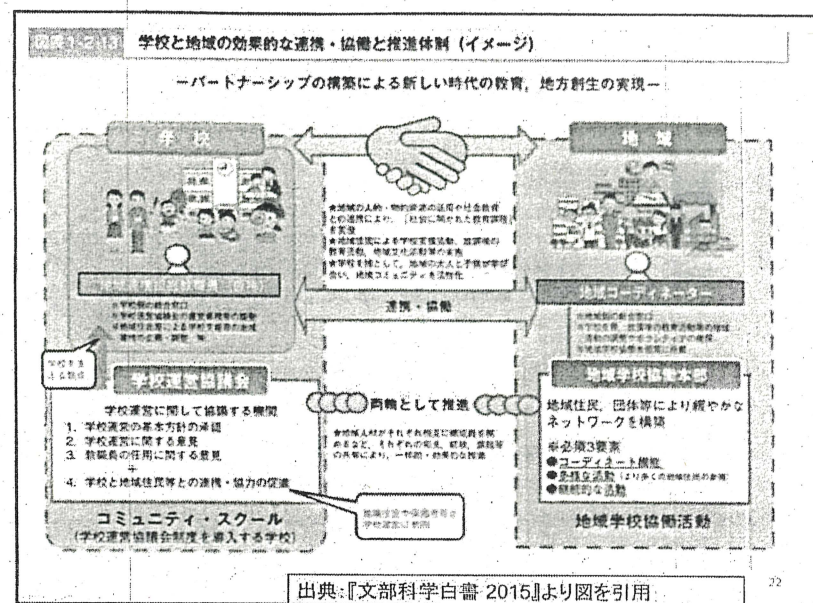
出典：文部科学省『これからの学校と地域』
https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/korekaranogakkoutotiiki_pamphlet2020.pdf

20

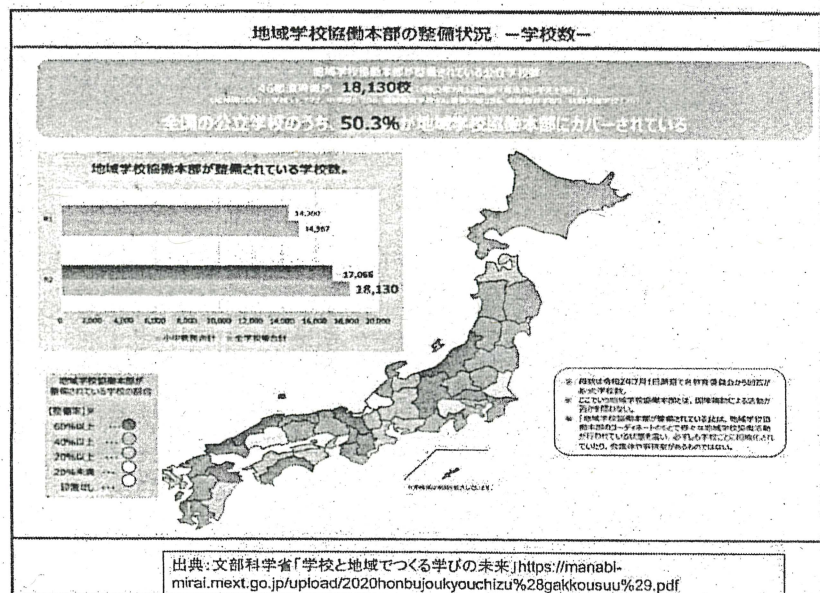
5



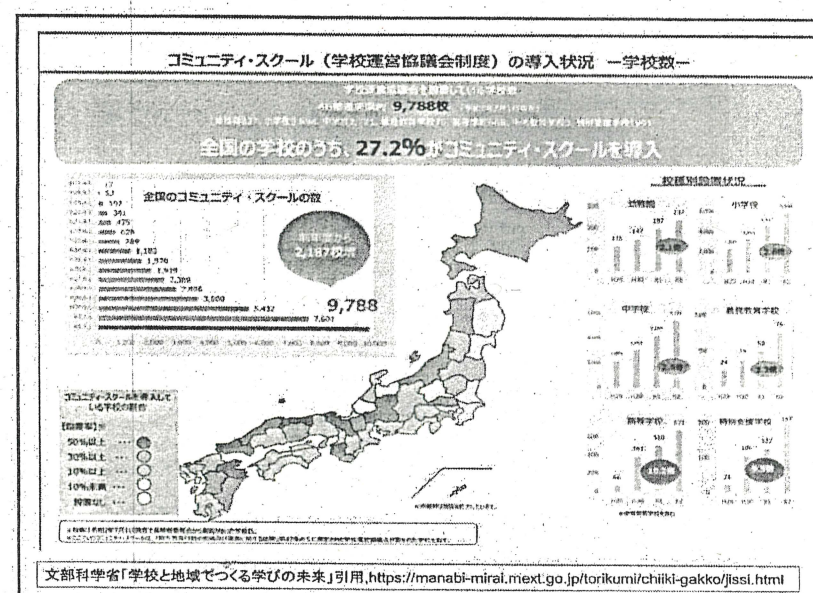
21



22



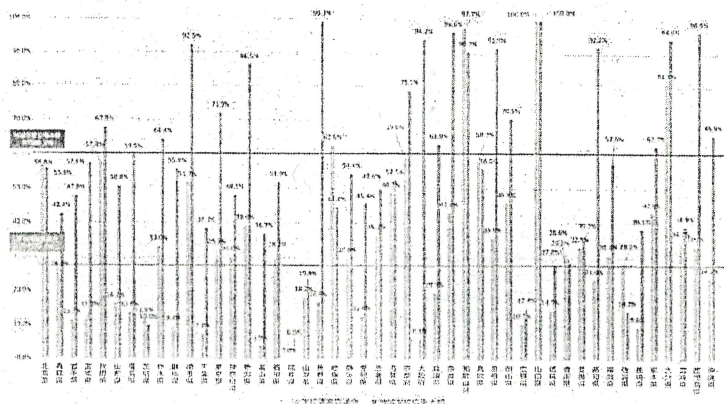
23



24

コミュニティ・スクールの導入率と地域学校協働本部の整備率（都道府県別・小中義務教育学校）

コミュニティ・スクールを導入している公立小・中・義務教育学校数：8,681校（小学校：5,884、中学校：2,721、義務教育学校：76）
地域学校協働本部が整備されている公立小・中・義務教育学校数：17,066校（小学校：11,777、中学校：5,208、義務教育学校：83）



文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」引用, <https://manabi-mirai.mext.go.jp/upload/2020seibintudounyuuritu%28shouchuu%29.pdf>

25

4 なぜこれ程、学校と地域の連携・協働が求められるのかーその背景を考えるー

26

PISA(2018)でみる日本の生徒(高校1年生)の学力

● OECD加盟国(37か国)における比較

読解力	平均 得点	数学的リテラシー	平均 得点	科学的リテラシー	平均 得点
1 エストニア	523	日本	527	エストニア	530
2 カナダ	520	韓国	516	日本	529
3 フィンランド	520	エストニア	523	フィンランド	527
4 アイルランド	518	オランダ	519	韓国	519
5 韓国	514	ポーランド	516	カナダ	518
6 ポーランド	512	スイス	515	ポーランド	511
7 スウェーデン	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
8 ニュージーランド	506	デンマーク	509	スロベニア	507
9 アメリカ	505	スロベニア	509	イギリス	505
10 イギリス	504	ベルギー	508	オランダ	503
11 日本	504	フィンランド	507	ドイツ	503
12 オーストラリア	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
13 デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
14 ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
15 ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
16 スロベニア	495	アイルランド	500	チェコ	497
17 ベルギー	493	チェコ	499	アイルランド	496
18 フランス	493	オーストラリア	499	スイス	495
19 ポルトガル	492	コロンビア	496	フランス	493
20 チェコ	490	フランス	495	デンマーク	493
OECD平均	487	OECD平均	499	OECD平均	499

出典: 国立教育政策研究所, https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point.pdf

27

日本の若者は自己肯定感が低い

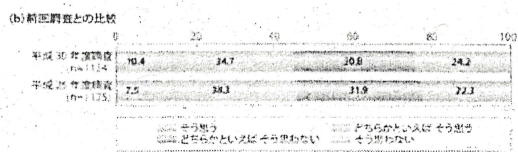
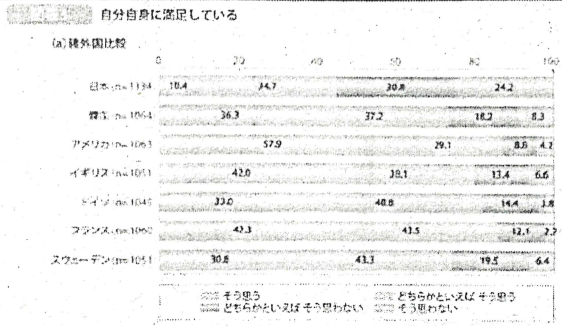
- ・ 内閣府は、我が国と諸外国の若者の意識を比較することにより、我が国の若者の意識の特徴及び問題等を把握し、子供・若者の育成支援に関する施策の参考とするため、平成30(2018)年度に「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」を実施。
- ・ 調査対象者: 13歳~17歳の生徒
- ・ 調査方法: インターネット調査

※ 日本の生徒は、自己肯定感、ボランティア活動への興味、異文化理解・対応力、海外留学の意識など、いずれも計7か国中で最も低い。

28

28

7



日本の若者は諸外国の若者と比べて、自分自身に満足していたりとする者の割合が最も低い。その割合は平成25年度の調査時より低下した。
出典：内閣府(2018)、「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」より引用

Ⅲ. 3 青少年の体験活動等に関する意識調査 (令和元年度調査)

～心身の諸側面、社会経済的背景との関係～

- (1) 調査の目的
青少年教育関係者が実施する事業の企画立案、運営等に資するため、青少年の体験活動等や自立に関する意識等の実態について全国規模の調査を実施し、基礎資料を提供。
- (4) 調査実施時期：令和2年1月～4月

(5) 回収数

学校種別	学年	配布数		回収数						
		学校数 ^①	在籍児童・生徒数 ^②	学校数		子供用		保護者用		総数 ^④
				回収数 ^③	回収率 ^⑤	回収数 ^⑥	回収率 ^⑦	回収数 ^⑧	回収率 ^⑨	
小学校	1年	100	2,881	89	89.0%	***	***	2,078	72.1%	***
	2年	100	2,803	83	83.0%	***	***	1,947	69.5%	***
	3年	100	3,030	92	92.0%	***	***	2,281	75.3%	***
	4年	100	3,014	85	85.0%	2,161	71.7%	2,162	71.7%	2,155
	5年	100	2,997	87	87.0%	2,173	72.5%	2,186	72.9%	2,164
	6年	100	3,083	81	81.0%	2,091	67.8%	2,088	67.7%	2,080
中学校	2年	150	5,160	119	79.3%	3,691	71.5%	***	***	***
高等学校	2年	150	5,522	125	83.3%	4,361	79.0%	***	***	***
計		900	28,490	761	84.6%	14,477	73.2%	12,742	71.6%	***

出典：国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査(令和元年度調査)」
<https://www.niye.go.jp/ann/upload/editor/154/Files/gaiyou.pdf>

調査結果：子どもの様々な体験が減少している

(1) 2010年代を通じて子供の自然体験の一部に減少傾向がみられる。

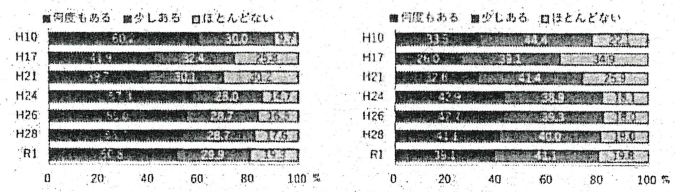


図1 海や川で泳いだことの推移 (小4、小6、中2) 図2 夜空にうっばいに輝く星をゆくり見たことの推移 (小4、小6、中2)

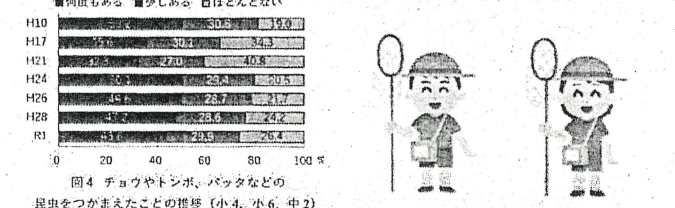


図4 チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたことの推移 (小4、小6、中2)

子どもを取り巻く厳しい問題状況
一虐待、いじめ、貧困一

33

虐待を受けた子どもの年齢構成をみると、小学校入学前の子どものが高い割合を占める。

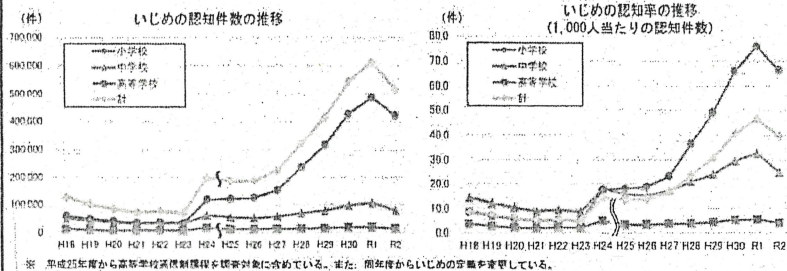
34

35

36

いじめの状況について

小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は517,163件（前年度612,496件）であり、前年度に比べ95,333件（15.6%）減少している。児童生徒1,000人当たりの認知件数は39.7件（前年度46.5件）である。認知件数は、全校域で減少している。



出典：文部科学省「令和2年 児童生徒の問題行動・不登校等児童生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」https://www.mext.go.jp/content/20201015-mext_jidou02-100002753_01.pdf



37

子どもの貧困の実態と課題

子どもの貧困には、絶対貧困と相対的貧困がある。

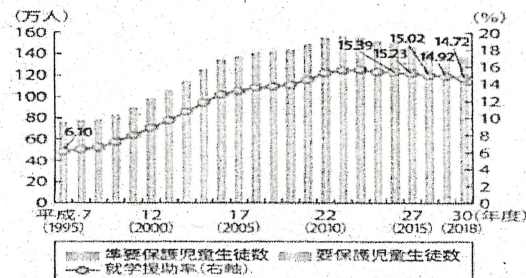
日本の子どもの相対的貧困率は約14%。高い割合で推移している

国際比較においても日本の子どもの貧困状態は深刻。一人親家庭の子どもの相対的貧困率は34のOECD国中、日本は最も高い。

38

小学生・中学生に対する就学援助の状況

就学援助率は6年連続で減少しているが、その割合は7人に1人程度で高止まりしている。



(出典) 文部科学省「平成30年度就学援助実施状況等調査」

(注) 1. 学校教育法第19条では、「経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童又は学齢生徒の保護者に対しては、市町村は、必要な援助を与えなければならない」とされており、生活保護法第46条第2項に規定する要保護者とそれに準ずる程度に困難していると市町村教育委員会が認めた者（準要保護者）に対し、就学援助が行われている。

2. ここでの就学援助率は、公立小・中学校児童生徒の総数に占める要保護・準要保護児童生徒数の割合。

出典：内閣府「令和3年度版 子ども・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r03honpen/pdf/s3_2-5.pdf

39

東京都 子供の生活実態調査 (小中高校生等調査) (2016): 生活困難の定義

低収入

等価世帯所得（収入＋社会保障給付金）÷√世帯人数が厚生労働省「平成27年国民生活基礎調査」から算出される基準未満。

低所得基準：
所得中央値：427万円÷
√平均世帯人数×50%
＝135.3万円

「国民生活基礎調査」の所得には、雑所得、公的年金、恩給、財産所得、社会保険給付金、住居費、企業年金、個人年金、その他の所得が含まれる。税金・社会保険料などは差し引く。

出典：東京都「子供の生活実態調査 東京都版」(2017.2.23.発表)

子供の所有物・体験の欠如

以下の15項目のうち、経済的な理由で制約されている項目が3つ以上。

1. 海水浴に行く
2. 動物園・科学館・美術館などに行く
3. キャンプやバーベキューに行く
4. スポーツ観戦や劇場に行く
5. 遊園地やテーマパークに行く（※）
6. 毎月おこづかいを渡す
7. 毎年新しい洋服・靴を買う
8. 買い物（音楽、スポーツ、習字等）に誘われる
9. 学習塾に通わせる
10. お誕生日のお祝いをする
11. 1年に1回児童館や図書館に行く
12. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉
13. 子どもの年齢に合った本
14. 子ども用のスポーツ用品
15. 子どもが自宅で見聞することができる場所

家計の逼迫

以下の7項目のうち、経済的な理由で制約されている項目が1つ以上。

1. 電話
2. 電気
3. ガス
4. 水道
5. 家賃
6. 家族に必要な食料が買えなかった
7. 家族に必要な衣服が買えなかった

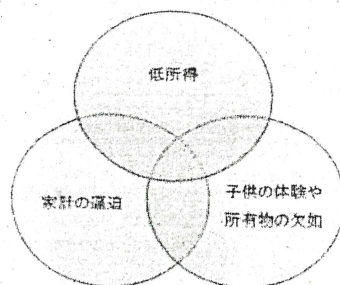
（※）16-17歳は、親と一緒に遊園地やテーマパークに行くことが少ないと考えられるため、「友人と遊びに行くお金」を代用。

40

10

◆生活困難層(困窮層・周辺層)、一般層

生活困難層	困窮層+周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない



生活困難層の割合

	小学5年生	中学2年生	16・17歳
生活困難層	20.5%	21.6%	24.0%
困窮層	5.7%	7.1%	5.9%
周辺層	14.9%	14.5%	17.1%
一般層	79.5%	78.4%	76.0%

出典:東京都(2017),「子供の生活実態調査 中間報告」

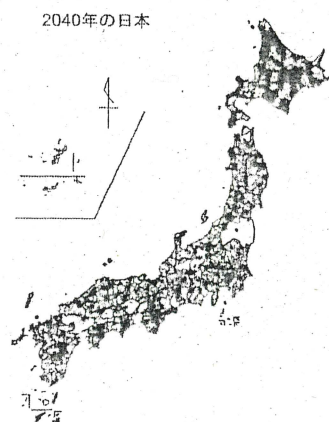
41

地域や家庭の変化が報告されている

- 地域の教育力、家庭の教育力の低下が調査研究においても指摘されてきた。
(国立教育政策研究所,2001, 2005)
- 子育てやしつけに不安を感じる保護者が増加している。
(厚生労働省「全国家庭児童調査」, 1999, 2004, 2009, 2014)
- 急激な人口減少は、日本の地域を消滅させる可能性がある。
(日本創生会議, 2014年)

42

1-(5) 全国の「消滅可能性都市」の分布 (日本創生会議)



■消滅可能性都市のうち、2040年に人口が1万人未満の市区町村(523)

■消滅可能性都市のうち、2040年に人口が1万人以上の市区町村(373)

※福島県は調査対象外

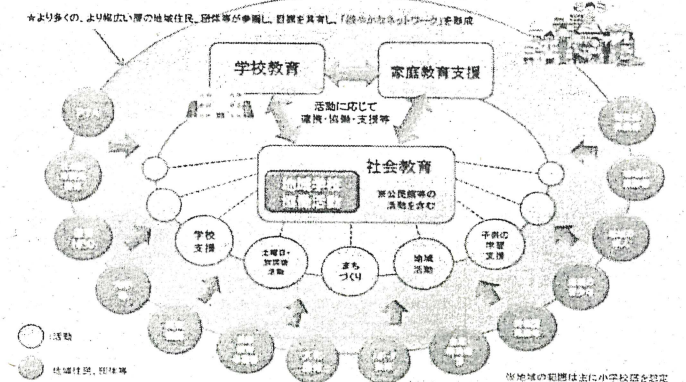
2040年に、若年女性人口が5割以下に減少する市区町村(「消滅可能性都市」)は全国1799のうち、896にのぼる。日本の約50%の市町村がその該当地域になるとの推計が出されている。

出典:日本創生会議資料2-2,「人口減少が収束しない場合の全国市町村別2040年推計人口」, <http://www.policy.council.jp/>

43

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み(活動概念図) 図13-3

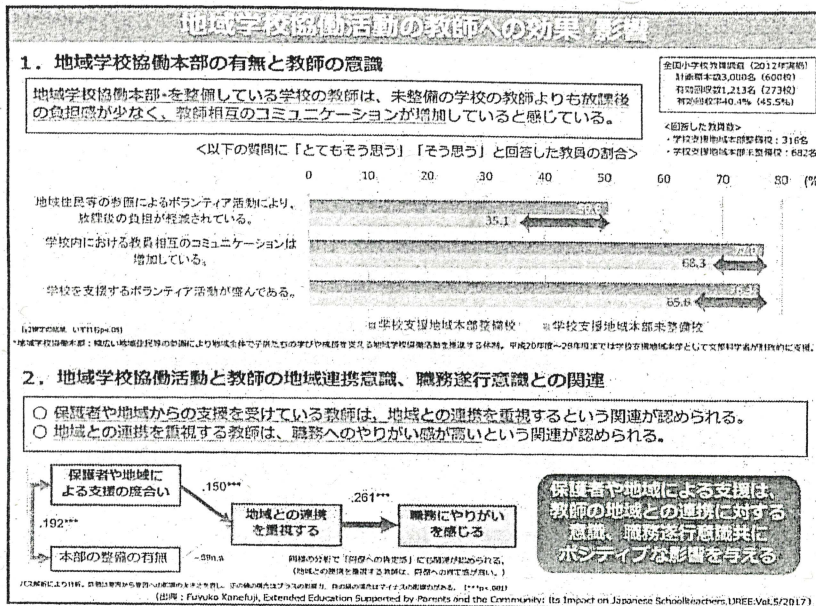
① 次世代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
② 従来の地域団体だけでなく、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実が、地域課題解決等に向けた連携・協働につながる。
③ 地域社会が地域社会の再生となる。



出典:文部科学省「学校と地域でつくる学びの未来」, <https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/chilki-gakko/kyodo.html>

44

11



49

**6. 社会教育関係者には何ができるのか？
—先導的事例から考える—**

50

6.1 長崎県社会教育委員の活動

・ 社会教育委員の活動を「可視化」する3つの取り組み

- ① 行政内部への可視化
- ② 県社会教育委員の活動の可視化
- ③ 県・市町村社会教育委員相互の可視化

51

長崎県社会教育委員の具体的な取り組み

① 行政内部への可視化	② 県社会教育委員活動の可視化	③ 県・市町村社会教育委員相互の可視化
- 県社会教育委員の会議に他の部局も参加(計10課参加) - 社会教育委員の研修に他課の職員が講師となる - 県社会教育委員の会議と教育委員の会議を合同開催する	- 研修により社会教育委員の活動の理解促進 - 個々の社会教育委員の活動を県のホームページで紹介	- 県と市町村社会教育委員の研修会を合同開催 - 県の社会教育委員協議会と社会教育委員の会議の同日開催 - 県と市町村の社会教育委員の交流の機会の開催

出典: 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、令和元年度社研の窓:「地域課題の解決に資する社会教育委員の役割と可能性」地域で積極的に実践されている取組・事例」, <https://www.nier.go.jp/jissen/net/Net/R01/index.html> より筆者作成

52

行政内部への可視化を行うべき理由

- ・「コミュニティ&学び」を中心とする政策は、文部科学行政以外の省庁でも数多く実施。
 - － 総務省：地域運営組織・総合生活支援サービス、地域おこし協力隊
 - － 厚生労働省：地域包括ケアシステム
 - － 国土交通省：国土強靱化・防災訓練
 - － 内閣府：まち・ひと・しごと創生会議、小さな拠点
 - － 経済産業省：未来の教室、半径50センチ革命、STEMライブラリー
 - － 農林水産省：農業地域づくり事業体
 - － 文部科学省：コミュニティスクール、地域学校協働活動等

⇒ 異なる名称の政策を共通の視点で観る・検討する！

53

53

6.2 岐阜県社会教育委員の活動

- ・ 平成29年8月以降、「地域学校協働活動」を焦点に審議・研究を重ねてきた。
- ・ 『進めよう！地域学校協働活動』のハンドブックを作成し、市町村教育委員会、社会教育委員、公民館、小中学校に配布
- ・ 社会教育委員自らの実践による研究会を実施



出典：岐阜県社会教育委員の会「社会教育委員による地域学校協働活動の研究」、全国社会教育委員連合編『社教情報』第86号、2022年、p.5引用

54

54

おわりに：社会教育関係者の皆さまへのメッセージ

- ・ 地域の多様な主体との連携・協働による学び合い・支え合いは、必ず地域全体を活性化する。
- ・ 社会教育関係者はその連携・協働に必要となるネットワークづくりのキーパーソン。
- ・ 是非、それぞれの得意分野や知識・技能・経験を活かして活動し、市民と行政をつなぐ架け橋、地域の多様な主体をつなぐ架け橋となって頂きたい。

55

55

ご清聴を頂き、ありがとうございました。



56

14

第 44 回全国公民館研究集会和歌山大会

第 69 回近畿公民館大会和歌山大会

【研究主題】

誰もが集う公民館

～コロナ禍でも人はつながり、笑顔は生まれる～

【開催日】令和 4 年 11 月 10 日（木）

【会場】和歌山城ホール

参 加 報 告 書

委員名 東 拓実

NO.1

研 修 名	第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会
参加日時	令和 4 年 11月 10日 (木) 10時30分から
	令和 4 年 11月 10日 (木) 15時50分まで
場 所	＜会場＞和歌山城ホール（和歌山市七番丁25番地の1）

〔大会の内容〕

大会当日は大きく分けて開会行事と、記念講演、閉会行事、分科会の4部構成で行われました。はじめに開会行事が行われました。開会行事では、まず国歌斉唱と公民館の歌を聴き、その後、ご出席されていたご来賓の方々からの挨拶が行われました。開会行事終了後には表彰式が行われ、そこでは各表彰者の代表者が壇上に上がり、表彰状を受け取っていました。

式が終えてから少々の舞台転換を挟み、記念講演が始まりました。記念講演の演題は「生涯学ぼう 生涯人と関わろう」～腹話術ボランティア40年の4つの転機～でした。講師は宮本年起さんで、宮本鍼灸指圧医を営みながら、腹話術ボランティアとして各地を回りながら、人々に笑顔と希望を届けてこられた方です。冒頭は宮本 年起さんを追ったドキュメンタリー作品が放映され、終了後に本人が登場するという流れでした。その後宮本さんの人生の4つの転機(1.9歳の夢、29歳でかなう 2.平成19年「笑ってもらふ腹話術」から「希望を捧げる腹話術へ」3.世界へ羽ばたく腹話術の夢 4.令和2年 コロナの時代に学びめざめる)についてを、腹話術を取り入れ面白おかしくご紹介してくださりました。その話を簡潔に説明するならば、世のため人のために勉強され続ける宮本さんのライフストーリーです。学校や講演会などに呼ばれる中で、人々に笑顔と希望を与えられるように腹話術の練習と、伝える内容についての勉強を欠かさない宮本さんは、本業の鍼灸指圧医でも袋小路のユートピアとして、行き詰まりを感じる患者の身体と心の悩みを解きほぐすことを大切にされてきたそうです。その姿勢は、まさに本大会のテーマでもある「コロナ禍でも人はつながり、笑顔は生まれる」に沿うものでした。

記念講演が終了した後は閉会行事が行われ、分科会についてなどのアナウンスがありました。閉会行事が終わると1時間の昼休憩があり、その後13時30分から分科会が開かれました。私は第4分科会に参加しました。第4分科会のテーマは「学びの輪を広げ、主体的に生きる力を育む公民館」で、兵庫県美方郡新温泉町浜坂公民館館長の日浦 智さんが問題提起者を務めていました。ここでは5部構成で分科会が進行されました。(1.兵庫県美方郡新温泉町の特色紹介 2.浜坂公民館での取り組みや近隣公民館での取り組みの紹介 3.テーマについてグループワーク 4.グループワークで出た話や課題について発表5.まとめ)

グループ発表では各グループで様々な意見が飛び交いました。その中でも共通していたのは、少子高齢化や人口減少による公民館利用者の減少や、公民館利用者の固定化などです。それらの発表後、助言者によって話が整理されて分科会は終了し、その場で解散となりました。

参 加 報 告 書

委員名 東 拓実

NO.2

【参加された感想・意見】

今回第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会に参加することで、公民館ならびに社会教育の現状への認識の解像度が上がりました。そして同時に多くの学びを得ることができたと感じています。本文ではその中でも特に印象に残ったことを2つに絞り、書いていこうと思います。

まずはじめに印象に残ったのは、宮本さんによる記念講演から感じた魅力です。宮本さんの講演はとても引き込まれるもので、面白くも考えさせられる内容となっていました。公演中に笑い声があがることも多くあり、皆さん集中して聞いていたように思います。そしてあそこまで引き込まれる講演をできるのは、宮本さんの魅力あってこそだと私は感じます。

宮本さんは「人を笑顔に」「世に光を」という自分なりのポリシーを持って、そのために学び続けている方でした。そのように目的・生きがいをもって学び続ける方はとても魅力的で、素敵だということとを宮本さんの記念講演から再認識することができたと思います。

二つ目の印象深かったことは、分科会でのお話にあった「持続可能な学びの場の創出」についてです。こちらでは社会教育を学ぶ一人として考えていかなければならないことを学びました。少子高齢化とそれに伴う人口減少社会において、持続可能な学びの場として公民館を存続させていくことには、学習の場としての意義にとどまらず、地域の繋がりを希薄化させないという意味でも重要な役割を持っていると私も思います。昨今は異常気象なども多くニュースで見えるようになりましたが、それらの有事の拠点としても公民館は欠かせない存在であると考えます。

しかしながら、公民館利用者は減少しているという現状もあります。公民館利用者をもっと増やすためには、主体的に学びたいと思う人を増やすことと公民館の存在をより身近に感じてもらう必要があると私は考えます。そのためにはどうすればいいのかについてをこれから社会教育について学ぶ一人として考えていきたいと分科会を通して思いました。

今回は以上の2つに絞り簡潔に書きましたが、第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会に参加することで公民館という施設の役割と価値を再認識することができました。また同時に学ぶことも多くあり、この先も委員として学び考え続けていきたいです。この度は貴重な機会を与えいただきありがとうございました。

参加報告書

委員名 野田 幸生

No. 1

研修名	第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会
参加日時	令和 4年 11月 10日 (木) 10時 30分から 令和 4年 11月 10日 (木) 15時 50分まで
場所	〈会場〉和歌山城ホール(和歌山市七番丁25番地の1)

1. 記念講演

講師 宮本 年紀 氏

和歌山県腹話術協会会長／和歌山県立医科大学ケアマインド特別講師

【演題】 「生涯 学ぼう 生涯 人と関わろう」
～腹話術ボランティア40年の4つの転機～

【要旨】

鍼灸師として指圧院を営みながら若い時に学んだ腹話術で地域貢献したいという思いから約40年間ボランティア活動をしている講師が、その人生の転機等について話され、そのなかで「尊敬し合い、支え合い、活かし合う社会」の実現を人生の目標とされるに至った経緯等が感じられた。

内容的には何も大きな話ではないが、その人間力の大きさが魅力的に感じられた。そもそも単なる大道芸である腹話術を趣味として続け、それを人のために「希望を捧げる腹話術」として笑いにより人の心と体を癒すための活動が続けられているのは、まさしくその人の生き様そのものであると思いました。

一般的に社会教育の実践者はいますが、まさしく一芸に秀でたものが、その芸を生かし社会奉仕活動をすることが本来のあるべき姿と思います。

もちろんその人が歩んできた道で、いろいろな出来事があり、いろいろな出会いがあったと推測しますが、それらのすべてを糧として消化できる素晴らしさを持っておられます。

けれんみのないおしゃべりの奥にある人間力な魅力を感じました。

2. 第4分科会 人を生かし 人を結ぶ公民館

「学びの輪を広げ、主体的に生きる力を育む公民館」

兵庫県美方郡新温泉町浜坂公民館 館長 日浦 智 氏

【要旨】

まずこの取り組みは、「人生100年時代に応じた人づくりの礎」のためのひとづくり、まちづくりを考えたことにあります。

背景にはこの町は鳥取県との県境にあり神戸までは3時間もかかるという県内では一番端っこの利便性の悪い地域ではあるが、自然環境には恵まれているため、その環境を生かしたりし、各々の公民館がその地域の人材を生かした取り組みを行い、「公民館エンジン」を活性化することにより「集う→学ぶ→結ぶ」が機能する取り組みを行ったことです。

各館長が特技を生かした取り組みをしたり、地域の特性を生かした人材を活用したりその取り組みは多岐にわたりまさしく持続可能な学びの場を創出していると感じました。

「つどう」「まなぶ」「むすぶ」をどうしたら活性化できるかを常に考え「学びの輪を広げる環境の充実」「主体的に生きる力を育む事業の推進」「持続可能な学びの場の創出」の3つの視点で取り組んでいます。

学びは全世代を対象にインストラクターに花屋の方を招きフラワーアレンジメント教室を実施、チャレンジキッズ探検隊として海や山での自然体験を通じて地元の素晴らしさを体感できる野外学習を子供たちに、さらに漁業者との連携で漁業体験を実施するなど、飽きさせない様々な取り組みを継続的に行っています。

生きる力を育む事業として、女性教養講座や男性調理教室、また地元産業である但馬牛の歴史から育て方までの実学を学ぶ等、地域文化の向上や発展に寄与するとともに人のつながりを一層深めています。

持続可能な学びの場の創出では、町内の全小中学校をコミュニティ・スクール化し連携するなど様々な団体・機関・施設等を相互にパートナーシップとして協働を図る活動を行っています。

SDGsを原動力にした地方創生、強靱かつ環境にやさしい町づくりに取り組み、楽しみながら体験を通じて学ぶなど、公民館の発展に努めているその取り組みに公民館組織の統率力・牽引力が感じられた。

第44回全国公民館研究集会和歌山大会

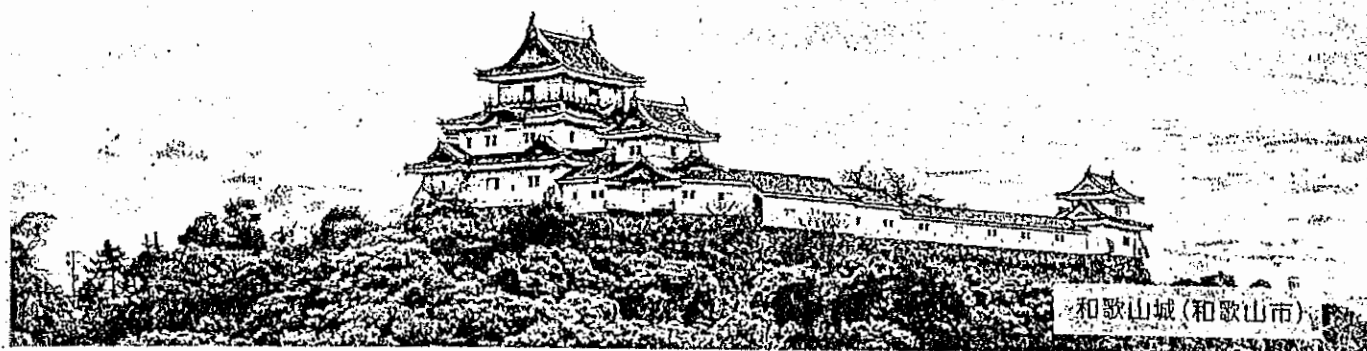
第69回近畿公民館大会和歌山大会・第64回和歌山県公民館大会

誰もが集う公民館

～コロナ禍でも人はつながり、笑顔は生まれる～



熊野速玉大社(新宮市)



和歌山城(和歌山市)



白良浜(白浜町)

写真提供:公益社団法人 和歌山県観光連盟



和歌山県マスコットキャラクター
「きいちゃん」

期日 令和4年11月10日(木)

会場 和歌山城ホール

主催 公益社団法人全国公民館連合会 近畿公民館連絡協議会 和歌山県公民館連絡協議会

公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞
下総 暁一 作曲

快活に ♩ = 104

The musical score is written on four staves. The first staff begins with a treble clef, a key signature of one flat (B-flat), and a 4/4 time signature. The tempo is marked '快活に ♩ = 104'. The first staff has a dynamic marking of *mf*. The second staff has dynamic markings of *f* and *p*. The third staff has a dynamic marking of *mf*. The fourth staff has a dynamic marking of *mf*. The lyrics are written below the notes.

1. 平和の春にあたりて
郷土を興するにむ
公民館のつどいから
とけあう心はでやかに
自由の朝をたたえよう

2. 心の花のにおやかに
郷土にひろくゆかしさ
公民館のつどいから
希望を胸に美しい
文化の泉くみおろす

3. 働くものの誇りが
郷土に生きたのちで
公民館のつどいから
まといにならぬひととき
明日への力をたてよう

公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞
下総 暁一 作曲

目 次

ご あ い さ つ	1
大 会 日 程	5
大 会 役 員	6
開 催 要 項	7

【全体会】

表 彰 に 輝 く 人 々	9
記 念 講 演	13

【分科会】

分 科 会 担 当 者 一 覧	17
第1分科会 高齢者の学びと講座づくり	18
第2分科会 地域づくりと公民館	20
第3分科会 コロナ禍における公民館活動	22
第4分科会 人を活かし 人を結ぶ公民館	24
第5分科会 現 地 研 修 コ ー ス	

【参考資料】

近畿地区の新築公民館紹介	27
全 国 大 会 年 譜	28
近 畿 公 民 館 太 会 年 譜	31
令和 4 年度都道府県公連一覧	33
令和 4 年度近畿公民館連絡協議会名簿	35

表紙裏 「公民館の歌（自由の朝）」

ご あ い さ つ



第44回全国公民館研究集会和歌山大会
第69回近畿公民館大会和歌山大会
第64回和歌山県公民館大会実行委員会

委員長 馬場 一 博

深まりゆく秋の紀州路に、ようこそお越しくださいました。

開館から一周年を迎えたここ和歌山城ホールにおいて、「第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会・第64回和歌山県公民館大会」を開催できますことを、大変嬉しく思っております。御多用の中をお越しいただきました御来賓の皆様、多年におたる公民館活動への功績により表彰を受けられる皆様をはじめ、本日御参会いただきましたすべての皆様に、心よりお礼申し上げます。

さて、人口減少社会の到来や高齢化の進展、ライフスタイルの多様化に伴う地域のつながりの希薄化などが社会的課題として指摘される中であって、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域住民の交流の場として大きな役割を果たしてきた公民館も、ここ数年は活動の制限を余儀なくされてきました。そうした中でも各公民館ではそれぞれの状況に柔軟に対応し、学びを止めないことの重要性を確認しながら、様々な工夫のもとに活動が模索されてまいりました。公民館は全ての住民の方をにらって開かれた場所であり、地域における「公共」を形成するための拠点で在ることが期待されております。

こうした状況のもとで開催される本大会のテーマは、「誰もが集う公民館～コロナ禍でも人はつながり、笑顔は生まれる～」といたしました。ウィズコロナ・ポストコロナが展望される時期にあって、本大会が今後の活動や当面する諸課題について学び合い、地域における公民館の充実・発展を図るきっかけになればと願っております。

また、本大会の内容は、昨年度と同様に、後に限定公開のオンデマンド配信をすることといたしております。本日、御参会いただけなかった方々にも情報をお届けし、大会の成果を蓄積するとともに、新たな集いと学びの形になるものと思っております。

結びにあたり、本大会の開催に御支援・御協力をいただきました関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、御参加いただいた皆様のますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

ご あ い さ つ



「新時代の公民館研究集会を！」

公益社団法人全国公民館連合会

会長 中西 彰

「第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会・第64回和歌山県公民館大会」を開催するにあたり、主催者の一員としてひとこと御挨拶申し上げます。

令和の時代を迎えましたが、ここ3年近くもコロナ対策に終始し、私たちにとっても公民館にとってもたいへんな試練が続いております。「集う」「結ぶ」ことを大切にしてきた公民館に、人びとが安心して集えない状況が続き、コロナ対策の徹底など、多くの対応に迫られました。こうしたなか、本連合会でも「公民館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を策定しましたが、多くの公民館においても独自のガイドラインをつくり、それぞれのお立場でコロナ対策に努力をされてきたことと思います。

公民館は、生涯学習や住民自治などの理念に立ち、地域づくり・人づくりの中核的機関として、地域住民や関係者の営みたる努力に支えられてきました。その過程では、高度経済成長や都市化、少子高齢化の進展、さらには行財政改革・規制緩和・地方分権等の動向など、さまざまな荒波に大きく影響を受けながらも、創意工夫によって充実した活動実践に努めてきました。また、新型コロナウイルス感染拡大という事態においても、皆様の御尽力により充実した公民館活動が展開されてきたことに深く敬意を表します。

地域社会ひいては日本社会の未来を切り拓くためには、公民館は多くの関係機関や関係者と積極的に連携・協働して、新しい時代に合った地域づくり・人づくりを展開していかなければなりません。この新型コロナウイルスへの対応という事態においても、公民館が創意工夫によって新しい時代の公民館活動が展開されることを期待しております。

本大会に参加した皆様が、ここで学んだ成果を活かして、公民館が地域の人びとの絆を結び、人びとのかけがえのない拠り所となることを願っております。

おわりに、文部科学省をはじめ、地元である和歌山県、そして本大会開催のために御尽力くださった公民館関係者、及び関係機関・関係団体の皆様に感謝を申し上げます。そして、本日お集まりの皆様の今後の限りない御発展・御活躍をお祈り申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

歓迎のことば



和歌山県知事 仁坂吉伸

「第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会・第64回和歌山県公民館大会」が盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。また、近畿各府県を中心に、全国各地から本県にお越しいただいた皆様を心から歓迎申し上げます。

皆様には、日頃から公民館活動に携わり、生涯学習を支援するとともに、地域の交流を深める活動に取り組んでおられることに対し、深く敬意を表します。

さて、近年、少子化・高齢化の進行やグローバル化・DXの進展等、社会情勢や生活環境が変化する中、地域のつながりの希薄化が課題として挙げられます。さらに、2020年以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人と人との交流が制限され、公民館における様々な活動の中止や縮小を余儀なくされました。

公民館は地域住民にとって身近な学習拠点というだけでなく、交流の場として重要な役割を果たしています。さらに、地域住民に「集い」「学び」「繋がり」の機会を与えてくれる公民館活動は、地域における人づくり・まちづくりの大きな原動力となっております。

このような中、本大会が「誰もが集う公民館～コロナ禍でも入はるつながり、笑顔は生まれる～」をテーマに開催されることは、誠に意義深いことです。本大会が、御参加の皆様にとって、今後の公民館のあり方を探求するきっかけとなることを期待しております。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」や日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」、世界農業遺産に認定されたみなべ・田辺の梅システムなど、誇るべき数多くの歴史的文化的資源を持つ本県は、みかんをはじめとするくだもの、ジビエ料理、マダロなどの町の幸、海の幸にも恵まれています。皆様には、この機会に豊かな自然や歴史に彩られた本県の魅力に触れていただくとともに、食の宝庫・和歌山県を存分に味わっていただければ幸いです。

結びに、本大会の御成功と各公民館の御発展並びに本日出席いただいております皆様のますますの御健勝、御活躍を祈念申し上げ、歓迎の言葉といたします。

歓迎のことば



和歌山市長 尾花 正 啓

「第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会・第64回和歌山県公民館大会」が、ここ和歌山市で開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国各地からお越しいただいた皆様を、心から歓迎申し上げます。

本日、お越しいただきました皆様方には、日頃から社会教育活動の中核である公民館において生涯学習の推進及び地域社会の発展に多大なる御尽力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

本市は、紀伊半島の北西部に位置し、北は緑豊かな和泉山脈ののどかな山並みを望み、西は風光明媚な紀淡海峡に面する和歌山県の県都です。

また、御三家の1つ紀州徳川家の居城であった「和歌山城」、奈良時代の歌人、山部赤人が万葉集で詠んだ「和歌の浦」、その和歌の浦を一望できる桜の名所「紀三井寺」等々、多くの名所旧跡があるほか、市内では加太や和歌浦の漁港から運ばれる新鮮な海の幸や一躍有名になった「和歌山ラーメン」などが味わえます。

さらに、今年5月「紀州東照宮」（和歌山市和歌浦）創建400年にあたる節目の年にもない、5月15日には「和歌祭四百年式年大祭」が開催されました。ぜひこの機会に和歌山市の自然、文化、名産を堪能していただければと思います。

近年、我が国では人口減少、少子高齢化が進み、また同時に地域社会での人間関係の希薄化や連帯意識の低下などの問題が生じており、社会全体に課題が山積しております。また、そのような状況はコロナ禍によって、さらに深刻化しています。

こうした中で、本研究集会において「誰もが集う公民館～コロナ禍でも人はつながり、笑顔は生まれる～」をテーマに研究協議されますことは、誠に意義深いものであります。様々な価値観が交錯するグローバル化が進み、人間関係のあり方が多様化する社会の中で、地域の人々にもっとも身近な学習や交流の場として、人と人とのつながりづくりを实践してこられた公民館の役割は、今後ますます重要になってくると言えます。

本研究集会が地域を越えたつながりや交流を深める場となり、笑顔が生まれる社会地域の構築につながる有意義なものとなることを御期待申し上げます。

結びに、本研究集会の成功と参加される皆様の本会の研究成果を生かした今後の御活躍を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。

大会日程

【大会テーマ】

「誰もが集う公民館」～コロナ禍でも人はつながり、笑顔は生まれる～

【会 場】

和歌山城ホール（和歌山市七番丁 25 番地の 1）・・・全体会及び第 1～4 分科会
和歌山城周辺・・・第 5 分科会（現地研修コース）

【全 体 会】

受 付 9:45～10:30

開会行事・表彰式 10:30～11:20

記 念 講 演 11:20～12:20

演 題：「生涯 学ぼう 生涯 人と関わるう」
～腹話術ボランティア 40 年の 4 つの転機～

講 師：和歌山県腹話術協会 会長

和歌山県立医科大学 ケアマインド特別講師 宮本 年起 氏

次期開催地挨拶 12:20～12:30

【分 科 会】

受 付 13:15～13:30

（会 場）

第 1 分科会「高齢者の学びと講座づくり」	（和歌山城ホール大ホール）
第 2 分科会「地域づくりと公民館」	（和歌山城ホール小ホール）
第 3 分科会「コロナ禍における公民館活動」	（和歌山城ホール 4 階大会議室）
第 4 分科会「人を活かし 人を結ぶ公民館」	（和歌山城ホール 1 階展示室）
第 5 分科会 現地研修コース	（集合・解散 和歌山城ホール 1 階エントランスホール）

開 会 13:30～15:50

問題提起

質疑

グループ討議・発表

助言

第44回全国公民館研究集会和歌山大会 第69回近畿公民館大会和歌山大会・第64回和歌山県公民館大会 開催要項

1. 趣 旨

近年、日本社会は少子化による人口減少や急速な高齢化が進み、グローバル化や情報技術の飛躍的な進展によって個人の価値観やライフスタイルの多様化、それに伴う地域のつながりの希薄化などが社会的な課題として指摘されています。平成30(2018)年12月の中央教育審議会答申(「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」)では、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」が、地域における社会教育の意義や役割として示され、「開かれ、つながる社会教育の実現」に向け、さまざまな取組が行われることとなりました。

そうした中、令和2(2020)年から新型コロナウイルス感染症への対応のため、人と人との接触を控えるなど、社会経済活動が制限され、公民館活動も大きな影響を受けることとなりました。その中で、各公民館ではそれぞれの状況に柔軟に対応し、学びを止めないことの重要性を確認しながら、さまざまな工夫のもとに活動が模索されてきました。公民館は、全ての住民の方々にとって開かれた場所であり、地域における「公共」を形成するための拠点として在ることが期待されています。

ウィズコロナ、ポストコロナが展望される時期にあつて、全国各地の公民館関係者が集い、この間の経験や日々の取組などを踏まえた研究協議を行い、今後の活動や当面する諸課題について学び合い、理解を深め合いながら、地域における公民館の充実・発展を図るために、本大会を開催します。

2. 大会テーマ

「誰もが集う公民館」～百鬼夜行でも人はつながり、笑顔は生まれる～

3. 主 催

公益社団法人全国公民館連合会・近畿公民館連絡協議会・和歌山県公民館連絡協議会
第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会
第64回和歌山県公民館大会実行委員会

4. 後 援

文部科学省 和歌山県 和歌山市 和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会 京都府教育委員会
兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会

5. 期 日

令和4年11月10日(木) ※大会開催後、オンデマンド配信あり(令和5年1月頃を予定)

9:45	10:30	11:20	12:20	:30	13:20	16:50
受付	開会行事 表彰式	記念講演	閉会 行事	休憩	分科会	

6. 会 場

(全体会) 和歌山城ホール 大ホール (和歌山市七番丁25番地の1 TEL: 073-432-1212)

(分科会)	分科会会場名
第1分科会	和歌山城ホール(大ホール)
第2分科会	和歌山城ホール(小ホール)
第3分科会	和歌山城ホール(会議室)
第4分科会	和歌山城ホール(展示室)
第5分科会	和歌山城周辺

※ 各分科会の参加者数の状況により、会場を変更する場合があります。

7 参加対象者

公民館職員ならびに利用者、公民館運営審議会委員、教育委員、社会教育委員、社会教育関係職員、社会教育関係団体、市町村関係者、学校関係者 等

8 記念講演

演題 「生涯 学ぼう 生涯 人と関わろう」～腹話術ボランティア 40 年の 4 つの軌跡～

講師 和歌山県腹話術協会 会長

和歌山県立医科大学ケアマインド 特別講師 宮本 年起 氏

9 分科会テーマと討議の着眼点

分科会テーマ	発表テーマ 討議の着眼点	発表担当県 (問題提起者)
第1分科会 高齢者の学びと 講座づくり	生涯学習・耐久生涯大学の取組と公民館 高齢者の生きがいづくりを触発するために進めている取組について発表を行う。また、人口減少や高齢化による参加人数の減少に伴い、講座の開講が困難になりつつある現状に対する打開策について協議する。	和歌山県 広川町中央公民館 館長 児島 修
第2分科会 地域づくりと 公民館	公民館、この曖昧なもの。 公民館の役割は、抽象的に社会教育法にうたわれているため、どんな事業でも批判を受けることはない。「それが公民館の良さ」と考える向きもあるが、利用者以外の住民も含めて社会的に有用な存在たるべき施設としては、その成果指標等に係る具体的な議論があってもよいのではないか。	京都府 舞鶴市多世代交流施設 まなびあむ 館長 福田 豊明
第3分科会 コロナ禍における 公民館活動	コロナ禍 ～公民館にできること～ 長期間におけるコロナ禍、奈良市の公民館では休館を余儀なくされた時期があった。その後の一部制限を伴う公民館活動再開時からの様子を通して、事業の着目点・目的・内容・様子・成果等、参加者や利用者の反応を織り交ぜながら時系列的に報告し、それぞれの公民館の取組について協議を行う。	奈良県 (公財)奈良市生涯学習財団 登美ヶ丘南公民館 館長 福山 哲倫
第4分科会 人を活かし 人を結ぶ公民館	「学びの輪を広げ、主体的に生きる力を育む公民館」 少子高齢化と地域のつながりの希薄化が進行する社会を迎え、公民館の機能「どう」「まなぶ」「むすぶ」をいかに活性化させるか、町民に「主体的に生きる力」をいかに育むか(住民の「自治力」を育てるか)、持続可能な公民館活動をいかに実践するか、について討議する。	兵庫県 新温泉町浜坂公民館 館長 日浦 智
第5分科会	現地研修コース(和歌山城周辺)	和歌山県

10 資料代 2,000円

※ 悪天候その他の不可抗力等により大会の中止又は開催方法の変更をせざるを得ない場合であっても、資料代は返金できませんので、ご了承ください。

11 大会事務局

第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会

・第64回和歌山県公民館大会実行委員会事務局(和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課内)

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 TEL: 073-441-3722 FAX: 073-441-3724

全 体 会

- 1 開会行事・表彰式
- 2 記念講演
- 3 次期開催地挨拶

記念講演

◆演題 「生涯 学ぼう 生涯 人と関わろう」
～腹話術ボランティア 40 年の 4 つの転機～

◆講師 宮本 年起 氏
和歌山県腹話術協会会長／和歌山県立医科大学ケアマインド特別講師

〔講師プロフィール〕

昭和 27 年 7 月和歌山市生まれ。

寄席芸としての腹話術を確立した第一人者と評される川上のぼる先生から腹話術を学び、「腹話術で地域貢献したい」という思いから、鍼灸師として「宮本鍼灸指圧院」を営む傍ら、県内各地で腹話術の披露や心の健康について多数講演。

今年度、宮本氏が会長を務めている和歌山県腹話術協会が和歌山県知事表彰を受賞。

人生の目標は、「尊敬し合い、支え合い、活かし合う社会」の実現。

宮本年起 4 つの転機

1. 9 歳の夢、29 歳でかなう

9 歳の時、わが国における腹話術の草分け的存在・川上のぼるさんのライブを見て感激、「世の中に、こんな面白い芸があったのか!」。すぐにも習いたいと願ったがまわりに教えてくれる人は誰もいなかった。それでもいつかは習いたいと胸に希望の火を燃やし続ける。

29 歳の時、和歌山県腹話術協会に入会、20 年間あこがれ続けた川上のぼるさんの指導を得る。川上先生の中国公演の応援に行く。毎年、発表会に出演。

2. 平成 19 年「笑ってもらう腹話術」から「希望を捧げる腹話術へ」

私の腹話術を見て「何年かぶりにおなかの底から笑った」と言ってくれた人のために「希望を捧げる腹話術」を志す。

3. 平成 29 年「世界に羽ばたく腹話術の夢」

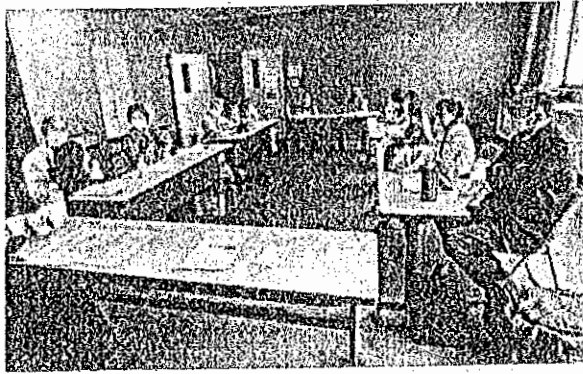
デンマークの首都・ストックホルムを訪問。夢は世界に広がった。

4. 令和 2 年 コロナの時代に学びにめざめる

新型コロナ感染拡大のため、腹話術ボランティアが途絶える。「今こそ学びを深め、面白くてためになり心とからだをいやす腹話術を磨こう」と決意する。

和歌山県腹話術協会のあゆみと活動

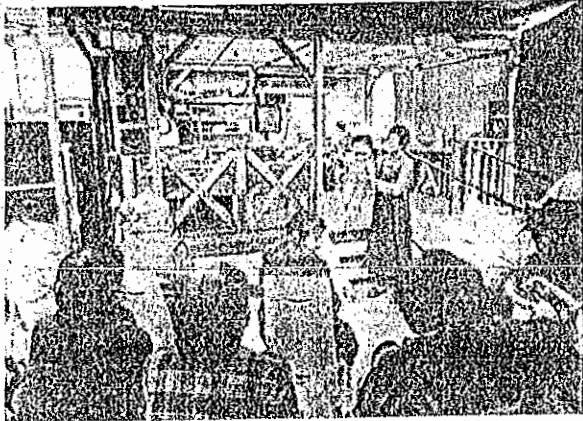
昭和 55 年 12 月 15 日、腹話術好きが集まって、それぞれの仕事や家庭で役立てるとともに、周りの人々に楽しんでもらうために『和歌山県腹話術協会』をスタートした。



月一回の例会



小学校を訪問



デイサービス訪問



令和 4 年 5 月 27 日 県知事表彰



年に一度、日頃の活動の成果を見て頂く発表会『腹話術の祭典』(県民文化会館にて)

腹話術のエッセンス

1 腹話術は、3つのコントロールから成る！

- ・リップコントロール（口を動かさない）
- ・ボイスコントロール（地声と違う声を出す）
- ・パペットコントロール（人形をあやつる）

腹話術は、ひとと自分を幸せにする！

- ・3つのコントロールを同時にすることで、
脳を活性化する。
- ・人形に本音を語らせることで、
ストレスを解消する。
- ・笑いを分かち合って心身の健康を生む。

2 腹話術の練習の仕方

- ① 鏡の前で
- ② ビデオを撮って
- ③ 人前で

3 腹話術の極意

- ・羞恥心を捨てる
- ・観察力を養う
- ・工夫を重ねる

(1) 口の形は…？

- ① 唇を少し開けて
- ② 歯は軽く閉じて
- ③ 「チーズ」の口の形

その理由は…

- ① 上下の唇の間を開けることで息（＝声）
を出やすくする。
- ② 上下の歯を閉じることでアゴの動きを
抑制する。
- ③ 口角（口の両はじ）を左右に広げて
唇を少し張ることで唇の動きを抑制する。

唇を動かさないと出せない音
（＝破裂音）について

マムメモ・バビベボ・バビベボの15の
音を破裂音と言います。

唇を合わせてから唇を開く音なので口を
動かさずに発声するのは無理。

そこで、破裂音については次のように扱います。

◎ 破裂音を用いなくて良いように別の表現
で置き換えます

ママ→お母さん 僕→わたし、うちら
ベッド→布団 パペット→お人形

◎ 似た音で置き換えます

マ行→ナ行 バ行→ガ行 パ行→カ行
スマホ→スナホ 発表会→はっきょう会
おばあちゃん→おがあちゃん

(2) 地声と違う声を出すために

♪ドレミファ〜（ドシラソ〜）と歌って無理
なく出せる高い（低い）音を選ぶ。

のどの奥辺りを様々にコントロールすることで、
「違う音色」の音を出す。

口調・テンポ・方言などを工夫することで、
「違う人格」を作り出す。←これ大事！

(3) 人形の操作

下あごを下げるのが基本。

2音で一回、3音で二回 口を開閉する。

分 科 会

1 分科会担当者一覧

2 問題提起 (資料)

(1) 第1分科会

(2) 第2分科会

(3) 第3分科会

(4) 第4分科会

第1分科会 高齢者の学びと講座づくり

生涯学習・耐久生涯大学の取組と公民館

和歌山県広川町中央公民館

館長 児島 修

1. はじめに

広川町は近畿地方・和歌山県の中心に位置する有田郡の最南端にあり、町中央を広川が流れ紀伊水道に注いでいる。東は有田川町及び日高郡日高川町と分水嶺を以って接し、西は紀伊水道を隔てて遠く四国と相對している。南は高峻なる白馬山脈が東西に走り、日高郡日高川町と接し北は広川を境に湯浅町と接している。（和歌山市へ40km・大阪へ100kmの位置にある。）

本町の面積は、65.35km²と小さく、人口は年々少子高齢化が進み、令和3年は6,761人となっている。

2. 広川町の偉人・濱口梧陵の偉業

旧暦安政元年11月5日(1854年12月24日)夕方、安政南海地震が起きた。広村(現広川町)では家が倒れ、かわらが吹き飛び、ドーンという大砲がどどろくような音が聞こえ、ついに大きな津波が押し寄せてきた。濱口梧陵(ヤマサ醤油当主、梧陵さんと町の人々と呼ぶ)は波にのまれながらも村人たちに呼び、広八幡神社へと避難を呼びかけた。辺りはひどいありさまで、大人も子供も家族を探して呼びさまようている。とっさに、「そうだ。あの丘の稲むらに火をつけよう」と、積み上げられた稲の束に火をつけてまわった。すると、逃げ遅れた村人が次から次へと火を目指して丘へ上ってきた。「ああ助



濱口梧陵

かった。この火のおかげや」と。さらに大きな津波が押し寄せ、稲むらの火も波に消されていった。津波で家族や家、仕事を失った村人たちはうろたえ、村から出て行こうとする人もいた。梧陵さんは「このままでは村が滅びてしまう。浜に堤防を築こう。村人に働いてもらってお金を払い、生活に役立ててもらおう。そうすればきっと、生きる希望もわいてくるはずだ。」村人たちは、梧陵さんの決断に心の底から感謝し、一所懸命に働き、4年がかりで大きく立派な堤防が完成した。海側に松の木を、土手にははぜの木を植えた。堤防は長い年月が過ぎた昭和21年の昭和南海地震があったときにも、広村には津波の被害がなかった。今も広村堤防は広川町の人々を守り続けてくれている。梧陵さんの活動は、「経世済民」の志そのものであり、ふるさと広村に対する、深い「郷土愛」や「人間愛」が感じ取れる。平成11年には濱口梧陵の偉業を顕彰する施設を作ろうという声が上がリ、耐久大学(現耐久生涯大学)で募金活動が始まって平成19年4月稲むらの火の館の開館につながった。

3. 耐久生涯大学の取組と公民館

広川町には、3つの地区(広、南広、津木)があり、耐久大学は広川町中央公民館の長期講座として25年前から開講、令和3年度から耐久生涯大学に名称変更し、町内全域から学生募集を行っている。今年度25期生は5名の入学生があり、大学生(1～4年生)は13名、大学院生(1～21期生)は49名の計62名が在籍している。最高齢は88歳、平均年齢は77歳で、遠方からの学生のために通学バスを運行している。

耐久生涯大学は、町内に在住している60歳以上の方を対象に、毎月第2土曜日に中央公民館で開講し、「みんなで楽しく健康に過ごす」ことを目的としている。

受講期間は、終了年限4ヶ年となっており、修了者には卒業証書を交付するが、4ヶ年終了後も大学院生として一緒に活動できる。教養講座や専科講座の講師謝金、その他かかる費用については年間受講料5,000円に加え、町からの支出でまかなわれている。

また、耐久生涯大学だよりを、事務局(公民館)が毎月発行して、学生全員に配布している。

本大学を運営するために、理事会を設けており、その構成は理事長・学長・教育長・社会福祉協議会の事務局長・町老人クラブ会長・役場の保健福祉班長・学生各地区代表3名・顧問・事務局(公民館職員4名)の計14名となっている。学長が多方面から高齢者の教養講座にふさわしい内容を吟味し、年3回の理事会で年間計画や各行事について協議を行っている。

また、学生による3つの部会(健康安全部会、レク部会、文芸部会)があり、それぞれが中心となり、運動会・避難訓練・遠足・懇親会、文集作成などの活動等を行っている。

午前中は教養講座として文化・芸術や教養などを高め、健康の保持増進を図る各種講座も行われる。午後は、選択制の専科講座として、絵手紙・コーラス・郷土研究・グラウンドゴルフ・切り絵・川柳・書道・ゆっくりパソコンの8講座がある。各専科講座で受講者は指導者の講師先生を中心に和気あいあいと楽しく活動している。



広川町耐久大学入学式での雅楽の演奏会

4 公民館の取組

町内には、3つの地区それぞれに公民館があり館長・主事が配置されているが、中央公民館が中心的な役割を担っている。中央公民館では、公民館主催の長期講座、短期講座、チャレンジ体験館等の講座開催の他、サークル・地域子供会等への貸し館業務があり、地域に根差した行事を継続的に展開している。



チャレンジ体験館 おもしろサイエンス教室

5 成果と課題

耐久生涯大学は「みんなで楽しく過ごす」ことを目的としており、学生は月1度の学生生活で年々若返り楽しく笑顔で過ごすことにより国が地方に求めている「介護福祉行政の最先端」「介護予防のお宝」と評価する人もいる。

一方、耐久生涯大学の平均年齢は77歳で、卒業後も継続した活動ができるため高齢化し、病気・ケガ等で身体的に弱くなるので通学に配慮が必要である。また、運動会や遠足等にはどんなことを行いかという点や、在学生の男性の割合が20%と少なく、耐久生涯大学以外の公民館講座も同様で、新規受講者の獲得と男性も気軽に参加できる講座の開催を目指すことが今後の大きな課題である。

第2分科会 地域づくりと公民館

公民館、この曖昧なもの

舞鶴市多世代交流施設まなびあむ

館長 福田 豊明

1 テーマの趣旨説明～公民館活動と評価の関係について～

舞鶴市の公民館等計7館における主催は、良く言えば自由な発想で上位計画や社会教育委員会議の建議には順着しない事業を企画し、悪く言えば集客できそうな楽しさを追求した事業を行っている。

公民館が行う事業も自治体行政活動の一環であるので、上位計画の政策の実行の一翼を担う役割を負っており、公民館の事業が上位計画の進捗に貢献したかどうかの評価されなければならない。

自治体の活動にはその成果や目標達成の測定がしにくく、したがって評価がしにくいものも多くあり、公民館事業を含む社会教育事業もそれに含まれるが、評価に困難があるからこそ、当初、企画した成果がどれだけ達成されたのが振り返ることが必要ではないかと、自己反省も含めて感じている。

大会参加者の皆様から、公民館事業への評価に関してご意見などをお聞かせいただきたい。

評価を行うからといって、事業企画の発想の自由度や柔軟性を低減させる必要はないことは当然であり、最も重視されなければいけないものであろう。

2 曖昧さの背景

「公民館というものの曖昧さ」の背景である公民館事業の成果や目標達成の測定の困難性は、社会教育や生涯学習そのものの曖昧さであり、教育や学習によって、それを受けた人の考え方や行動がどのように変化したのかを実際に測定・把握することが難しいことに起因しているためである。

3 事業の企画にあたって

公民館の現実の利用者は、実際には全住民のごく一部の少数にすぎない。リピーターも多いので、本市においては、超概算の実人数でいえば、おそらく20分の1から40分の1の間ではないか。

利用する可能性がある人（潜在的利用者層）以外の住民（潜在的非利用者層）は、そもそも公民館へ足を運ぶ目的・動機がほとんど無い人たちだろう。出不精の人（最広義のひきこもり）、他人と交流するのが面倒な人（男性に多いといわれている）、無趣味の人、自分は教養が無いと思込んでいる人、今さら何かに取り組む気合が無い人などは、現状では公民館へ来ることは、ほとんどないだろう。

少なくとも本市の公民館では、公民館事業の企画をするときには、主に潜在的利用者層を思い描くことがほとんどではないか。むしろ、潜在的非利用者層は、高齢者施策など福祉施策の対象者であつたりすることが多いことから、潜在的固定概念の下、勝手に無意識下で区分しているのかもしれない。

4 公民館の曖昧さを少なくしていこう

今後、公民館が、上位計画との関係や、福祉など他施策との連携が希薄なまま個々の事業を行い、リピーターをはじめとする既存利用者層を中心的な対象として事業を行っていくならば、公共施設の量的削減要請の中、「常連さんの遊びのためのハコもの」と評価されてしまって、公民館の必要性への懐疑論⇒不要論が生まれても、それに対する根拠のある反論を行っていくことは不可能であろう。

私たちは、「社会教育には評価は馴染まない。」などと思いつまず、あらためて、公民館は、「誰のために」、「何のために」あるのか、住民に「どうなっていてほしいのか」、そのためにどんな効果的な事業を打っていくのか、目的意識を鮮明にして、事業を創り上げていきたいと思いを新たにしている。

第3分科会 コロナ禍における公民館活動

コロナ禍 ～公民館にできること～

公益財団法人奈良市生涯学習財団

登美ヶ丘南公民館 館長 福田 哲治

1. はじめに

(1) 奈良市及び公益財団法人奈良市生涯学習財団の公民館運営体制

奈良市は県北部にあり、歴史と自然が豊かで、大阪、京都のベッドタウンとして発展してきた地域となっている。奈良市の公民館は、当財団が市の指定管理者として指定を受け、中学校区にほぼ1館配置された地区館21館と生涯学習センター含む大型館3館の計24館を運営している。

(2) 登美ヶ丘南公民館及び地域特性について

当館は市の北西部に位置しており、主に京阪地区に通勤している住人が多い地域のため、昼間人口比率が低い地域である。同時に、65歳以上の高齢化率は、2020年度で市全体の31.2%に対し、当館地域では約34%と市平均を上回っている。当館の利用状況については、令和元年度で約1,000件、10,000人程度であり、新型コロナウイルス感染症拡大により2割ほど落ち込んだものの、令和3年度においては令和元年度に比べ約1割減まで回復してきた状況である。

2. 本日のテーマについて

長期間におけるコロナ禍、臨時休館後の一部制限を伴う公民館活動再開時からの様子を通して、事業の着目点・目的・内容・成果等を、参加者や利用者の反応を織り交ぜながら時系列的に報告し、それぞれの公民館の取組みについて協議する。

3. 新型コロナウイルス感染症拡大による影響

新型コロナウイルスが国内で感染拡大していくと共に、奈良においても令和2年2月から利用グループへの自粛要請が始まり、令和2年4月10日から5月31日までの2ヶ月近くの期間が臨時休館となり、職員も在宅勤務を含む交代出勤となった。また、令和3年度においても5月いっぱい原則臨時休館となった。職員はグループへの声掛け、館の修繕や手入れ等を行いながら、早期の開館を待った。

4. 再開する公民館活動

(1) 臨時休館明けからの始動・再開する事業の計画変更

2ヶ月近くの臨時休館が明ける少し前から貸館受付がスタートした。

利用者のコロナへの不安感の温度差がある中、その後貸館再開、続いて講座の再開。制限により活動が再開できないグループや、自粛するグループが多く見られた。そのような中で利用者の会話を耳に傾け、公民館として今何が出来るかを模索、検討し、まずは当初計画していた講座をコロナ禍に対応した目的・内容に変えていくこととした。



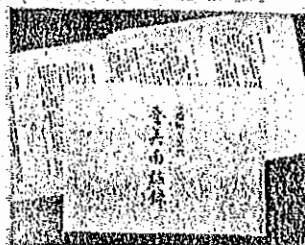
感染拡大前の様子

(2) 具体的な講座の着目点・目的・内容・様子・成果等について

- ・ シニア健康ウォーキング／太淵池の野鳥観察
- ・ 学びの活動紹介展
- ・ 家庭教育サポートネットワーク支援事業
- ・ 職場で役立つアンガーマネジメント
- ・ お花で作ろうマイカラー／さがしてみつかる！集っぱ探偵団
- ・ 登美ヶ丘南地域活動紹介展／
- ・ 新芽展～青少年・絵画と心のメッセージ～
- ・ まちの歴史造形物を探る



太淵池の野鳥観察



文集『登美南誌録』

5 文集『登美南誌録』

臨時休館明けに利用者の皆さんの言葉を聞き、心身の疲弊を間近で見て、皆さんはこの間どう過ごされていたのか、何を思い、何を考え、どんなコロナ明けの先を思い描いていたのか、それらを共有してみてはどうだろうか。また、そうすることで共感し、勇気付けることができるのではないかと考え、それを文集として綴ったのが『登美南誌録』である。編集には、コロナ年表も入れ込み、今後振り返った時に、自身の地域で、公民館で、どのような社会情勢に翻弄され過ごしたのかが分かるように工夫をした。

6 そして講座へ

文集を作成するにあたり多く聞かれた声が文章への苦手意識だった。そこで次年度には、気軽に文章を書き出せることなどを重点に置いた講座を実施した。その名も「くらしの文章教室～想いを書くこと、綴ること～」。最後には全員が作文も書き、教材として受講者で共有し講師から学んだ。そして、これを『登美南誌録 第二巻』として発行した。この講座は令和4年度も実施予定である。

7 更なる挑戦

- (1) おしゃべり会 in 登美ヶ丘南公民館
- (2) その他



おしゃべり会 in 登美ヶ丘南公民館

8 まとめ

当館の実践から、以下の重要な要素があった。

- (1) つながる
- (2) ふかまる
- (3) ひろがる

これらが歯車のように噛み合い作用していった。



くらしの文章教室

第4分科会 人を活かし、人を結ぶ公民館

「学びの輪を広げ、主体的に生きる力を育む公民館」

兵庫県美方郡新温泉町浜坂公民館

館長 日浦 智

1 はじめに

新温泉町は豊かな自然に恵まれ、北は冬の味覚の王者である松葉ガニ(ズワイガニ)などの海の幸が水揚げされる日本海、南の内陸部は1000m級の山々に囲まれ、イヌワシやツキノワグマなどの貴重で多様な生態系を育むブナ原生林が広がっている。兵庫県の北西端に位置している地理的關係から歴史的に鳥取県と経済・文化等の様々な面で深いつながりがあり、鳥取市、鳥取県岩美町など1市6町で「麒麟のまち」圏域を構成している。京都府から兵庫県、鳥取県まで及ぶ「山陰海岸ジオパーク」の中央にある「海・山・温泉 人が輝く 夢と温もりの郷」である。

新温泉町浜坂地域には、旧小学校区で組織されている7つの地区公民館があり、浜坂公民館は中央公民館としてそれらを統括し、支援を行っている。また、地域の特性と人財を生かしながら様々な取組を行い、公民館の充実・発展に努めている。その概要を述べ、問題提起とする。

2 取組の概要

公民館の3機能「つどい」「まなぶ」「むすぶ」を活性化させ、本町教育理念である「豊かに人と人がつながり、新温泉町の明るい未来を切り拓く」ため、下記の取組を行っている。

(1) 学びの輪を広げる環境の充実

① 人生を豊かに生きる公民館講座、事業（幅広い年齢層を対象）

ア グループ養成講座、フラワーアレンジメント講座、エクササイズ講座

イ 浜坂少年少女音楽隊育成事業（小学2年生から6年生13名による金管バンド）

・練習 … 毎週木曜日1時間半（原則）ステージ前は特別練習あり

・ステージ…町文化祭、もみじコンサート（11月）

ウ チャレンジキッズ探検隊新温泉（年間6回計画）

海や山などにおける自然体験を通じて「新温泉」の魅力とすばらしさを体感すると共に、仲間や地域の人々とのふれあいを深める。

② 町立高齢者大学宇都野学園の運営

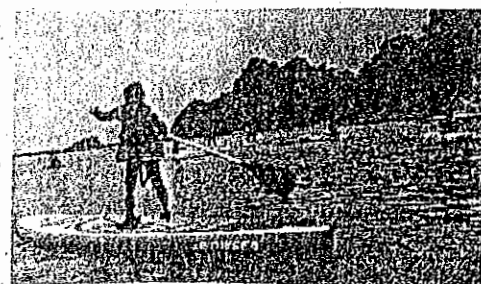
高齢者がつながり合い、生きがいや楽しみ、誇りをもって生涯を通じて学ぶ拠点。

ア 講座…年間7回の定例講座、3回の太学院講座

イ 行事…遠足、修学旅行、運動会、学園祭、新年会、入園式・開講式、修了式・閉講式

③ 地区公民館活動の充実（各種ふれあい活動）

ア ほっとサロン … 歌や読み聞かせなどの楽しい交流会



イ グラウンドゴルフ…地域の様々な年齢層の人々が集まり、心のつながりを深めている。

ウ 各種教室の開催…習字、生け花、オカリナ、つまみ細工、メディカルヨガ、和紙折紙

(2) 主体的に生きる力を育む事業の推進（地域住民の自治力を育てる）

① 女性教養講座（年間7回 今年度10名）

ア 受講生自らが講座内容を計画

イ 人権学習の充実（令和3年度「コロナ差別」 令和4年度「ヤングケアラー」）

「新温泉町人権啓発推進条例」制定の町民として、お互いの人権が尊重され、誇りが持てるまちづくりの実現に努める。

② 男子調理教室（公民館講座）

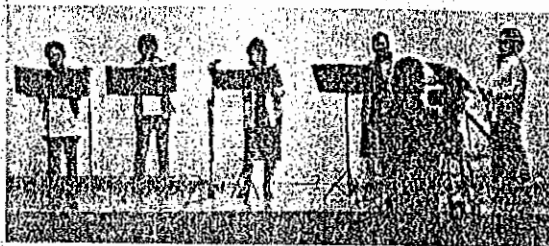
「男子、厨房に立つ」を合言葉に郷土料理研究家の指導のもと、郷土の食材を中心とした様々なメニューに挑戦し、その成果を家庭で生かしている。

③ 図書館プログラミング実習室（ぶんちゃんラボ、毎月1回 年間12回 図書館との共催）

児童の興味・関心に応じ、職員がきめ細やかなプログラミング学習の機会を継続的に提供。

④ 文化協会組織活動（事務局）

書道、短歌、詩吟、音楽など町内の文化系団体や個人が主体的に地域文化の向上、発展に努め、会員のつながりを深める。



(3) 持続可能な学びの場の創出

① 内容の変革と改善

ア 「少子化」と「価値観の多様化」への対応（「つながりの深化」に向けて 町子ども会）
各小学校区が主体となって、親子・地域・異年齢の絆を大切にしたいふれあい活動を実施。
（昭和時代から長年続いた球技大会【ソフトボール・バレーボール】からの変革）

イ 持続的な学びを充実させるための内容や方法の工夫（町立高齢者大学宇都野学園）

・兵庫県立芸術文化観光専門職大学や社会福祉協議会との連携 ・専門講座の再編成

② 公民館と地域学校協働活動との連携

地域全体で子どもたちの学びや成長を支えると共に、
「学校を核とした地域づくり」を目指し、学校と地域が
相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。

実践例…小学生と行こう！社会見学の旅



3 おわりに（成果と課題）

人生100年時代を見据え、公民館活動を通じて人生を豊かに生きることができ環境は整いつつある。コロナ禍においても「つながり」の継続に努め、その過程で多くの笑顔が生まれてきた。

今後は、誰一人取り残さない、取り残されることのない「みんなが輝くまちづくり」に向け、インクルージョン（包摂）とダイバーシティ（多様性）を大切にした取組を推進していきたい。

参考資料

- 1 近畿地区新築公民館紹介
- 2 全国大会年譜
- 3 近畿公民館大会年譜
- 4 令和4年度全公連・都道府県公連一覽
- 5 令和4年度近畿公民館連絡協議会名簿

令和3年度に近畿地区で新築した公民館の紹介

府県名	公民館名	所在地	館長名	職員数	開館年月日	面積		総工事費 (千円)	建物概要 (室名)	備考 (併設施設)
						建物 m	敷地 m			
兵庫県	やぶ市民交流広場	兵庫県養父市八鹿町八鹿538-1	田村 典嗣	9	令和3年9月14日	4,202	25,328	3,000,000	会議室(大、中、小) 和室 調理室 音楽スタジオ 展示室	図書館 ホール

全国大会年譜

全国公民館大会年譜

第1回	昭和27年5月29日～1日	福島県福島市公会堂	約1,200名
第2回	昭和28年6月4日～6日	栃木県日光町公会堂	1,123名
第3回	昭和29年5月20日～22日	富山県富山市公会堂	1,607名
第4回	昭和30年10月3日～10日	東京都お茶の水女子大学	1,382名
第5回	昭和31年10月16日～19日	大阪府夕陽丘会館	835名
第6回	昭和32年5月8日～10日	大分県別府市公民館	1,226名
第7回	昭和33年6月3日～5日	鳥取県米子市公会堂	約1,600名
第8回	昭和34年6月17日～19日	石川県小松市公会堂	約2,300名
第9回	昭和35年11月10日～12日	愛媛県松山市愛媛県民館	約2,270名
第10回	昭和36年11月20日～22日	栃木県藤原長鬼怒川公会堂	1,655名
第11回	昭和37年9月11日～13日	北海道帯広市公民館	676名
第12回	昭和38年11月13日～15日	広島県広島市公会堂	1,123名
第13回	昭和39年11月18日～20日	三重県津市文化会館	1,542名
第14回	昭和40年11月16日～18日	佐賀県佐賀市体育館	2,941名
第15回	昭和41年10月12日～14日	山形県山形市県民会館	1,853名
第16回	昭和42年11月14日～16日	徳島県徳島市文化センター	1,926名
第17回	昭和43年11月12日～14日	兵庫県西宮市市民会館	1,235名
第18回	昭和44年11月19日～21日	静岡県静岡市駿府会館	3,051名
第19回	昭和45年11月26日～28日	島根県松江市県民会館	1,833名
第20回	昭和46年10月13日～15日	石川県金沢市観光会館	1,767名
第21回	昭和47年11月17日～19日	熊本県熊本市市民会館	2,092名
第22回	昭和48年9月20日～22日	北海道北見市中央会館	1,072名
第23回	昭和49年10月16日～18日	福島県郡山市市民会館	2,131名
第24回	昭和50年11月12日～14日	滋賀県大津市市民会館	2,034名
第25回	昭和51年11月25日～26日	東京都立教育会館・虎ノ門ホール	1,116名
第26回	昭和52年10月12日～13日	新潟県新潟県民会館	1,396名

全国公民館振興大会年譜

第27回	昭和53年12月21日	東京都赤坂プリンスホテル	1,300名
第28回	昭和54年11月28日	東京都赤坂プリンスホテル	1,400名
第29回	昭和55年12月4日	東京都赤坂プリンスホテル	1,200名
第30回	昭和56年12月4日	東京都赤坂プリンスホテル	1,300名
第31回	昭和57年12月2日	東京都赤坂プリンスホテル	1,240名
第32回	昭和58年12月2日	東京都赤坂プリンスホテル	1,200名
第33回	昭和59年11月29日	東京都赤坂プリンスホテル	1,300名
第34回	昭和60年11月28日	東京都赤坂プリンスホテル	1,200名
第35回	昭和61年11月28日	東京都赤坂プリンスホテル	1,200名
第36回	昭和62年11月27日	東京都赤坂プリンスホテル	1,200名
第37回	昭和63年11月29日	東京都赤坂プリンスホテル	1,094名
第38回	平成元年11月30日	東京都赤坂プリンスホテル	1,200名

第39回	平成2年11月27日	東京都赤坂プリンスホテル	1,300名
第40回	平成3年11月27日	東京都赤坂プリンスホテル	1,370名
第41回	平成4年12月1日	東京都赤坂プリンスホテル	1,309名
第42回	平成5年12月2日	東京都赤坂プリンスホテル	1,061名
第43回	平成6年12月1日	東京都赤坂プリンスホテル	1,045名
第44回	平成7年12月1日	東京都赤坂プリンスホテル	956名
第45回	平成8年11月28日	東京都赤坂プリンスホテル	850名
第46回	平成9年12月4日	東京都赤坂プリンスホテル	610名
50周年記念	平成13年11月16日	東京都文部科学省虎ノ門ホール	1,202名

全国公民館研究集会年譜

第1回	会期 会場 参加者	昭和53年10月24日～25日 香川県高松市民文化センター 1,869名	第2回	会期 会場 参加者	昭和54年11月13日～14日 岐阜県岐阜市民会館ほか 1,899名
第3回	会期 会場 参加者	昭和55年10月23日～24日 福岡県福岡市民会館ほか 1,930名	第4回	会期 会場 参加者	昭和56年10月23日～24日 京都府京都府立勤労会館ほか 1,904名
第5回	会期 会場 参加者	昭和57年10月13日～14日 長野県長野市民会館ほか 2,005名	第6回	会期 会場 参加者	昭和58年10月26日～27日 岩手県盛岡市民会館ほか 1,520名
第7回	会期 会場 参加者	昭和59年10月18日～19日 福井県武生市文化センターほか 1,410名	第8回	会期 会場 参加者	昭和60年10月17日～18日 岡山県岡山市市民会館ほか 19分科会 1,687名
第9回	会期 会場 参加者	昭和61年10月6日～7日 沖縄県那覇市民会館ほか 10分科会 1,687名	第10回	会期 会場 参加者	昭和62年10月14日～15日 奈良県文化会館ほか 10分科会 2,311名
第11回	会期 会場 参加者	昭和63年8月4日～5日 北海道函館東高等学校ほか 12分科会 1,094名	第12回	会期 会場 参加者	平成元年11月9日～10日 埼玉県大宮ソニックシティほか 13分科会 2,201名
第13回	会期 会場 参加者	平成2年10月18日～19日 山口県山口市民会館ほか 12分科会 2,128名	第14回	会期 会場 参加者	平成3年10月24日～25日 愛知県蒲郡市民会館ほか 12分科会 1,840名
第15回	会期 会場 参加者	平成4年10月8日～9日 宮崎県宮崎市民会館ほか 12分科会 2,580名	第16回	会期 会場 参加者	平成5年10月20日～21日 和歌山県民会館ほか 13分科会 3,073名
第17回	会期 会場 参加者	平成6年10月20日～21日 秋田県秋田市民会館 12分科会 2,503名	第18回	会期 会場 参加者	平成7年10月19日～20日 群馬県民会館ほか 13分科会 2,830名
第19回	会期 会場 参加者	平成8年10月24日～25日 島根県民会館ほか 10分科会 3,121名	第20回	会期 会場 参加者	平成9年10月23日～24日 富山県芸術文化ホールほか 10分科会 2,888名
第21回	会期 会場 参加者	平成10年10月29日～30日 鹿児島県鹿児島市民文化ホールほか 10分科会 2,714名	第22回	会期 会場 参加者	平成11年10月28日～29日 大阪厚生年金会館ほか 8分科会 1,939名
第23回	会期 会場 参加者	平成12年10月5日～6日 北海道釧路市観光国際交流センターほか 10分科会 1,517名	第24回	会期 会場 参加者	平成13年10月18日～19日 長野県長野市ビッグハットほか 13分科会 2,676名

第25回 会期 平成14年10月3日～4日
会場 愛媛県松山市総合コミュニティセンターほか
参加者 10分科会 2,828名

第27回 会期 平成16年10月14日～15日
会場 熊本県立劇場ほか
参加者 10分科会 3,062名

第29回 会期 平成18年11月1日～2日
会場 宮城県仙台国際センターほか
参加者 6分科会 1,000名

第31回 会期 平成20年11月6日～7日
会場 高知県立県民文化ホールほか
参加者 8分科会 1,725名

第33回 会期 平成23年10月20日～21日
会場 佐賀県佐賀市文化会館ほか
参加者 6分科会 1,772名

第35回 会期 平成25年10月12日～18日
会場 北海道富良野文化会館ほか
参加者 5スーパー塾 858名

第37回 会期 平成27年10月15日～16日
会場 徳島県文化会館ほか
参加者 5分科会 2,071名

第39回 会期 平成29年11月30日～12月1日
会場 神戸ポートピアホテル
参加者 6分科会 804名

第41回 会期 令和元年11月15日
会場 奈良文化会館ほか
参加者 6分科会 724名

第43回 方法 オンデマンド配信
会場 八幡市文化センター
再生回数 545回

第26回 会期 平成15年10月16日～17日
会場 三重県総合文化センターほか
参加者 11分科会 2,088名

第28回 会期 平成17年10月13日～14日
会場 兵庫県立文化体育館ほか
参加者 10分科会 1,836名

第30回 会期 平成19年10月11日～12日
会場 栃木県宇都宮市文化会館ほか
参加者 10分科会 1,722名

第32回 会期 平成22年10月14日～15日
会場 石川県立音楽堂ほか
参加者 6分科会 1,679名

第34回 会期 平成24年10月11日～12日
会場 滋賀県大津市民会館ほか
参加者 5分科会 1,495名

第36回 会期 平成26年10月16日～17日
会場 埼玉県熊谷会館ほか
参加者 5分科会 1,261名

第38回 会期 平成28年11月10日～11日
会場 和歌山市民会館ほか
参加者 6分科会 842名

第40回 会期 平成30年11月1日～2日
会場 東京都日本青年館ホールほか
参加者 1,420名

第42回 方法 オンデマンド配信
会場 千葉県船橋市
再生回数 3,097回

近畿公民館大会年譜

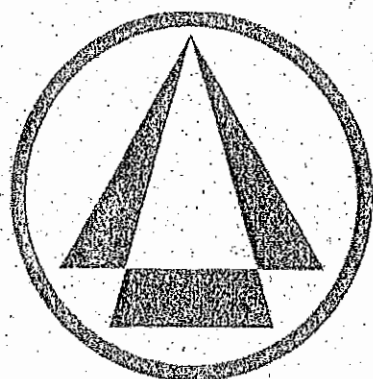
回	府 県 名	開 催 会 場 名	開 催 年 月 日
1	兵 庫	加 古 川 市 立 小 学 校	昭 和 28年10月4日～5日
2	大 阪	大 阪 市 浪 速 荘	30年3月15日～16日
3	京 都	宮 津 市 立 小 学 校	30年8月25日～27日
4	滋 賀	大 津 市 立 大 津 公 民 館	31年5月17日～18日
5	奈 良	天 理 市 天 理 教 館	32年9月17日～18日
6	和 歌 山	和 歌 山 市 民 会 館	33年10月13日～14日
7	兵 庫	神 戸 市 立 海 員 会 館	34年9月22日～23日
8	大 阪	大 阪 府 職 員 会 館	35年10月3日～4日
9	京 都	京 都 市 東 本 願 寺	36年10月21日～22日
10	滋 賀	滋 賀 会 館	37年8月1日～2日
11	奈 良	奈 良 学 芸 大 学 学 生 会 館	38年9月27日～28日
12	和 歌 山	和 歌 山 県 立 美 術 館	39年8月31日～9月1日
13	兵 庫	伊 丹 市 中 央 公 民 館	40年9月28日～29日
14	大 阪	大 阪 科 学 セ ン タ ー	41年8月4日～5日
15	京 都	京 都 教 育 文 化 セ ン タ ー	42年8月29日～30日
16	滋 賀	滋 賀 会 館	43年9月5日～6日
17	奈 良	天 理 市 民 会 館	44年9月19日～20日
18	和 歌 山	高 野 町 高 野 山 大 学	45年9月17日～18日
19	兵 庫	芦 屋 市 市 民 会 館	46年9月3日～4日
20	大 阪	大 阪 府 職 業 訓 練 セ ン タ ー	47年10月6日～7日
21	京 都	宮 津 市 宮 津 会 館	48年6月28日～29日
22	奈 良	大 和 郡 山 市 中 央 公 民 館	49年8月28日～29日
23	和 歌 山	白 浜 町 む さ 志	50年7月8日～9日
24	滋 賀	延 暦 寺 会 館	51年9月8日～9日
25	兵 庫	姫 路 市 市 民 会 館	52年9月8日～9日
26	大 阪	高 石 市 新 東 洋	53年9月7日～8日
27	京 都	京 都 教 育 文 化 セ ン タ ー	54年9月6日～7日
28	滋 賀	大 津 市 民 会 館	55年9月4日～5日
29	京 都	京 都 府 立 勤 労 会 館	56年10月23日～24日
30	奈 良	生 駒 市 中 央 公 民 館	57年9月2日～3日
31	和 歌 山	白 浜 町 古 賀 の 井	58年9月6日～7日
32	兵 庫	兵 庫 県 立 城 崎 大 会 議 館	59年9月11日～12日
33	大 阪	枚 方 市 立 市 民 会 館	60年9月5日～6日
34	京 都	京 都 府 立 勤 労 会 館	61年9月9日～10日
35	奈 良	奈 良 県 文 化 会 館	62年10月14日～15日

回	府県名	開催会場名	開催年月日
36	滋賀	守山市民ホール	63年9月7日～8日
37	和歌山	和歌山市民会館	平成元年9月13日～14日
38	兵庫	姫路市市民会館	2年10月4日～5日
39	大阪	吹田市立千里市民センター	3年9月12日～13日
40	京都	宇治市文化センター	4年9月17日～18日
41	和歌山	和歌山県民文化会館	5年10月21日～22日
42	奈良	桜井市民会館	6年11月17日～18日
43	滋賀	近江八幡市文化会館	7年8月31日～9月1日
44	兵庫	洲本市市民会館	8年11月14日～15日
45	京都	舞鶴市総合文化会館	9年11月20日～21日
46	和歌山	白浜町立総合体育館	10年9月3日～4日
47	大阪	厚生年金会館	11年10月28日～29日
48	奈良	な 5.1 0 0 年 会 館	12年10月19日～20日
49	滋賀	今津文化会館	13年11月8日～9日
50	大阪	貝塚市民文化会館	14年11月7日～8日
51	京都	宇治市文化センター	15年11月6日～7日
52	和歌山	白浜町立総合体育館	16年11月25日～26日
53	兵庫	兵庫県立文化体育館	17年10月13日～14日
54	滋賀	大津市民会館	18年11月16日～17日
55	奈良	奈良県文化会館	19年11月15日～16日
56	大阪	箕面市立市民会館	20年11月13日～14日
57	京都	ガレリアがめおか	21年11月12日～13日
58	和歌山	和歌山市民会館	22年11月11日～12日
59	兵庫	姫路市市民会館	23年11月10日～11日
60	滋賀	大津市民会館	24年10月11日～12日
61	奈良	奈良県文化会館	25年11月14日～15日
62	大阪	貝塚市民文化会館	26年11月14日
63	京都	ルビノ京都堀川・長岡京記念文化会館	27年11月19日～20日
64	和歌山	和歌山市民会館・県民交流プラザ和歌山ビッグ愛	28年11月10日～11日
65	兵庫	神戸ポートピアホテル	29年11月30日～12月1日
66	滋賀	大津市民会館	30年10月19日
67	奈良	奈良県文化会館	令和元年11月15日
68	京都	八幡市文化センター	3年11月12日

令和4年度全公運・都道府県公運一覧

名 称	所 在 地	電 話・FAX 番 号
全国公民館連合会	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-16-8 飯島ビル3階	TEL 03-3501-9666 FAX 03-3501-3481
北海道公民館協会	〒060-0902 北海道札幌市中央区北2条西7丁目 北海道立生涯学習推進センター	TEL 011-271-2825 FAX 011-271-2825
青森県公民館連絡協議会	〒030-0813 青森県青森市松原1-6-15 青森市中央市民センター内	TEL 017-734-0164 FAX 017-775-7048
岩手県社会教育連絡協議会	〒020-8532 岩手県盛岡市津志田14-37-2 盛岡市教育委員会生涯学習課内	TEL 019-651-4111 FAX 019-639-1516
宮城県公民館連絡協議会	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 仙台市生涯学習支援センター内	TEL 022-295-0403 FAX 022-295-0810
秋田県公民館連合会	〒010-8580 秋田県秋田市山王三丁目1-1 秋田県教育庁生涯学習課内	TEL 018-860-5184 FAX 018-860-5816
山形県社会教育連絡協議会	〒990-8570 山形県山形市松波2-8-1 山形県教育庁生涯学習振興課内	TEL 023-630-2872 FAX 023-630-2874
福島県公民館連絡協議会	〒970-8026 福島県いわき市平字堂根町1-4 いわき市立中央公民館内	TEL 0246-22-5431 FAX 0246-22-5435
茨城県公民館連絡協議会	〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎3階水戸生涯学習センター内	TEL 029-225-6991 FAX 029-303-5550
栃木県公民館連絡協議会	〒320-8501 栃木県宇都宮市堀田1-1-20 栃木県教育委員会事務局生涯学習課内	TEL 028-623-3408 FAX 028-623-3406
群馬県公民館連合会	〒370-0065 群馬県高崎市末広町27 高崎市中央公民館内	TEL 027-322-8605 FAX 027-386-8300
埼玉県公民館連絡協議会	〒361-0032 埼玉県行田市佐間3-24-7 行田市教育文化センター「みらい」内	TEL 048-552-0291 FAX 048-553-5760
千葉県公民館連絡協議会	〒279-0013 千葉県浦安市日の出4-1-1 浦安市日の出公民館内	TEL 047-355-8831 FAX 047-355-8891
東京都公民館連絡協議会	〒194-0013 東京都町田市原町田6-8-1 町田市生涯学習センター内	TEL 042-728-0071 FAX 042-728-0073
神奈川県公民館連絡協議会	〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通1 神奈川県東庁舎神奈川県教育委員会生涯学習課内	TEL 045-210-8347 FAX 045-210-8939
新潟県公民館連合会	〒950-9602 新潟県新潟市中央区女池南3-1-2 新潟県立生涯学習センター内	TEL 025-288-5571 FAX -
山梨県公民館連絡協議会	〒400-8504 山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県教育庁生涯学習課内	TEL 055-223-1770 FAX 055-223-1775
長野県公民館運営協議会	〒380-0928 長野県長野市若里1-1-4 長野県立図書館内	TEL 026-217-6256 FAX 026-217-6256
富山県公民館連合会	〒930-0096 富山県富山市舟橋北町7-1 富山県教育文化会館内	TEL 076-444-5777 FAX 076-444-5777
石川県公民館連合会	〒921-8105 石川県金沢市平和町1-3-1 石川県平和町庁舎内	TEL 076-245-6580 FAX 076-245-6584
福井県公民館連合会	〒918-8135 福井県福井市下六条町14-1 福井県生活学習館内	TEL 0776-41-4077 FAX 0776-41-4077
岐阜県公民館連合会	〒500-8384 岐阜県岐阜市藤田南5-14-12 岐阜県シンクタンク庁舎内	TEL 058-278-0133 FAX 058-278-0136
愛知県公民館連合会	〒460-8534 愛知県名古屋市中区三の丸3-1-2 愛知県教育委員会生涯学習課内	TEL 052-954-6780 FAX 052-954-6962
京都府公民館連絡協議会	〒600-8533 京都府京都市下京区中堂寺命婦町1-10 京都産業大学むすびわざ館4階京都府教育庁指導部社会教育課内	TEL 075-414-5886 FAX 075-414-5888
兵庫県公民館連合会	〒675-0188 兵庫県加古川市平岡町新在家902-3 公益財団法人兵庫県生きがい創造協会内	TEL 079-424-9832 FAX 079-424-3475
奈良県公民館連絡協議会	〒530-8502 奈良県奈良市登大路町30番地 奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課社会教育係内	TEL 0742-27-8018 FAX 0742-23-8609
和歌山県公民館連絡協議会	〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1 和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課内	TEL 073-441-3722 FAX 073-441-3724

名称		所在地	電話・FAX番号
鳥取県公民館連合会	〒682-0823	鳥取県倉吉市東町435-1 倉吉市教育委員会社会教育課内	TEL 0858-22-8167 FAX 0858-22-8180
島根県公民館連絡協議会	〒690-8502	島根県松江市殿町1 島根県教育庁社会教育課内	TEL 0852-22-5429 FAX 0852-22-6218
岡山県公民館連合会	〒700-0016	岡山県岡山市北区伊島町3-1-1 岡山県生涯学習センター振興課内	TEL 086-251-9751 FAX 086-251-9757
広島県公民館連合会	〒730-0052	広島県広島市中区千田町3-2-47 広島県情報プラザ4F広島県立生涯学習センター内	TEL 082-249-0008 FAX 082-249-0008
山口県公民館連合会	〒753-8501	山口県山口市滝町1-1 山口県教育庁社会教育・文化財課内	TEL 083-933-4661 FAX 083-933-4669
徳島県公民館連絡協議会	〒770-8570	徳島県徳島市万代町1-1 徳島県教育委員会生涯学習政策課内	TEL 088-621-3148 FAX 088-621-2884
香川県公民館連絡協議会	〒760-8582	香川県高松市天津前6-1 香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課内	TEL 087-832-3771 FAX 087-831-1912
愛媛県公民館連合会	〒791-1136	愛媛県松山市上野甲650 愛媛県生涯学習センター内	TEL 089-963-3583 FAX 089-963-3583
高知県公民館連絡協議会	〒780-8570	高知県高知市丸の内1-7-52 高知県教育委員会事務局生涯学習課内	TEL 088-821-4911 FAX 088-821-4505
福岡県公民館連合会	〒812-8575	福岡県福岡市博多区東公園7-7 福岡県庁舎4階福岡県教育庁教育企画部社会教育課内	TEL 092-643-3887 FAX 092-643-3889
佐賀県公民館連合会	〒840-8570	佐賀県佐賀市城内1-1-59 佐賀県県民環境部まちづくり課内	TEL 0952-25-7313 FAX 0952-25-7406
長崎県公民館連絡協議会	〒850-8570	長崎県長崎市尾上町3-1 長崎県教育庁生涯学習課内	TEL 095-894-3363 FAX 095-894-3477
熊本県公民館連合会	〒862-8609	熊本県熊本市中央区水前寺6-18-1 熊本県教育庁市町村教育局社会教育課内	TEL 096-333-2698 FAX 096-387-0089
大分県公民館連合会	〒870-8503	大分県大分市府内町3-10-1 大分県教育庁社会教育課内	TEL 097-506-5561 FAX 097-506-5561
宮崎県公民館連合会	〒880-8502	宮崎県宮崎市橘通東1-9-10 宮崎県教育庁生涯学習課内	TEL 0985-26-7447 FAX 0985-26-7342
鹿児島県公民館連絡協議会	〒890-8577	鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1 鹿児島県教育庁社会教育課内	TEL 099-286-5338 FAX 099-286-5673
沖縄県公民館連絡協議会	〒900-8571	沖縄県那覇市泉崎1-2-2 沖縄県教育庁生涯学習振興課内	TEL 098-866-2746 FAX 098-863-9547



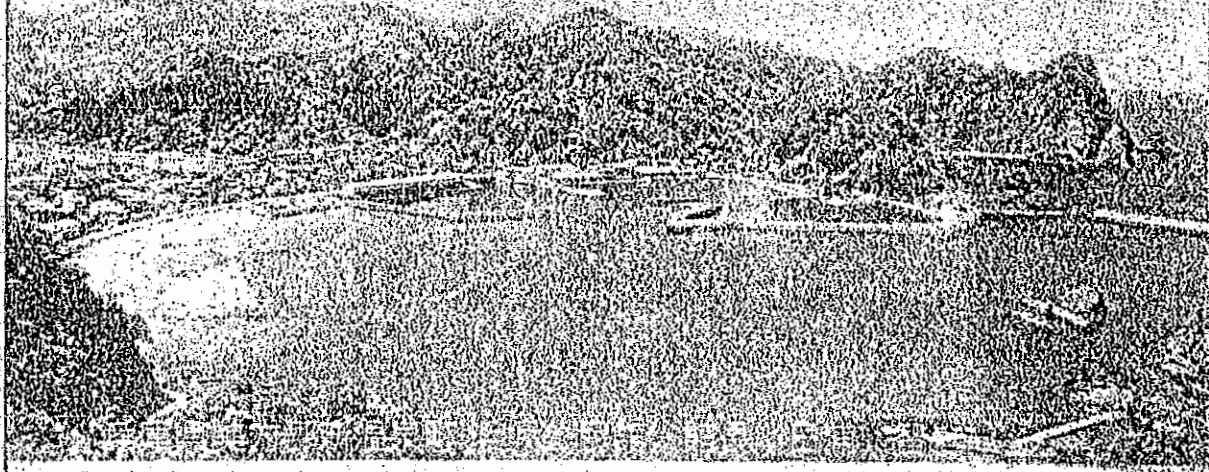
第44回全国公民館研究集会和歌山大会

第69回近畿公民館大会和歌山大会・第64回和歌山県公民館大会
実行委員会事務局

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL:073-441-3722 FAX:073-441-3724

令和4年11月10日(木) 第44回全国公民館研究集会 和歌山大会
第4分科会 人を活かし 人を結ぶ公民館

学びの輪を広げ 主体的に生きる力を育む公民館



日本最南の諸富港とその集落。地元でまちづくりの機運が高まっている

1. はじめに

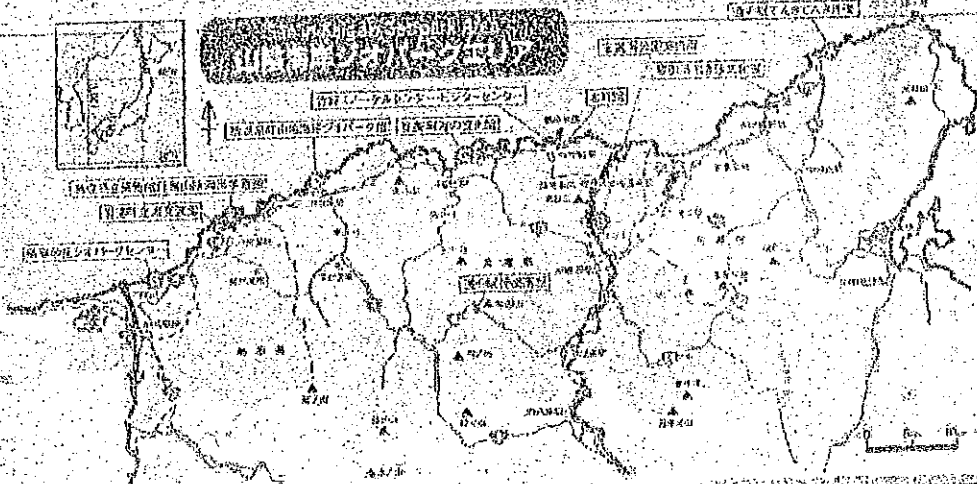
兵庫県
美方郡
新温泉町

新温泉町
の位置

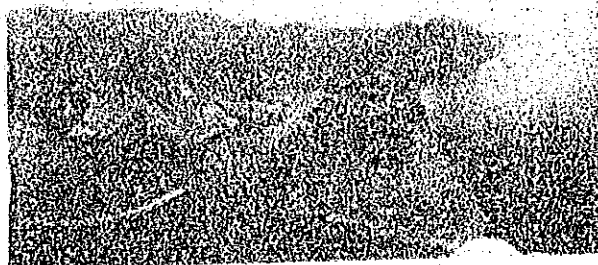
科学的にみて、特別に重要で
貴重な、あるいは美しい
地質遺産を複数含む自然公園

テーマ: 日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし

山陰海岸ジオパークには、日本列島がアジア大陸の一部だった頃から現在までの、多様な地質や地形が存在しています。そして、それらがもたらす多様な自然を育み、人々の文化や歴史があります。



三尾大島 雄大な自然に抱かれる新温泉町



イヌワシ



ブナ林



ミヅカラの滝

「おいしい」がそろそろ新温泉町



春来そば



浜坂地えび

地えび
(ホッコリアサギ)

地えびは、浜坂の地産で、

味は、ホッコリアサギで、

地えびは、浜坂の地産で、

味は、ホッコリアサギで、

地えびは、浜坂の地産で、

味は、ホッコリアサギで、

地えびは、浜坂の地産で、

味は、ホッコリアサギで、

地えびは、浜坂の地産で、

味は、ホッコリアサギで、

地えびは、浜坂の地産で、

味は、ホッコリアサギで、

地えびは、浜坂の地産で、

日本遺産

「麒麟のまち」

新温泉町



2 取組の概要 兵庫県 浜坂公民館の事業構造

～「躍動する新温泉町の教育」基本理念の具現化に向けて～
豊かに人と人がつながり 新温泉町の明るい未来を切り拓く
ひとづくり（教育） まちづくり（地域振興）
【人生100年時代に応じた人づくりの礎】

○学びの輪を広げる

環境の充実

（多様な学習の機会の提供）

○主体的に生きる力を

育む事業の推進

持続可能な

学びの場の創出

人を活かし

人を結ぶサイクル

「公民館エンジン」の活性化



新温泉町の実態

1 人 少子高齢化

高齢化率

県下2位 36.89%

つながりの希薄化

2 交通

神戸（県庁所在地）から、列車

車とも約3時間

(1) 学びの輪を広げる環境の充実

全世代・世代間交流

フラワーアレンジメント教室



地区公民館活動の充実 ～浜坂公民館の役割～ 中央公民館として7つの地区公民館を統括、支援

赤崎地区公民館 4地区 公民館運営委員8人	三尾地区公民館 1地区 公民館運営委員4人	久斗地区公民館 6地区 公民館運営委員7人
久斗山地区公民館 2地区 公民館運営委員1人	大蔵地区公民館 11地区 公民館運営委員13人	
屋組地区公民館 1地区 公民館運営委員6人	諸寄地区公民館 2地区 公民館運営委員10人	

地区公民館の様々な取り組み ～地域の特性と人財を活かして～

赤崎地区公民館



田んぼ、川、海のプラ
ンクトンを観察しよう
(ブンダー[地域団体]
との連携)

三尾地区公民館



漁業体験 鯛の養殖
(青推協、実年会、漁
業者との連携)

久斗地区公民館



リズム遊び
(文化協会「奏えー
るVivace」[脳トレ
ピアノ]との連携)

ホタル
力エリ
昆虫の
観察会
講師
久斗山地区
公民館長

久斗山地区公民館



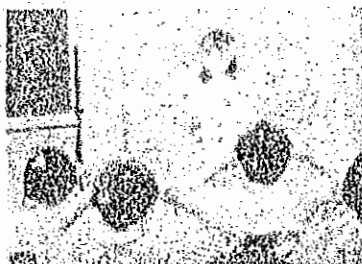
露道教室
講師
大庭地区
公民館長

大庭地区公民館



諸寄地区公民館

ほっと
サロン
みんなで
楽しい
ひとときを



長寿
クラブ
ゴルフ
大会

居組地区公民館



(すこやかクラブ浜坂支部との連携)

(2) 主体的に生きる力を育む事業の推進
(地域住民の自治力を育てる)
女性の自立と社会参画

女性教養講座

人権学習 「偏見・差別は 体験学習
変えられるもの」



日本農業遺産

「兵庫美方地域の但馬牛」

日本ではじめて「牛のこけき」が作られ、全国でも
美方郡だけが県内の牛だけの改良が行われ、他
地域にない血統の牛が守られてきた。

敏草やあせ草の飼料利用、タイヒの利用により、
但馬牛を飼うことが地域の収入や豊饒を守ることに
も役立ってきた。

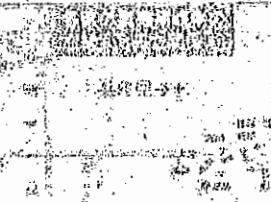
これらにより、農村環境や多くの生き物が守られ、牛
と人と自然がともに豊かな地域を創られる地域と
なっている。

これらのことが
全国に高く評価されている。

「肉のこけき」

＜肉のこけき＞
「先祖代々の血統をどこまで
さかのぼっても兵庫県生まれ
の牛だけ」

＜おいしさ＞
・肉がキメ細かく上品な甘
みのある赤身
・細かいしもふり
・人肌でもとける脂肪
・脂肪の風味



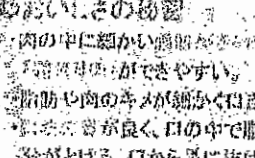

但馬馬牛の特色

・肉のこけき（肉の血統）が保たれている
・牛は小さいけれど力持ち
・野草だけでも飼え、長生き
・飼料の手間も能力にすぐれる
・その肉は食べるとおいしい



肉のこけきの秘密

・肉の中に細かい脂肪がまろやかに入りこむ
・脂質の割合が適量でおいしい
・脂肪や肉のキメが細かく白濁たまりがよい
・肉の質が良く、口の中で脂肪のうまみ成
分がとける。口から舌に抜ける感じがよい。



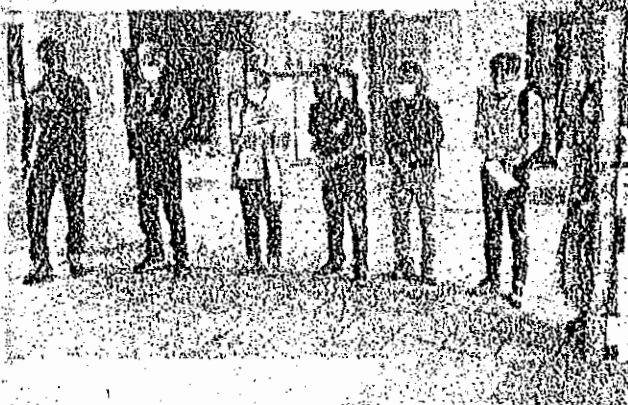
（3）持続可能な学びの場の創出

「地域学校協働活動」との連携

令和5年度 町内全小中学校「コミュニティ・スクール化」

「小学生と行こう！社会見学の旅」 浜坂東小学校地域学校協働活動





3 おわりに【成果と課題】

【1】学びの輪を広げる環境の充実

成 果	課 題
① コロナ禍においても、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の人々が集い、笑顔でつながることができた。	事業に集うのが同じ人ばかりになりがちで、若者、生産年齢層の人も少ない傾向にある。包摂社会の実現に向け、SDGの「誰一人取り残さない」
② 地域の人財と特性を生かした地区公民館の活発で様々な取組が、住民に「生きがい」を与え、「生涯学ぼうとする意識」を高めた。	(Leave No One Behind)を目指し、多様な人々が集う事業を展開する。こうして、ダイバーシティの視点を踏まえ、一層豊かな「つながり」を生み出すこと。

【2】主体的に生きる力を育む事業の推進

成 果	課 題
① 受講生自らが活動計画を立案することにより「自治力」が向上した。	① 人生100年時代を見据え、受講生（町民）一人ひとりが「自分は自分を創っていく責任者である」という意識を持つ。
② 人権学習や男子調理教室を通して、ジェンダー平等への意識が高まった。	より良い自分の創造に向け、「当事者意識」を高め、「主体的に生きる力」を向上させる。
③ 児童の思考力・判断力の育成と共に、親子がふれあう良い機会となった。	② 「教養を高めること」と趣味性が強くなりがちな「生きがい」とのバランスを保ち、両立させる。

(3) 持続可能な学びの場の創出

～「町民良し」「公民館良し」「地域良し」の
三方が充実する公民館事業に向けて～

成 果

- ① 公民館と様々な団体・機関・施設・大学との連携により、円滑に事業を行うことができるようになり、学びに対する町民の関心も一層高まった。
- ② 組織の再編成や価値観の多様化に対応した事業の見直しにより、ゆとりと潤いのある交流の場を創ることができた。

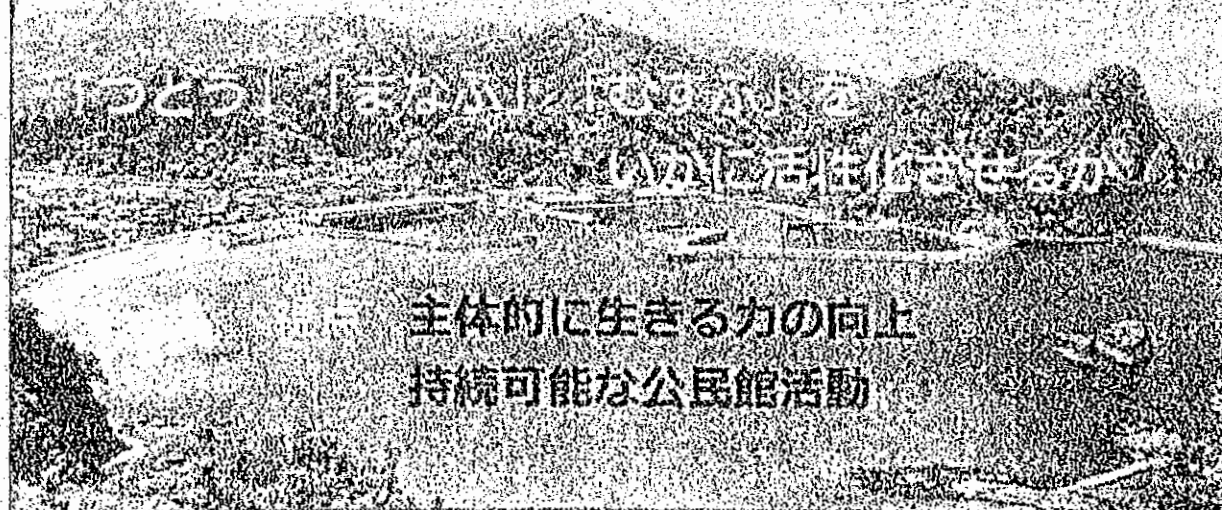
課 題

- ① 町民、公民館、地域の現状を俯瞰して「面」で捉え、人と組織がつながる。こうしてGive&TakeからWin&Winを具現化する協働的な知的・人的ネットワークを構築する。
- ② 町民、行政、各種団体が互いに強みを生かし、パートナーシップを活性化する。

第4分科会 人を活かし、人を結ぶ公民館

学びの輪を広げ、主体的に生きる力を育む公民館

問題提起



※参考資料 日本海新聞に掲載



久斗川で生き物観察会

清流の恵み
みぎもみぎも

川に入って魚やカニを
探す参加者120日、新
温泉町久斗山の久斗川

新温泉町久斗山の久斗川は、清流の恵みを受け、生き物観察会が行われる。参加者は、川に入って魚やカニを探し、生き物の観察を行う。この活動は、自然の恵みを受け、生き物の観察を行う。参加者は、川に入って魚やカニを探し、生き物の観察を行う。この活動は、自然の恵みを受け、生き物の観察を行う。

ごみ処理の仕組み学ぶ

浜坂東小 住民らと施設見学

新温泉町高末の浜坂東小 年生13人が15日、ごみ処理（山崎西田校長）の3、4施設、クリーンパーク北側



ごみの再資源化について学ぶ参加者たち。15日、穂岡市竹野町坊岡のグリーンパーク北側

第44回全国公民館研究集会和歌山大会

第69回近畿公民館大会和歌山大会・第64回和歌山県公民館大会

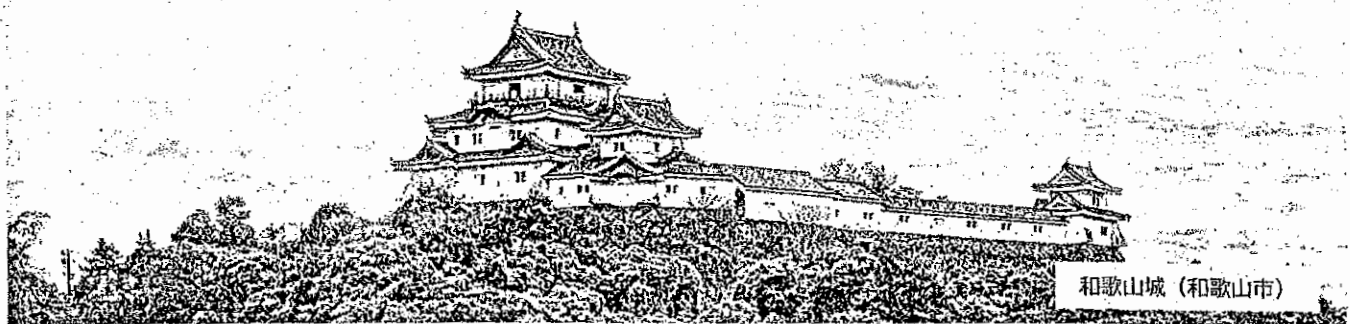
誰もが集う公民館

～コロナ禍でも人はつながり、笑顔は生まれる～

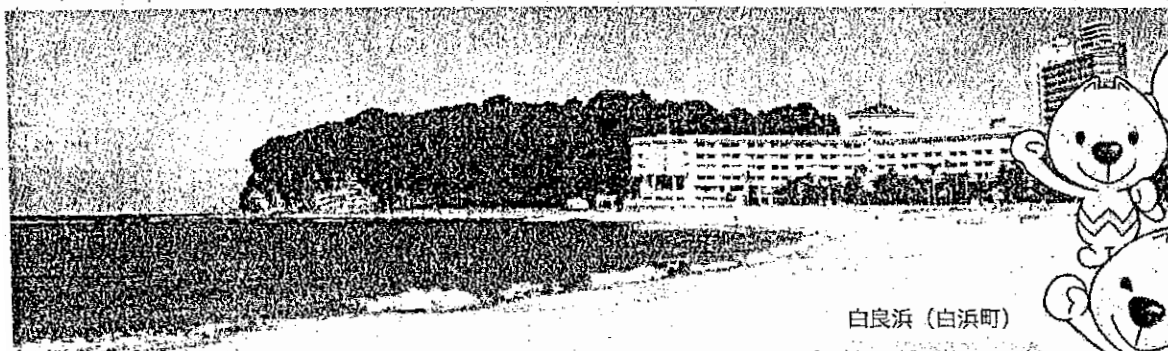
オンデマンド配信 令和5年1月23日(月)～3月31日(金)



熊野速玉大社(新宮市)



和歌山城(和歌山市)



白良浜(白浜町)

写真提供:公益社団法人 和歌山県観光連盟



和歌山県マスコットキャラクター
「きいちゃん」

主催 公益社団法人全国公民館連合会 近畿公民館連絡協議会 和歌山県公民館連絡協議会

第44回全国公民館研究集会和歌山大会

第69回近畿公民館大会和歌山大会・第69回和歌山県公民館大会

01 開会行事・表彰式

URL : <https://vimeo.com/783551769>



02 記念講演・次期開催地挨拶



記念講演「生涯 学ぼう 生涯 人と関わろう」
～腹話術ボランティア40年の4つの転機～

和歌山県腹話術協会 会長

和歌山県立医科大学 ケアミインド特別講師 宮本 年起 氏

URL : <https://vimeo.com/783552830>



03 第一分科会「高齢者の学びと講座づくり」

問題提起

「生涯学習・耐久生涯大学の取組と公民館」

広川町中央公民館 館長 児島 修 氏

URL : <https://vimeo.com/783554203>



04 第二分科会「地域づくりと公民館」

問題提起

「公民館、この曖昧なもの。」

舞鶴市多世代交流施設 まなびあむ 福田 豊明 氏

URL : <https://vimeo.com/783556200>



05 第三分科会「コロナ禍における公民館活動」

問題提起

「コロナ禍 ～公民館にできること～」

(公財)奈良市生涯学習財団登美ヶ丘南公民館 館長 福山 哲治 氏

(公財)奈良市生涯学習財団登美ヶ丘南公民館 元館長 山田 龍太郎 氏

URL : <https://vimeo.com/783558356>



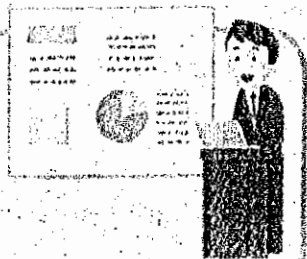
06 第四分科会「人を活かし 人を結ぶ公民館」

問題提起

「学びの輪を広げ、主体的に生きる力を育む公民館」

新温泉町浜坂公民館 館長 日浦 智 氏

URL : <https://vimeo.com/783560074>



※ こちらの動画は、限定公開となっておりますので、上記URL入力又はQRコード読込のみで視聴可能となります。
検索しても視聴できないため、ご注意ください。

大会事務局（問い合わせ先）

第44回全国公民館研究集会和歌山大会・第69回近畿公民館大会和歌山大会

・第64回和歌山大会事務局

電話 : 073-441-3722 FAX : 073-441-3724

奈良市男女共同参画センターの奈良市生涯学習センターへの移転について

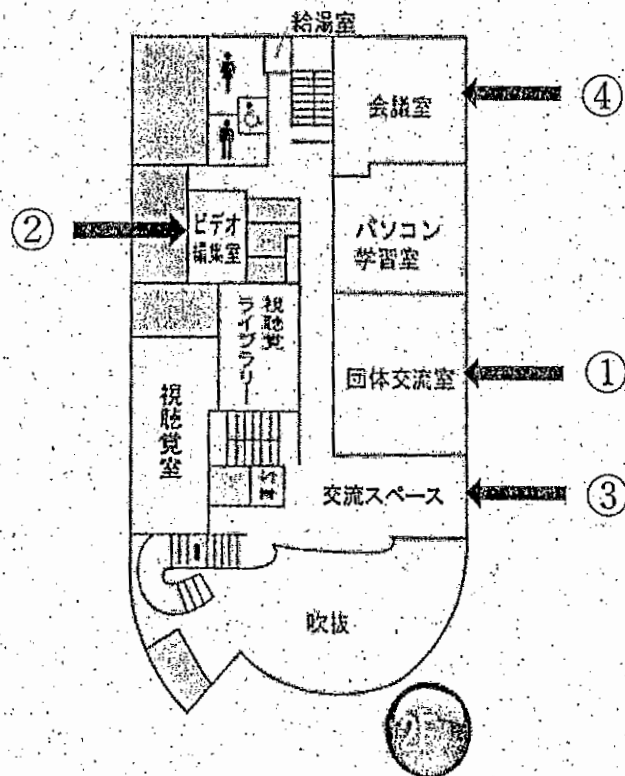
1. 奈良市男女共同参画センターとは

男女の人権の確立を図り、社会のあらゆる分野へ男女が対等に参画し、それぞれの能力を発揮できる豊かで活力のある男女共同参画社会の形成を推進することを目的として設置されている。主に関係団体への貸館、講座の開催及び関係図書の貸し出しを行う。

2. 移転時期 令和5年4月1日

3. 移転に伴う変更内容（位置図参照）

- ① 団体交流室：公民館施設としては廃止し、男女共同参画センターとして位置づけ
- ② ビデオ編集室：公民館施設としては廃止し、男女共同参画センターとして位置づけ
- ③ 交流スペース：男女共同参画センターの交流スペースとしても利用
- ④ 会議室：使用料を設定し、公民館施設として新たに貸館



4. 移転後の奈良市男女共同参画センターの運用

- (1) 開館時間 ※公民館に準ずる
午前9時から午後9時
- (2) 休館日 ※公民館に準ずる
 - ① 月曜日
 - ② 国民の祝日
 - ③ 12月27日から翌年1月5日まで
- (3) 料金形態
公民館に準じ、部屋の面積をもとに設定

公民館をとりまく諸課題と今後の方向性について

公民館をとりまく諸課題

運営面	・地域ニーズの多様化・複雑化 ・利用者の固定化
施設面*	・老朽化し、維持補修が困難 ・バリアフリー化が進んでいない
社会的背景	・人口減少・少子高齢化 ・ICT社会の到来

求められる新たな姿

運営面	・地域のニーズに応じた社会教育事業を展開 ・子育て世代・若者支援の充実化
施設面	・効率的で効果的な施設運営 ・誰もが利用しやすい施設
社会的背景	・人生100年時代を踏まえた街づくり ・デジタルリテラシーを地域全体で高めるなど

目指すべき今後の公民館の方向性

- ① 地域や市民ニーズに寄り添ったより一層の生涯学習や社会教育の充実
- ② 様々な方法を取り入れた施設運営

公民館施設の他市改革事例 (R5.2)

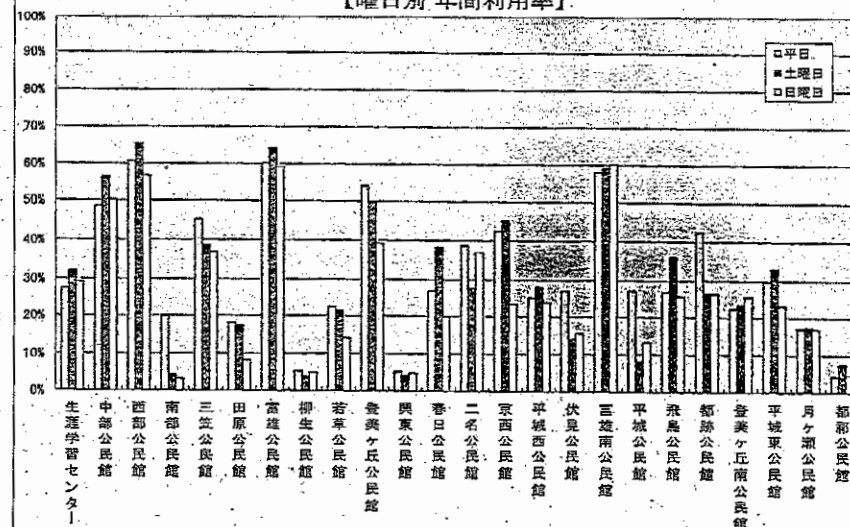
市	改革(取組)内容	得られた効果
大津市	公民館 36 館のうち 35 館をコミュニティセンター化することを目標に掲げており、要望のある地域から順次移行している。 現時点で14館移行完了。 運用方法は、それぞれの地域が次の2つから選ぶ。 〈パターン1〉 生涯学習専門員が講座を企画運営し、地域は貸館業務のみ行う。 ※生涯学習専門員…教員免許または社会教育主事の資格を持つ、市会計年度任用職員。公民館やコミュニティセンターへ配属され常駐する。 〈パターン2〉 講座の企画運営及び貸館業務をすべて地域が担う。	・地域主体の施設となるため、公民館時代よりも若い人が集うようになった。 ・地域の方が常駐しているため、安心感が生まれる。 ・公民館時代に比べ稼働率が増えた。 ・周知方法の幅が広がり、講座の参加者も増えた。 ・地域のイベント等でも活用され、利用用途の幅が広がった。 ・子ども対象のイベントを気兼ねなく地域で運用できる。 ・指定管理料の中で若い人を雇用できるため、施設内に飾りつけなどがされ明るくなった。

施設別 年間利用率(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

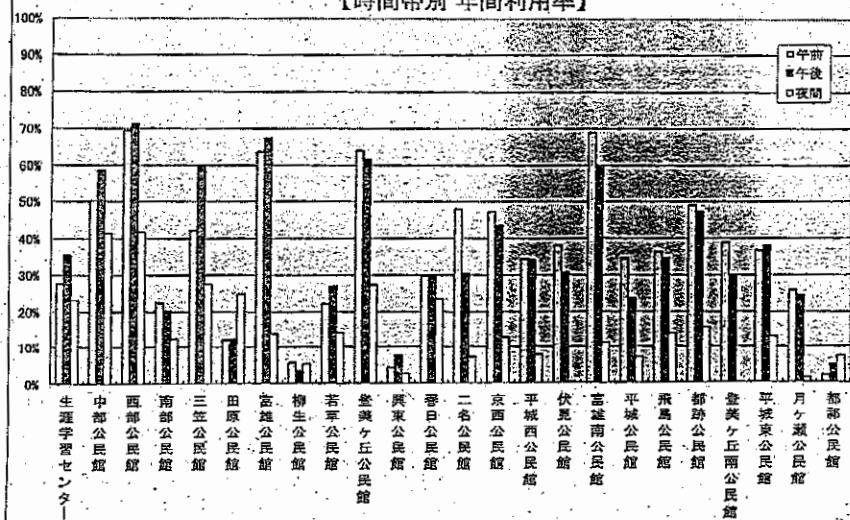
施設	平日	土曜日	日曜日	午前	午後	夜間	元年度総合	30年度総合	29年度総合
生涯学習センター	27.6%	32.2%	29.2%	27.6%	35.3%	22.9%	28.6%	31.6%	31.9%
中部公民館	48.6%	56.4%	50.2%	50.2%	56.9%	41.4%	50.2%	51.9%	54.3%
西部公民館	60.7%	65.4%	56.6%	69.4%	71.3%	41.9%	60.8%	67.2%	63.8%
南部公民館	19.8%	4.4%	3.2%	22.3%	20.4%	12.5%	18.4%	24.3%	20.6%
三笠公民館	45.5%	38.6%	36.9%	42.2%	60.0%	27.4%	43.0%	46.9%	46.6%
田原公民館	18.0%	17.5%	8.2%	12.1%	12.4%	24.5%	16.4%	13.3%	14.0%
富雄公民館	60.2%	64.2%	59.2%	63.8%	67.3%	13.9%	60.7%	73.3%	67.0%
柳生公民館	5.4%	3.8%	4.9%	5.9%	3.8%	5.5%	5.1%	5.9%	6.1%
若草公民館	22.5%	21.6%	14.3%	22.1%	26.8%	14.1%	21.0%	24.8%	26.7%
登美ヶ丘公民館	54.0%	49.8%	39.1%	64.0%	61.6%	27.1%	50.9%	51.8%	53.0%
奥東公民館	5.3%	4.2%	4.8%	4.5%	7.8%	2.7%	5.0%	4.0%	3.9%
春日公民館	27.0%	38.3%	19.9%	29.9%	30.0%	23.4%	27.7%	31.0%	28.0%
二名公民館	38.7%	27.8%	37.0%	48.0%	30.3%	7.3%	36.6%	37.3%	38.9%
京西公民館	42.7%	45.5%	23.3%	47.3%	43.6%	12.8%	40.0%	39.3%	34.1%
平城西公民館	25.2%	28.1%	23.8%	34.4%	34.1%	7.9%	25.5%	28.1%	14.6%
伏見公民館	27.1%	14.2%	15.7%	38.1%	30.7%	0.5%	23.1%	22.2%	22.7%
富雄南公民館	58.0%	59.3%	60.2%	68.8%	59.6%	11.0%	58.6%	59.7%	62.4%
平城公民館	27.2%	8.3%	13.4%	34.5%	23.5%	7.3%	21.8%	28.2%	27.8%
飛鳥公民館	26.9%	36.1%	25.6%	36.2%	34.6%	13.8%	28.2%	30.0%	27.8%
都路公民館	42.6%	26.6%	26.3%	49.0%	47.3%	15.6%	37.3%	38.5%	37.8%
登美ヶ丘南公民館	22.3%	23.3%	25.5%	39.0%	29.9%	0.1%	23.0%	25.2%	21.0%
平城東公民館	29.8%	33.3%	23.1%	36.7%	38.2%	12.9%	29.3%	33.9%	34.1%
月ヶ瀬公民館	17.1%	17.5%	17.0%	25.8%	24.3%	1.5%	17.2%	17.2%	16.5%
都祁公民館	4.5%	7.6%	4.8%	2.2%	5.4%	7.6%	5.1%	5.5%	5.8%

	平日	土曜日	日曜日	午前	午後	夜間	元年度総合	30年度総合	29年度総合
最低値	4.5%	3.8%	3.2%	2.2%	3.8%	0.1%	5.0%	4.0%	3.9%
施設	都祁公民館	柳生公民館	南部公民館	都祁公民館	柳生公民館	登美ヶ丘南公民館	奥東公民館	奥東公民館	奥東公民館
最高値	60.7%	65.4%	60.2%	69.4%	71.3%	41.9%	60.8%	73.3%	67.0%
施設	西部公民館	西部公民館	富雄南公民館	西部公民館	西部公民館	西部公民館	西部公民館	富雄公民館	富雄公民館

【曜日別 年間利用率】



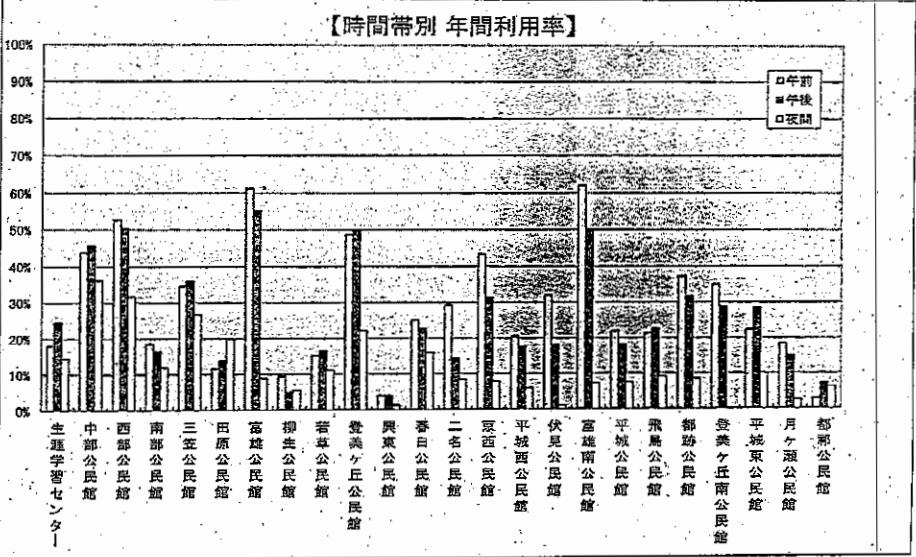
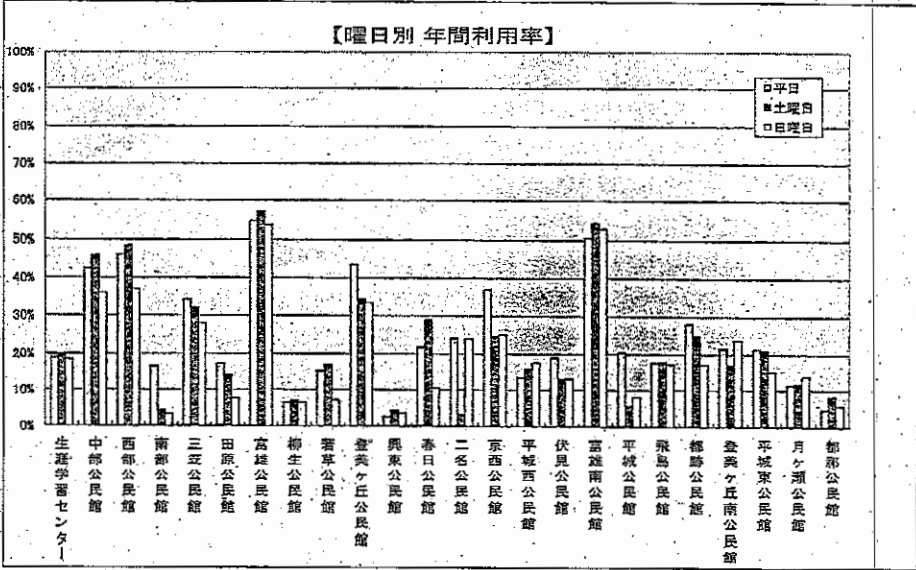
【時間帯別 年間利用率】



施設別 年間利用率(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

施設	平日	土曜日	日曜日	午前	午後	夜間	3年度総合	2年度総合	元年度総合
生涯学習センター	18.9%	19.7%	18.3%	18.0%	24.3%	14.5%	18.9%	16.7%	28.6%
中部公民館	42.4%	45.9%	36.0%	44.0%	45.7%	36.1%	41.9%	42.3%	50.2%
西部公民館	46.1%	48.6%	37.1%	52.8%	50.5%	31.6%	45.0%	37.0%	60.8%
南部公民館	16.6%	4.2%	3.1%	18.6%	16.4%	11.9%	15.6%	18.7%	18.4%
三笠公民館	34.3%	32.1%	28.0%	34.7%	36.0%	26.6%	32.8%	35.9%	43.0%
田原公民館	17.3%	14.2%	7.5%	11.6%	13.8%	19.8%	15.1%	14.5%	16.4%
富雄公民館	54.7%	57.1%	53.7%	61.4%	55.3%	8.7%	54.9%	54.7%	60.7%
柳生公民館	6.4%	7.0%	6.3%	9.4%	4.8%	5.3%	6.5%	4.6%	5.1%
若草公民館	15.4%	17.1%	7.1%	15.2%	16.5%	11.1%	14.2%	15.1%	21.0%
登美ヶ丘公民館	43.5%	34.5%	33.4%	48.7%	49.9%	22.0%	40.2%	41.6%	50.9%
興東公民館	2.5%	4.2%	3.5%	3.8%	3.8%	1.2%	3.0%	3.4%	5.0%
春日公民館	21.9%	29.0%	10.5%	24.9%	22.7%	15.9%	21.2%	21.2%	27.7%
二名公民館	24.2%	3.2%	23.9%	29.3%	14.4%	8.2%	20.5%	26.2%	36.6%
京西公民館	37.0%	24.6%	25.1%	43.5%	31.4%	7.8%	32.8%	33.3%	40.0%
平城西公民館	13.6%	16.0%	17.6%	20.6%	17.7%	5.9%	14.7%	17.0%	25.5%
伏見公民館	19.0%	13.3%	13.2%	32.0%	18.0%	1.0%	17.0%	19.2%	23.1%
富雄南公民館	50.7%	54.2%	52.8%	62.2%	50.1%	7.1%	51.7%	57.8%	58.6%
平城公民館	20.5%	5.6%	8.0%	21.9%	18.0%	7.3%	15.8%	17.8%	21.8%
飛鳥公民館	17.7%	18.0%	17.2%	21.4%	22.6%	8.9%	17.6%	20.3%	28.2%
都路公民館	28.2%	24.9%	17.2%	37.2%	31.7%	8.4%	25.8%	27.6%	37.3%
登美ヶ丘南公民館	21.6%	17.1%	23.7%	34.9%	28.7%	0.0%	21.2%	21.7%	23.0%
平城東公民館	21.4%	21.0%	15.2%	22.3%	28.5%	10.0%	20.3%	22.3%	29.3%
月ヶ瀬公民館	11.5%	11.8%	14.0%	18.4%	15.1%	2.5%	12.0%	8.6%	17.2%
都那公民館	4.6%	8.3%	5.5%	2.9%	7.2%	6.1%	5.4%	4.5%	5.1%

	平日	土曜日	日曜日	午前	午後	夜間	3年度総合	2年度総合	元年度総合
最低値	2.5%	3.2%	3.1%	2.9%	3.8%	0.0%	3.0%	3.4%	5.0%
施設	興東公民館	二名公民館	南部公民館	都那公民館	興東公民館	登美ヶ丘南公民館	興東公民館	興東公民館	興東公民館
最高値	54.7%	57.1%	53.7%	62.2%	55.3%	36.1%	54.9%	57.8%	60.8%
施設	富雄公民館	富雄公民館	富雄公民館	富雄南公民館	富雄公民館	中部公民館	富雄公民館	富雄南公民館	西部公民館



●各施設の概要

令和4年4月1日現在

	公民館(24館)	公民館分館(24館)	地域ふれあい会館(18館)
設置根拠法令	社会教育法 奈良市公民館条例 奈良市公民館条例施行規則		地方自治法 奈良市地域ふれあい会館条例 奈良市地域ふれあい会館条例施行規則
設置目的	公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として設置する。		すべての市民が地域社会のふれあいの中で日常生活を送ることができるよう、地域の交流活動及び福祉活動の拠点として、地域ふれあい会館を設置する。
所管部署	奈良市教育委員会 教育部 地域教育課		奈良市市民部 地域づくり推進課
運営管理	指定管理者(公益財団法人奈良市生涯学習財団)	指定管理者(自治会等、地域団体)	指定管理者(自治会等、地域団体)
料金	使用料	無料	利用料

●公民館・分館と地域ふれあい会館の違い

公民館・分館	地域ふれあい会館
【理想の姿】 専門職員が配置されており、地域の課題やニーズを基に事業を行い、地域住民が気軽に立ち寄り、集える身近な施設。 社会教育法で公民館の事業や運営方針が決められている。 公民館・分館は学習活動の場や事業を提供する必要がある。	【理想の姿】 地域コミュニティ活動の活性化を進めるために、地域の交流活動及び福祉活動の拠点となる施設。 公民館や分館に比べ、設置目的に適っていれば様々な利用に供することができ、利用制限が少ない。

●公民館分館から地域ふれあい会館への移行事例

[平成31年4月1日] 三笠公民館大安寺西分館→大安寺西地域ふれあい会館

[平成31年4月1日] 興東公民館東里分館→東里地域ふれあい会館

[令和2年4月1日] 若草公民館佐保分館→佐保地域ふれあい会館

[令和4年4月1日] 南部公民館明治分館→明治地域ふれあい会館

奈良市公民館運営審議会会議録

令和5年2月15日会議

令和4年度第1回奈良市公民館運営審議会会議録

開催日時	令和5年2月15日(水) 午後1時00分から午後2時30分まで	
開催場所	奈良市役所 北棟4階 402会議室	
議 題 又は 案 件	1 新役員選出 2 令和3年度公民館事業の実施状況及び利用状況について 3 令和4年度公民館事業の進捗状況について 4 令和4年度公民館大会についての報告 5 その他	
出席者	委 員	東委員、虎杖委員、今西委員、奥村委員、杉山委員、橋本委員、伏 浦委員、森委員、吉岡委員 【計9人出席】 (野田委員、福西委員は欠席)
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課長補 佐、生涯学習財団事務局長、生涯学習財団事務局統括主任
開催形態	公開(傍聴人1人)	
決定事項	1 新役員の決定	
担 当 課	教育部 地域教育課	

議事の内容

○教育長挨拶

○【案件1】新役員選出

虎杖委員が会長に推薦され、承認された。

会長が副会長に今西委員、杉山委員を指名し、承認された。

○会議録の署名について

議事に入る前に議長から今回の署名委員の指名及び確認をした(奥村委員と森委員)。

○【案件2】令和3年度公民館事業の実施状況及び利用状況について 資料1

生涯学習財団事務局 令和3年度の公民館事業について以下のとおり説明

- 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、5月中は原則臨時休館、主催事業も5月1日から6月20日までの開催を中止した。年度当初は件数・利用者数が減少傾向にあったが、公民館での活動を再開する人が徐々に増え、令和2年度と比較して

件数は6.8%・1,601件の増、人数は21.8%・58,731人の増となった。

- 公民館 24 館の利用人数については、主催事業が 34,349 人、施設提供が 296,578 人の合計 330,927 人であった。また、主催事業については、498 件・1,483 回を開催した。
- 三笠公民館では、『命をつなぐ支援の力』という講座を、生きづらさを抱える人への身近な支援を知ることがを目的に全2回開催した。講座をとおして自分にできる支援について考える機会となった。
- 春日公民館では、『元気つながり倶楽部』という講座を、主催事業「市民と創る講座作戦会議」の中で出た「自宅に引きこもり孤独を覚えがちな高齢者が増えている。楽しみを見つけ積極的に外出したいと思える場を設けてはどうか」という意見を受けて、参加者同士が交流し、孤立感を和らげることを目的に、全 10 回開催した。簡単な体操やサイコロトーク等を実施し、予想以上の参加者が集まり、高齢者の新たな居場所として定着している。
- 京西公民館では、『笑顔を広げる学習会』という講座を、地域住民が主催講座を企画することで公民館事業に主体的にかかわる機会にすることを目的として開催。地域でボランティア活動をする人などの話を聞き、学習会を重ねる中で企画した主催事業「奈良少年刑務所 絵本と詩の教室」の運営にも携わってもらった。
- 二名公民館では、『できるを伸ばす！弁当の日～子どもだけで作ってみよう～』という講座を開催した。親子参加の講座だが、料理するのは子どもだけ、保護者は別室で講義を受けるスタイルというのが通常の料理教室とは異なる点。献立、買い物、調理、片付けまでを講師の指導のもと自分たちの力で全てやりきること、達成感を味わい、親(保護者)への感謝の気持ちを感じる機会となった。また、保護者は子どもが料理をする上でどのように見守り、声掛けすることがよいかを知ること、子どもの自尊感情を高めることの大切さや自立心の育みにつながることを学んだ。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ♡:回答

委員

- ♡ 公民館周年事業について、去年はコロナで実施が難しく、順延したところがあったが、工夫して今年度行われていた。各所で行われた周年事業の作り方がとても丁寧で、利用者と一緒に周年事業を作っていこうという職員からの働きかけが素晴らしかった。公民館を昔から利用してきた方が登壇されて、昔の公民館は…と振り返るいい時間があった。節目を大切にされていく中で、地区の方々が公民館を自分たちのものとされていくところがよかった。

委員

- ◆ 市民主体で企画されている事業に力を入れている印象がある。直接

講座を企画する場を拝見したことはないが、講座を作るにあたり乗り越えられているハードルがあり、大きな達成感、大きなやりがいを感じているように思う。こういう取り組みを蓄積していく中で公民館をまたいで講座を作ってみようという利用者と企画者との接点や交流などはあるのか。

生涯学習財団事務局 ☆ 現在、具体的な接点があるといったことは聞いてはいない。それぞれの公民館単体での動きとなっている。市民は 1 館のみの利用だけでなく、利用がきっかけとなって他の公民館を利用する人も多くいる。その経験を持って別の公民館を利用し、利用者と繋がる。目に見える経験実績はなくても利用者の輪は広がっているように思う。

委 員 ◆ 横に広がっているというのはすごくいい成果になっていくと感じる。

委 員 ◆ 公民館側が情報収集するのではなく、公民館利用者がひとつずつ情報提供して、公民館に提案する声が上がる、常々の触れ合いからの意見を収集して企画する流れになっているのかと思うが、そういう仕組みでの企画なのか。

生涯学習財団事務局 ☆ 今回紹介した講座は、元々あった主催講座の枠の中で「皆さんと一緒に講座を作ってみませんか？」といった企画があり、そこで参加した方が意見を寄せながら学習を重ねながら作った企画の内容。日々の業務の中で主催事業に参加された方や自主グループの方との関わり、ちょっとした会話や雑談の中に希望や学習のニーズなど、学習の種が落ちている。それを職員が引き出し、今後の講座につなげていきたい。

委 員 ◆ 市民と作る講座の作戦会議など市民が主体的に動くようにと色々されている。そういった会議のファシリテートする役は職員がしているのか。

生涯学習財団事務局 ☆ 職員がやっているケースが多い。京西公民館は、地域でボランティアをやっている方からの話でイメージを膨らませた。市民主体で講座を企画した西部公民館・春日公民館は利用者の意見を職員が聞き、まとめるファシリテーター役を担っていた。

○【案件3】 令和4年度公民館事業の進捗状況について **資料2**

生涯学習財団事務局 令和4年度公民館事業の進捗状況について以下のとおり説明

- 令和4年度もコロナ禍ではあるが、409 件・1,554 回の公民館主催事業を計画。
- 「開館 50 周年記念事業」について、コロナ禍により前年度開催を見送った公民館もあり、令和4年度は4館で開催した。たくさんの方の来館があった。
- 「世界の紛争について考える」講座を2館で実施。
 - 三笠公民館:ロシアによるウクライナ侵攻について、専門家による解説を聞き、平和について考える講座を実施。
 - 京西公民館:ロシアで通訳をしていたが、紛争により緊急帰国した京西地区出身の方によるロシアの歴史や日露間交流の話を聞き、報道では垣間見えない現在のロシア人の姿を知る講座を実施。
- 自主事業:指定管理料とは別に、助成金や委託費によって実施する事業。
- 「キリン・地域の力応援事業」助成金
 - 中部公民館「つながりサポーター養成講座」:奈良市社会福祉協議会と協力し、行政・NPO・大学教授等の有識者を講師に、不登校・引きこもり支援や実践報告、支援者として必要な学びなどを具体的かつ実践的に学習。今後も公民館を実践的な学びの場として活用できるように講座開催や受講者の自主グループ化への働きかけを行う予定。
- 奈良ひとまち大学:地域とのつながりが少ない主に 20～30 代の市民を対象に授業を開催。月に 2～3 回の通常授業のほか、年に 1 回の特別授業があります。
- 奈良市家庭教育サポートネットワーク支援事業:子どもや家庭を取り巻く諸問題の解決を目指すための取り組みで、現在 13 の公民館で実施。
 - 飛鳥公民館「学校現場から見える子育て事情」:飛鳥小学校長より学校現場を通じた昨今の子育て事情を伺い、時代とともに変わる子育てを取り巻く環境や考え方の変化を学び、地域の子育てをみんなでサポートするために何が必要かについての学習会を実施。住民同士の交流の場が必要という課題が見えたため、実践的な解決策として「みんなで遊ぼう! ボードゲーム+α」を開催。ボードゲームや昔遊びなどをコミュニケーションツールにすることで遊びを通して世代を超えた交流を図る。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ♧:回答

委 員

- ♡ 三笠公民館の「女性に焦点を当てた防災講座」について。避難所での女性の危険度がかかり取りざたされており、防災会議では女性目線の

危険に関する意見がたくさん出ている。防災に関する考えが、地域拠点の公民館でも話題になっているのは良いと思う。

委 員

- ◇ 登美ヶ丘南公民館の「英語で国際サロン」について。日本で子育てする外国人が増えている。子どもが幼稚園に入る前に日本に来て、言葉がわからない、それ以上に日本での子育てがわからない外国籍の人が増えていると肌で感じる。その地域の方の集まりやすい地区の公民館で気兼ねなく参加できる講座を企画するのはどうか。地域の拠点と子育て拠点が一緒になった親子への支援が公民館でも必要だと思う。

委 員

- ◇ 地域の拠点である公民館でそういうサポートができればいい。公民館講座についても来年度以降に企画してもらえたらと思う。

委 員

- ◆ 子育てで苦労されている方は多いと思う。今や子育ては保護者(親)だけではなく、祖父母やそれ以外の方が養育している場合もある。子育てをする方の年齢の幅も広がっているため、資料のような分類分けは現代にあっていないのでは。「子育ては〇〇がしなければならない」ではなく「みんなで子育て」をする時代だからこそ、子育てをするみんなが集まれる企画といったものを考えてみてはどうか。

生涯学習財団事務局

- ◇ 分野に関しては公民館で色々な講座を展開するための目安として大きな区分を5分類に分けている。「高齢者のための…」、「女性のための…」という限定的な観点での講座は組んでいない。表にすると分類分けしているようにも見えてしまうため、今後はこちらからの発信の仕方に工夫が必要だと感じた。

○【案件4】令和4年度公民館大会についての報告 資料3

委 員

以下大会について報告

- 令和4年度近畿地区社会教育研究大会〔奈良大会〕
第33回奈良県社会教育研究大会及び第69回奈良県公民館大会合同大会
＜研究主題＞
『人と人、人と地域を結ぶ、社会教育！』
～変化する社会に期待される社会教育をめざして～

開催日:令和4年9月2日(金)

会 場:なら100年会館・ホテル日航奈良

委 員

以下大会について報告

- 第44回全国公民館研究集会和歌山大会及び第69回近畿公民館大会和歌山大会

<研究主題>

誰もが集う公民館～コロナ禍でも人はつながり、笑顔は生まれる～

開催日:令和4年11月10日(木)

会 場:和歌山城ホール

○【案件5】その他 資料4・5

事 務 局 奈良市男女共同参画センターの奈良市生涯学習センターへの移転について以下のとおり説明

- 奈良市男女共同参画センターは、男女の人権の確立を図り、社会のあらゆる分野へ男女が対等に参画し、それぞれの能力を発揮できる豊かで活力のある男女共同参画社会の形成を推進することを目的として設置されている。主に関係団体への貸館、講座の開催及び関係図書への貸し出しを行っている。令和5年4月1日に生涯学習センター2階の一部に移転予定。
- 移転に伴う変更内容として、団体交流室及びビデオ編集室については、公民館施設としては廃止し、男女共同参画センターとして位置づけ。交流スペースについては、男女共同参画センターの交流スペースとしても利用。なお、会議室については使用料を設定し、公民館施設として新たに貸館することとする。
- 移転後の奈良市男女共同参画センターの運用については、開館時間及び休館日は公民館に準ずることとし、料金形態についても、公民館に準じて部屋の面積をもとに設定する。
- 男女共同参画室は令和5年4月1日付けで市役所本庁へ移転。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ☆:回答

委 員

- ◆ 来年度以降の託児室の運用はどのようなになるのか。

事 務 局

- ☆ 運用の詳細については現在試行錯誤しているところだが、男女共同参画センターと生涯学習センターが相乗効果でお互いに良い影響を与えられるような施設を目指している。

委 員

- ◆ 指定管理者は生涯学習財団ということでよろしいか。

事務局 ◇ 3月議会にて提案し、議会の承認を経て決定される予定のため、正式な決定はこれから行われる。

委員 ◆ 男女共同参画センターが生涯学習センターに移転することに伴い、予約が取りにくくなることが考えられるが、貸館に関して平等に予約が取れるようにしていただけないか。

事務局 ◇ 令和3年度の男女共同参画センター年間利用率は10%に満たない。このことから、公民館利用に大きな影響を与えるとは考えにくい。男女共同参画センターが移転してからも、公民館の利用についてはどちらかが不利になるということではなく、これまでどおり公民館ルールに則って同じ土俵で利用していただきたい。

委員 ◇ 男女共同参画センターの移転に伴い、移転先の生涯学習センターのスペースは変わらないので、機能が積み重なった時に、利用者から今までどおりの活動ができるのかという不安や心配が出てくるのは当然。事前のプロセスをどれだけ丁寧に踏めるかが肝になる。また、移転先がなぜ生涯学習センターなのかという意義を利用者に説明していくことこそが不安を解消する鍵になる。現代的な課題として、多様性を尊重しあうような社会を共に作っていくという社会教育の役割が非常に大切になっている。利用者に意義を共有し、男女共同参画センターを生涯学習センターに位置付けることで、さらに私たちの公民館が前進するというビジョンが見え、利用者からも今後はこんな風にしたいという声が生まれてくるのではないか。

事務局 ◇ 男女共同参画センターと生涯学習センターでは、利用団体に対して貸館をすることや講座や教室を開くという点が似ている。また、社会教育の中には人権やジェンダー、女性の活躍等が含まれることもあり、移転先に生涯学習センターがいいのではないかという結論に至った。当課としても、もう少し先のビジョンも含めて利用者の方に共有をし、より良いものを作り上げていくことが大事だと考えている。

委員 ◇ 男女共同参画センターと生涯学習センターは、非常に相乗効果を狙いやすい条件下にある。希望として、今後の公民館運営審議会の中では、男女共同参画センターと生涯学習センターを全く別の施設として扱うのではなく、生涯学習センター全体として捉えたい。

事務局 ◇ 公民館運営審議会の中で来年度以降の報告をどうするかについては、今後当課でも整理させていただきたい。

事務局 公民館をとりまく諸課題と今後の方向性について以下のとおり説明

- 社会の変化に伴って公民館に求められるものも変化している。今後の公民館の在り方を考える時期にきているのではないかと考えている。その中で、公民館をとりまく諸課題については、運営面であれば地域ニーズの多様化・複雑化、利用者の固定化、施設面では老朽化やバリアフリー化が進んでいないこと、維持補修が予算の面でも困難だということ、社会的背景については人口減少・少子高齢化、ICT 社会の到来が考えられる。
- 求められる新たな姿としては、運営面では地域のニーズに応じた社会教育事業を展開することや子育て世代・若者支援の充実化、施設面では効率的で効果的な施設運営、誰もが利用しやすい施設であること、社会的背景では人生 100 年時代を踏まえた街づくり、デジタルリテラシーを地域全体で高めることなどが考えられる。いま、生涯学習や社会教育はより大切だという局面にきている気がしている。今後の公民館を見据えて、改革や改善に取り組む必要がある。
- 奈良市ではいわゆる行政改革にも取り組んでおり、学校であれば子どもたちが少なくなる中で統廃合を行ったり、幼稚園は時代のニーズに合わないためこども園に作り替えたりと変革をしている。公民館がこれまで積み重ねてきたものや今後も引き継いでいかなければならないものはあるものの、新たな工夫や変化も必要。
- 目指すべき今後の公民館の方向性として、「地域や市民ニーズに寄り添ったより一層の生涯学習や社会教育の充実」、「様々な方法を取り入れた施設運営」を挙げている。たとえば年代に関係なくスマホの使い方などのデジタルリテラシーを高めなければ、場合によっては社会から切り離されてしまうので、これから求められるニーズについてより一層公民館で取り組まなければならないと考えている。また、地域からの要望で幅広い使い方をしたいということで今までに3つの分館がふれあい会館となっている経緯がある。施設管理については地域の方に参画いただき、中身については、それに伴う人的余裕で社会教育の専門である生涯学習財団が行うなど、限られた資源の中で施設を運営していく方法もある。

【質問・意見等】 ♡:意見 ◆:質問 ◇:回答

委員

- ♡ 分館がふれあい会館となったことにより、利用者が少し増えてきている。料金は発生するものの、その費用で修繕費を賄っていたり、清掃業務についても地域の団体に年間契約で委託したりと収益事業のなかで上手にやりくりをしている。

委 員	Ⓐ 求められる新たな姿はとても理想的だが、それに伴う予算の増額必要。
委 員	Ⓐ いまは社会教育の面で公民館に協力してもらい、まずは地域力を上げたい。地域に任せたとしても地域人材がまだまだ育っていないので、受けたとしても維持はできない現状にあると思う。
委 員	Ⓐ 若者が地域に繋がるきっかけとなるよう、公民館の情報発信は積極的にネットで行う取り組みを検討していただきたい。
資 料	
会議次第 委員名簿 令和3年度事業資料 令和4年度公民館要覧及び事業資料 令和4年度公民館大会資料 奈良市男女共同参画センターの奈良市生涯学習センターへの移転について 公民館をとりまく諸課題と今後の方向性について	